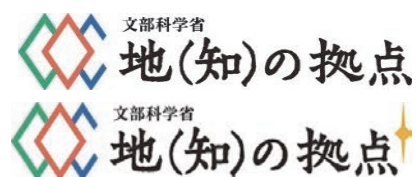


ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学
岐阜でステップ×岐阜にプラス、地域志向産業リーダーの協働育成

ぎふフューチャーセンター実施報告書

平成 28（2016）年度

岐阜大学地域協学センター



地域協学センター・フューチャーセンターの取り組み

岐阜大学は、『学び、究め、貢献する』地域に根ざした国立大学」を理念として掲げて、広く地域の要請と期待に応えられるよう努めています。「地域に根ざした大学」を目指して、岐阜大学は、地（知）の拠点として、全学体制で地域の課題を解決すべく、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC（Center of Community）事業）において、「ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学」が採択され、COC 事業の実施支援機関として、平成 25 年 12 月に地域協学センターを設置しました。また、岐阜大学では「地域にとけこむ大学」を目指し、平成 27 年度に採択された「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」として、他大学・企業・自治体・金融機関が協働して地元企業と学生との関わりを強化し、地域のニーズにより適合した人材を育成することで地元定着を促進し、大学の知を活用した産官学共同研究を通じて、産業振興と雇用創出を図る取り組みを進めています。

地域協学センターでは、「次世代地域リーダーの育成」、「多様な人々が集い対話する『場』の設置」及び「地域志向学プロジェクトの推進」を 3 つの柱として取り組んでいます。2 つ目の柱であるフューチャーセンター（Future Center）とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ（課題）について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指し、岐阜大学ではこのような地域との対話を創発するためのフューチャーセンターや多様な人との交流ができる空間を構築・運営し、地域との「協学」を推進しています。

平成 28 年度は、ぎふフューチャーセンターとして、自治体連携 9 回に加え、COC+ 事業として「企業・学生・大学の関係者にとってより良いインターンシップとは何かを考えよう」をテーマに開催しました。その他、高山市で開催した岐阜大学フェア、フィールドワーク実習、地域志向学プロジェクトとのコラボレーションとしたぎふフューチャーセンターを新たに行いました。こうした取り組み内容および成果をご報告申し上げます。今後も、岐阜大学における地域連携の取り組みを広く知っていただくと同時にさらなる地域への貢献を目指し、ぎふフューチャーセンターの活動を展開していきたいと考えております。

ぎふフューチャーセンターの実施において、関係各機関・施設・団体・企業の皆様には多大なるご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、参加者をはじめ地域コーディネーターやスタッフの皆様にはプログラムの運営等でサポートいただき、ありがとうございました。今後ともご指導ご協力いただきますようお願い申し上げます。

2017 年 3 月

地域協学センター

フューチャーセンター部門長 三井 栄

目 次

第1回 ぎふフューチャーセンター 「若者よ、投票に行こうⅡ」	1
5月27日(金) 会場: 岐阜大学サテライトキャンパス 主催: 岐阜大学・岐阜市	
第2回 ぎふフューチャーセンター 「空き家で空き家を考える～佐野の事例を対象に～」	15
6月29日(水) 会場: 岐阜市佐野の空き家 主催: 岐阜大学	
第3回 ぎふフューチャーセンター 「国際交流機会の増加をめざして、郡上の魅力を考えよう」	25
7月15日(金) 会場: 古今伝授の里フィールドミュージアム篠脇山荘 主催: 岐阜大学・郡上市・郡上市国際交流推進協議会	
第4回 ぎふフューチャーセンター 「岐阜県への移住定住を考える」	37
8月8日(月) 会場: 岐阜大学サテライトキャンパス 主催: 岐阜大学・岐阜県	
第5回 ぎふフューチャーセンター 「運動を始めるきっかけづくりについて考える」	47
10月19日(水) 会場: 岐阜大学サテライトキャンパス 主催: 岐阜大学・岐阜市	
第6回 ぎふフューチャーセンター 「ジビエ肉が家庭で食べられるようになるには」	57
11月16日(水) 会場: 郡上市大和庁舎 主催: 岐阜大学・郡上市・郡上やまと獣肉利活用推進協議会	
第7回 ぎふフューチャーセンター 「リニア岐阜県駅を活用した観光について考える」	71
11月19日(土) 会場: 中津川市坂本公民館 主催: 岐阜大学・岐阜県	
第8回 ぎふフューチャーセンター	81
「企業・学生・大学の関係者にとってより良いインターンシップとは何かを考えよう」 1月25日(水) 会場: 岐阜大学サテライトキャンパス 主催: 岐阜大学	
第9回 ぎふフューチャーセンター	91
「若者が歩きたくなる“羽島市竹鼻まちなか”散策コースを考えよう！」 2月1日(水) 会場: 羽島市役所 主催: 岐阜大学・羽島市	
第10回 ぎふフューチャーセンター「現場で探る、商店街の課題と可能性—多治見ながせ商店街—」	97
2月21日(火) 会場: 多治見まちづくり株式会社事務所 主催: 岐阜大学・岐阜県・多治見市	
ぎふフューチャーセンター×岐阜大学フェア	115
「市民と学生が岐阜大学と地域のつながりについて考える～次世代を担う若者に向けて～」 11月12日(土) 会場: 飛騨・世界生活文化センター 主催: 岐阜大学	
ぎふフューチャーセンター×フィールドワーク実習 「母袋の地域資源を磨き上げよう」	121
12月4日(日) 会場: 上栗巣集会所 主催: 岐阜大学・母袋わくわく会	
ぎふフューチャーセンター in 高山 「地域リーダーとして地域貢献」	127
1月23日(月) 会場: 高山市役所 保健センター 主催: 岐阜大学・高山市	
ぎふフューチャーセンター×地域志向学プロジェクト	133
「地域志向学とは何か—研究対象となっている「地域」とは何か」 2月14日(火) 会場: 岐阜大学インキュベーション施設1階ミーティングルーム 主催: 岐阜大学	
FD・SD (Faculty・Staff Development: 教職員向け研修)	175
平成28年度フューチャーセンター部門検討事項に関する報告	143

第1回 ぎふフューチャーセンター

若者よ、投票に行こうⅡ

平成28年5月27日（金）

会場：岐阜大学サテライトキャンパス

主催：岐阜大学・岐阜市

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 1 回 りふふチャーセンター	
会場	岐阜大学サテライトキャンパス
日程	平成 28 年 5 月 27 日（金） 13:30～15:40
背景	平成 27 年 6 月、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、年齢満 18 歳以上満 20 歳未満の者が選挙に新たに参加できることとなった。平成 28 年 7 月には、大学生全員が選挙権を持つことになってから、初の国政選挙となる第 24 回参議院議員通常選挙が行われる。 昨今、選挙の投票率については全国的に低下しており、岐阜市においても例外ではない。その中でも年齢が若いほど関心度や投票率が低い傾向にある。
目的	昨年度、開催した「若者よ、投票に行こう」の FC の結果や、近く実施される 7 月の参議院選挙において、岐阜大学内に期日前投票所が設置されることを踏まえ、投票環境の充実が実際の投票行動につながるよう、社会全体で主権者意識を高める方法を大学生と市民等が議論することで、若者の投票に対する意識の醸成を図る。さらに、選挙啓発や教育の方法等、若者が投票するようになるためのアイデアや方法を考える。
テーマ	若者よ、投票に行こうⅡ
サブテーマ	（１）主権者をどう育成するのか （２）18 歳選挙権へ向けて自分たちに何ができるのか
参加者構成	25 人 岐阜大学生 14 人 岐阜市職員 10 人 地域 1 人
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	田中 伸 教育学部准教授
当日のスケジュール	13:30～ 開会・FC 説明（15 分） 13:45～ 情報共有（5 分） ・岐阜市選挙管理委員会事務局から、7 月の参議院選挙前までの投票率データ（全国、岐阜市）等の説明 13:50～ 情報提供（25 分） ・田中准教授から、「市民を育てる方法論」を紹介 14:15～ フューチャーセンター ・第 1 セッション（20 分） 14:35～ ・情報提供（田中准教授から）（5 分） 14:40～ ・第 2 セッション（25 分） 15:05～ ・まとめ（15 分） 15:20～ ・発表・コメント（10 分） ～15:40 アンケート・閉会
FC 後の展開	・岐阜市選挙管理委員会事務局及び岐阜大学の有志の学生等による選挙の啓発活動や、岐阜大学構内での期日前投票所の設置につながった（※詳細は後述）。

出された意見	【1 グループ】 ・①学校教育を軸とし、それを②家庭、職場、地域へと広げる ①学校 学校の教員に対して、主権者教育を行い、教員に対する主権者教育を実施 市と連携して、授業参観などで主権者教育を実施 生徒会の選挙では、公約を分析して選挙を実施 ②家庭、職場、地域へ 子どもが学校の主権者教育を、家庭（親）で話す 親が職場や地域で話す ・情報発信 ツイッターなどのメディアを活用 ・選挙会場でイベントを行う 【2 グループ】 ・生徒会に休み時間や授業時間を変更するなどの大きな権限を持たして、生徒会の選挙を行う ・高校までは、生徒会が選挙で選出されるが、大学でも、学生から代表を選んで、学生の要望などについて、大学側と話をする ・近所同士など地域で選挙に関して話し合う ・ユーチューブなど動画サイトやCMなどで選挙のPR ・エリアメールなどで投票を呼びかけ ・職場で投票 day を設定し、仕事を切り上げ、従業員みんなで投票に行く ・投票所の入り口で、manifesto を調べずに来た有権者のために、候補者の情報を掲示 【3 グループ】 ・学校、家庭、地域で選挙に対する意識づけが重要。 学校…意識を高める授業 家庭…強制的に子供と投票に行く 地域…みんなで話し合う機会を増やす ・メディア発信 ユーチューブ、フェイスブック、ツイッターで広報 候補者の演説では、30 秒ぐらいの短い動画を流す 【4 グループ】 ・①選挙自体に興味を持ってもらうことと、②候補者に対して興味をもってもらうことが重要 ①選挙自体に興味を持つ <受動的な活動> 家庭で親が子どもに選挙に教える 親が子どもと選挙に行く 学校で選挙に対する教育を行う 自動的に情報が入ってくるように <能動的な活動> 大学生になったら、能動的に関わることが重要 今回のようなワークショップに参加 <その他> 商店街で使えるクーポンなどのインセンティブをつけて、選挙セミナー等を実施 選挙に行く予定でなくても、ついでに行けるように、ショッピングセンターなどに投票所を設置
--------	---

	②候補者に対して興味を持つこと ・当選させたい候補者自身を知ってもらって、投票する ・manifestoの情報が得やすいようにする <選挙カフェ> ・受動的な活動と、能動的な活動の融合 ・週 1 回の候補者による選挙活動や、カフェのメニューを工夫するなどして、選挙に全く興味ない人も、興味を持てるようなもの ・セミナー参加などによる能動的な活動 【5 グループ】 ・主権者教育を学校と地域で行う 学校…税や議会のしくみの教育を行う 地域…祭りや地域清掃などの行事の中で、身近な市議会議員と交流する ・白紙投票 支持する政党がない場合は、白紙で出すことを広める。白紙で出すことも意思表示。白紙投票の理由を書いて、manifestoの改定につなげ、意見がmanifestoに反映されているという実感により、投票率を高める
担当職員感想（岐阜市）	・大学生全員が選挙権を持つことになってから、初の国政選挙となる参議院選挙にあわせ、若者の投票に対する意識の醸成に一定の効果があった。 ・今回出された選挙に関する啓発案について、岐阜市選管で今後の啓発に活かしていく。
自治体等との調整過程	・4月 岐阜市選挙管理委員会事務局(以下、岐阜市選管)との調整開始 5月上旬 岐阜市選管と企画内容を協議 - ファシリテーターとの打合せ
報道等	ぎふチャン ステーション (H28. 5. 27 18:15～) ニュース (同日 20:54～) 岐阜新聞 朝刊 (H28. 5. 28) 中日新聞 朝刊 (同日) 読売新聞 朝刊 (同日)
企画担当者所見	・若者の投票に対する意識の醸成に、一定の効果があり、若者の積極的な投票行動が期待される。 ・昨年度に引き続き、継続的に選挙をテーマとしたFCを開催することに意義があった。 ・選挙の話題での対話の場が増えることが期待される。 ・7月の参議院選挙にあわせ、FCを実施することとしたため、短期間で準備することとなり、参加者募集期間が短くなった。

(地域コーディネーター(岐阜市派遣) 中尾 真一郎)

【参考：FC 後の展開①】

	参議院議員選挙にかかる選挙啓発活動
場所	岐阜大学内の大学会館前のほか、バスロータリー付近、第二食堂前など
日程	平成 28 年 6 月 22 日（水）12：00～12：40
参加者	岐阜市選挙管理委員会、岐阜県選挙管理委員会、岐阜大学の有志の学生
内容	6 月 22 日（水）の昼休みに、岐阜市選挙管理委員会と岐阜大学の学生有志による選挙啓発活動が実施された。今回の啓発活動は、7 月 10 日に参議院議員選挙をひかえ、岐阜大学内へ期日前投票所が設置されたことに伴い行われた。 当日は、大学生全員（18 歳以上）が選挙権を持つことになって、初の国政選挙となる参議院議員選挙の公示日でもあり、岐阜大学内の大学会館前のほか、バスロータリー付近、第二食堂前などで、選挙啓発に関するチラシと啓発グッズを配布し、7 月 10 日の投票と期日前投票所の利用を呼びかけた。今回の啓発活動を行ったことで、学生の選挙意識の向上が期待される。
報道等	岐阜新聞 朝刊（H28. 6. 23） 中日新聞 朝刊（同日） 読売新聞 朝刊（同日） 朝日新聞 朝刊（同日）

【参考：FC 後の展開②】

	参議院議員選挙にかかる期日前投票所の設置
場所	岐阜大学 大学会館 2 階 第 6 集会室
日程	平成 28 年 7 月 1 日（金）10：00～16：30
内容	7 月 1 日（金）、本学大学会館 2 階 第 6 集会室に、第 24 回参議院議員通常選挙の期日前投票所が設置された。 当該選挙は、選挙権年齢が 18 歳に引き下げられてから初めての国政選挙ということで、特に若者の政治参加について高い関心を集めていることもあり、本学においても、学生及び教職員が積極的に政治参加できる機会を設けること及び政治参加への関心を高めることを目的として、岐阜市選挙管理委員会により期日前投票所が設置された。 この日、計 246 名が当該投票所を利用し、内 66 名が学生の利用だった。
報道等	岐阜新聞 朝刊（H28. 6. 21） 朝日新聞 朝刊（H28. 6. 22）

【参考：FC 後の展開③】

	岐阜県知事選挙にかかる選挙啓発活動
場所	岐阜大学内の大学会館前など
日程	平成 29 年 1 月 12 日（木）12：00～12：40
参加者	岐阜市選挙管理委員会、岐阜県選挙管理委員会、岐阜大学の有志の学生
内容	1 月 12 日（木）の昼休みに、岐阜市選挙管理委員会と岐阜大学の有志の学生による選挙啓発活動が実施された。 当日は、岐阜県知事選挙の公示日でもあり、悪天候の中、岐阜大学内の大学会館前などで、選挙啓発に関するチラシと啓発グッズを配布し、1 月 29 日の投票と期日前投票所の利用を呼びかけた。今回の啓発活動を行ったことで、学生の選挙意識の向上が期待される。
報道等	岐阜新聞 朝刊（H29. 1. 13） 中日新聞 朝刊（同日）

【参考：FC 後の展開④】

	岐阜県知事選挙にかかる期日前投票所の設置
場所	岐阜大学 大学会館 2 階 第 6 集会室
日程	平成 29 年 1 月 20 日（金）10：00～16：30
内容	1 月 20 日（金）、本学大学会館 2 階 第 6 集会室に、岐阜県知事選挙の期日前投票所が設置された。今回、昨年 7 月の参議院議員選挙に引き続き、学生及び教職員が積極的に政治参加できる機会を設けること及び政治参加への関心を高めることを目的として、岐阜市選挙管理委員会により期日前投票所が設置された。この日、計 117 名が当該投票所を利用した。

平成28年度第1回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果

参加者 25名 回答者 24名 回収率 92%

1. 性別

①男性 18名 ②女性 6名

2. 年代

①10代 ②20代 17名 ③30代 6名 ④40代 1名 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上

3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 18名 ②2回目 6名 ③3回目 ④4回目 ⑤5回目以上

4. FCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 23名

②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 7名

③大学又は行政が身近な存在に感じられた

④その他

5. 政治に関心がありますか？

①とても関心がある 6名

②少し関心がある 16名

③あまり関心がない 2名

④まったく関心がない 0名

⑤その他 0名

6. 今後、選挙に行こうと思いますか？

①必ず行こうと思う 21名

②興味があれば行こうと思う 3名

③行こうと思わない 0名

④わからない 0名

⑤その他

7. FC参加前、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることを知っていましたか？

①知っていた 24名

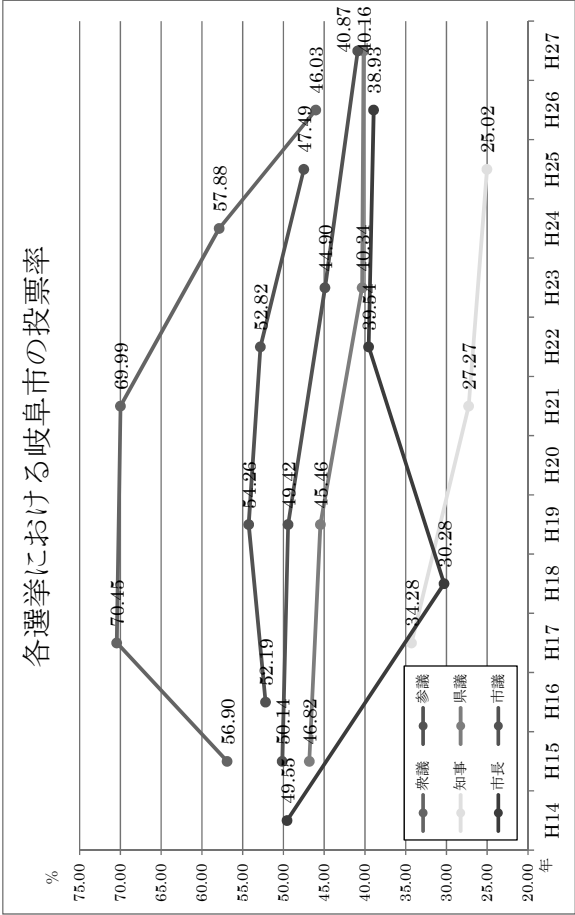
②知らなかった 0名

8. 今回のFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう(又は業務に活かそう)と思うこと、③感想などをご記入ください。

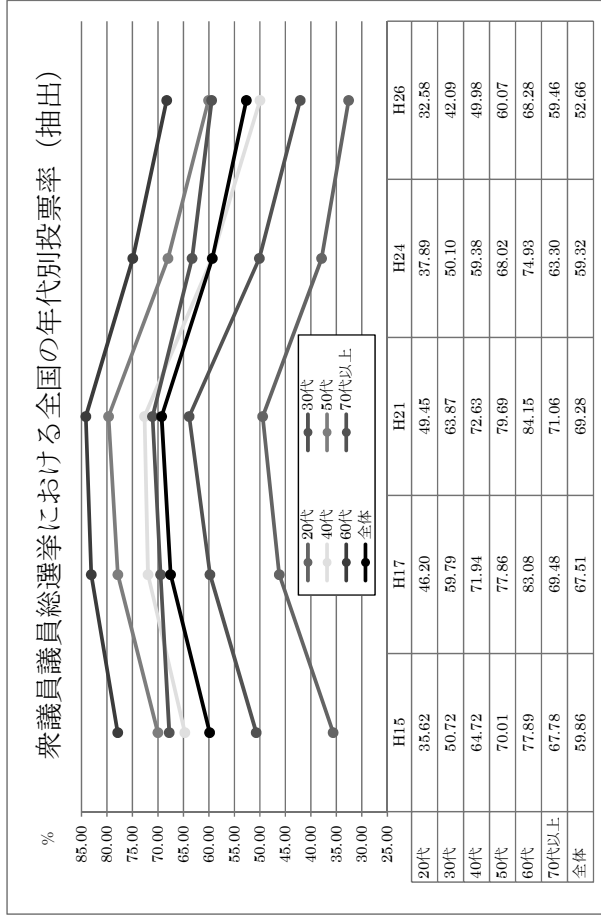
市民目線の意見を聞く良い機会であると思う。ただ、年代等様々な人たちに参加してもらう方法を考えて開催することが必要だと思った。 ①学生の方も、選挙に対して強い思いを持っている方がいるということが知れて良かったです。 ②FCのようにフランクな話し合いを軽くでも同様や上司と行うことで、業務改善を自分の係でもできたらと思います。 ありがとうございました。 職場以外(大学生)の方と様々な意見を交換することができて、非常に有意義となった。 また、他人まかせ、当事者意識の欠如が招く機能不全の状態になっている社会を感じる事ができた。 他人任せではなく、今後日々に対し、能動的に当事者意識をもって対応していくことが何より大切だと思う。 今後も職場の中で、小さなことから当事者意識をもって業務等に取り組んでいきたいと思う。日々反復していきたい。 学生の方々の意見が聞けたことがとても面白く、興味深かった。 普段、大学生の方と意見を交換する機会がないので、このような機会で見聞を聞けることは新鮮でよかった。 まちづくり支援の中で、様々な意見が出ることは当然のようにあります。正誤はなくそれぞれが真剣なので、調整していくことの難しさを感じました。 意見を出し合う場で、自由な発想が出て良いと思う。 自治会での寄り合いでは、方針を決めて実行しなければならないため、意見や発想に自由さが無いように思います。 自由な発想を参考にできるように、議事録などを公開できるようにするとよいなあと思います。 1つのテーマに沿って、社会人、学生が対等な立場で話し合うことにより、様々な意見が出たことが面白かった。 グランドルールである、他人の意見を尊重し、否定しないということで、意見も出しやすくなる仕組みになっていたと感じた。 今後、仕事で意見を出し合う場で、活かしたいと感じた。 ・わかりやすかったです ・今後の18歳引き下げの成功をお祈りします。 ①様々な立場の人の意見は、自分にはない意見を持っていて、勉強になった。 ②業務に関係のない人の意見を聞いてみようと思う。 ③色んな意見が出て、時間がたつのがとても速かった。普段から、情報について、自分なりの意見を持つことの重要性がより理解できた。
--

自分は将来教員になろうと考えているので、今日得ることができた様々な考えを教育の現場に生かしていきたいと思った。特に生徒会選挙のあり方、授業参観での選挙啓発授業、市と学校で連携したイベントの開催はなかなか実践までは困難で時間はかかると思うが取り組んでいきたいと思った。本当に貴重な学びになったので、良かった。
立場や年齢の違いから意見が全く異なることについて話し合いを通して感じる事ができて良かったです。社会をつくる一員として積極的に市政に国政に参加していきたいと改めて感じるとともに教育者を目指す者として、主権者教育を展開し、発展させていきたいと思います。
自分と違う立場(職種や年齢など)の方々と意見を交換することで、新しい考え方や意見を知ることができた。このような多くの人と意見交換する機会は、自身の世界や考え方を広げることにつながると思うので、大切にしたいと思う。非常に興味深かった。
選挙について、他の学生・社会人の方と話し合うことがこれまでなかったので、とてもよい機会となりました。他の人の意見を聞き、新たな意見が得られたので、今後に生かしたいと思う。是非、次の選挙はしっかりと知識を持ってから、投票に行こうと思います。
①皆さんが思っていたよりも選挙に興味があった。今回の話し合いで投票率を上げたいという思いの下、議論していましたが、時間が短かったので、なかなか煮詰めることができませんでした。しかし、自治体の方側からの意見や学生目線の意見など、幅広いアイデアが出たので、議論自体はとても興味深く取り組むことができました。また、白票投票を進める面白いアイデアもあって、自分の知識も広がりました。
②選挙に行こうと思いました。若者の投票が少ないのは知っていましたが、選管の方が困っている様子を見て、本当に行こうと思いました。
候補者の考え(マニフェスト)を理解するのは大変だが、必要(＋手間である)。また、自分は理解したいと思うが、どうやっていけばいいのかわからない。選挙が面倒と考えている人間の中には、候補者の考えを理解しようとしたが、結局断念してしまった人もいると思うので「情報はこうやって得る」みたいな本を出して、メディアでこぞってほめちぎってベストセラーにしてみんなに興味本位で読ませれば良いと思う。
選挙に関して、このように皆で話し合いをする機会がないので、とてもいい場となった。自分だけではできることのない意見も多くあり、多くの意見を広く知ることができてよかった。
選挙に関して、いざ考えてみると意見をなかなか出すことができず、考え方があまかったと感じた。自分にもできる身近なことから始めていくことでできればよいと感じた。
①主権者との意識が高まった。 ②選挙に行こうと思う ③いい経験になった
①社会人の方々と話し合うことで、視野が広がりました。物事の考え方が段階的に整理できており、感心しました。 ②まずは、選挙に参加しようと思います。 ③意見をまとめて発表することは面倒くさいかもしれないが、個人的には楽しかった。
今日参加するまでは、選挙には何となく言っているような形で、選挙について真剣に考えたことはあまりありませんでした。参加してみて、選挙についてより興味を持つことができました。今後は、自分から能動的に動いて、選挙には必ず参加していきたいと思います。また、このようなワークショップは、一人で考えるよりもよい意見が出ると思うので、積極的に参加していきたいと思いました。
①選挙についての年代別の投票率など知らなかった選挙の基本的な情報をしることができた。選挙に興味を持ってもらえるために、多くの人の意見を知り、それについて考えることができた。 ②自分ひとりではできることが限られているので学校単位で意識を変えたい。
①若者が投票に行くためにどのような政策が良いのかを考えることができた。 ②今後、選挙があるときには積極的に参加して、周りの友達にも知らせるようにしていきたい。 ③このような場をいただいて自分の意見などを主張できてよかった。
自分が思いつかない考えが知れたのでよかった。18歳選挙権ということであるが、若干年齢が高いような気がする。また、若者の政治意識を高めるためにということであるが、参加者が足りていなさそうなのは皮肉だとは思った。
①ぎふFCの取り組みや若い人たちの選挙に関する考え方や、異なった視点からの意見などを知ることができてよかったと思います。 ②若い人たちの考え方や、選挙管理委員会の方のご意見を念頭に置いたうえで、今後、自治体の職員として若者だけに限らず多くの人に選挙に参加してもらうためにできることはないか考えながら職務に励みたいです。 ③多くの立場の異なる意見を聞けてとてもためになったと思います。本日は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

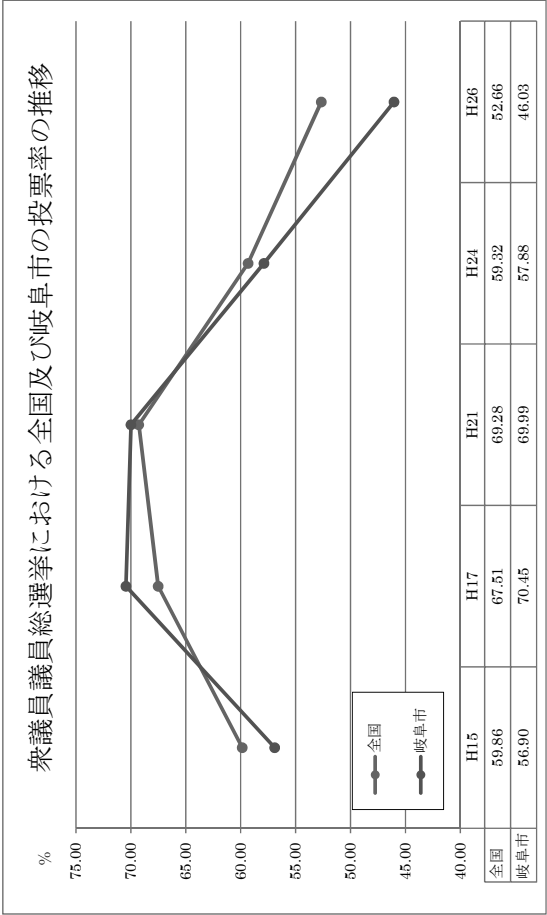
平成28年5月27日(金)



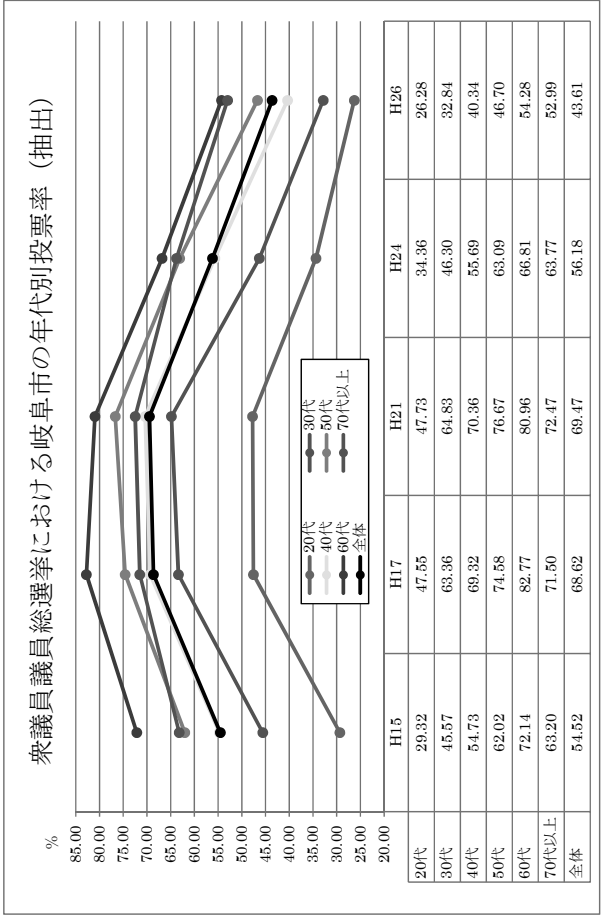
平成28年5月27日(金)



衆議員議員総選挙における全国及び岐阜市の投票率の推移



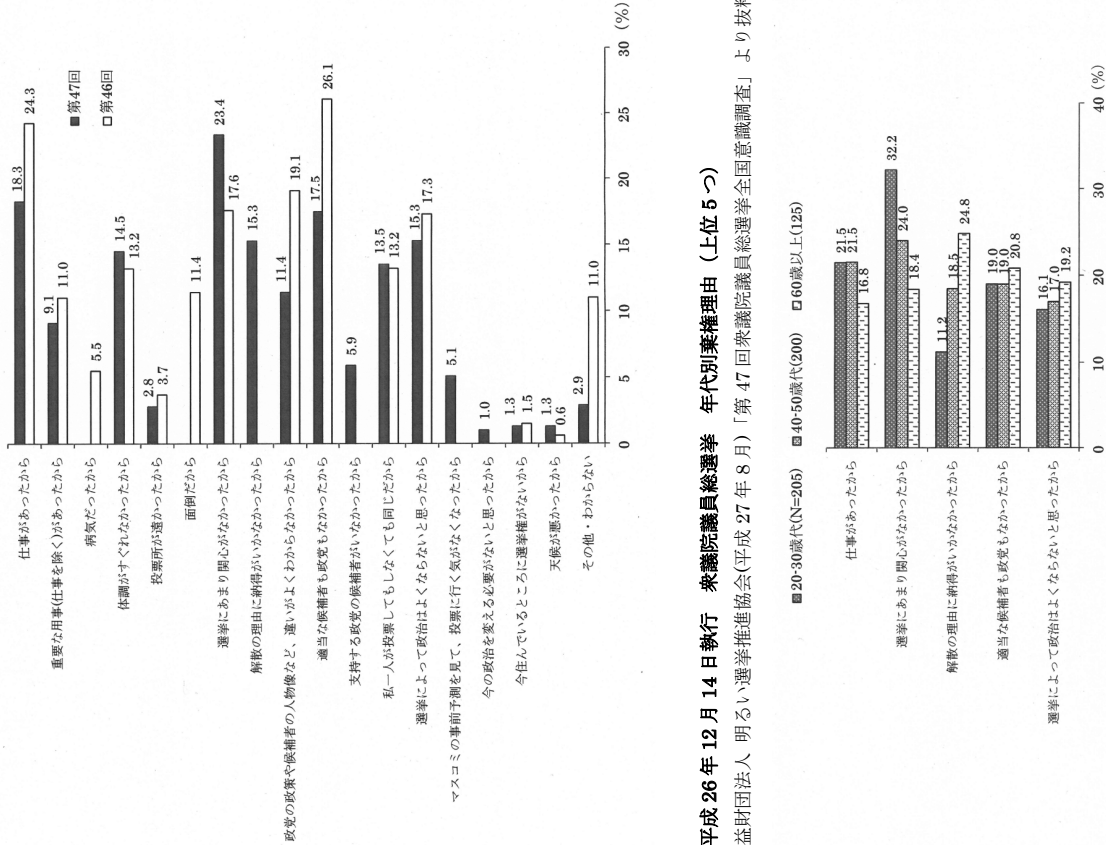
衆議員議員総選挙における岐阜市の年代別投票率 (抽出)



平成28年5月27日(金)

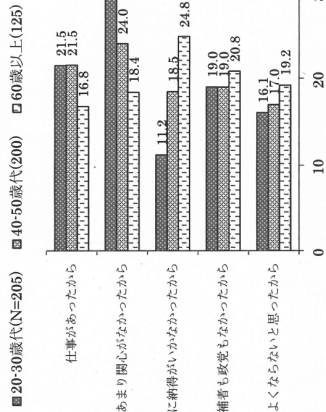
Q. 平成26年12月14日執行 衆議院議員総選挙 棄権理由(複数回答)

(公益財団法人 明るい選挙推進協会(平成27年8月)「第47回衆議院議員総選挙全国意識調査」より抜粋)



Q. 平成26年12月14日執行 衆議院議員総選挙 年代別棄権理由(上位5つ)

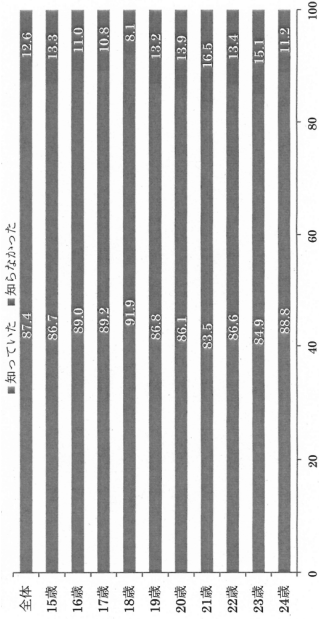
(公益財団法人 明るい選挙推進協会(平成27年8月)「第47回衆議院議員総選挙全国意識調査」より抜粋)



平成28年5月27日(金)

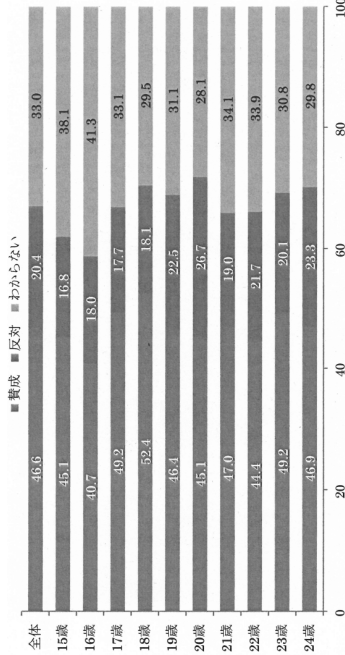
Q. 参議院選挙から18歳以上の人が投票に参加できるようになることを知っていますか?

(公益財団法人 明るい選挙推進協会(平成27年7月)「18歳選挙権認知度調査」より抜粋)



Q. 選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたことに、賛成ですか、反対ですか?

(公益財団法人 明るい選挙推進協会(平成27年7月)「18歳選挙権認知度調査」より抜粋)



ぎふフューチャーセンター
「若者よ、投票に行こうⅡ」参考資料

平成２８年５月２７日（金）

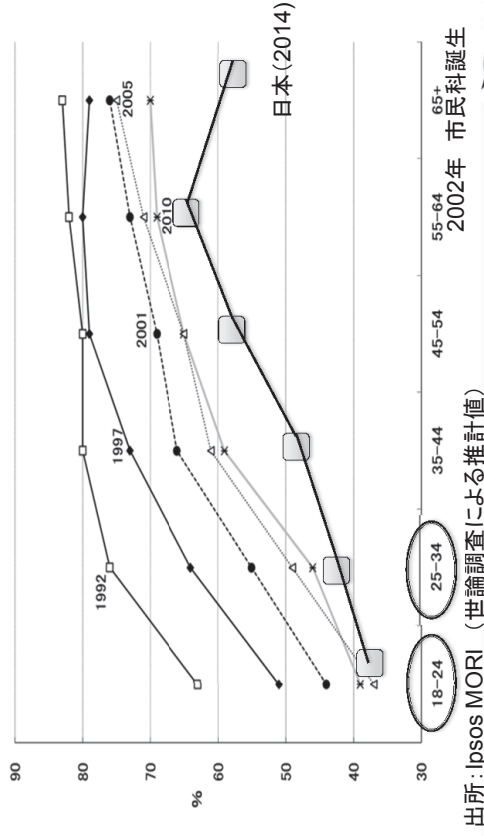
Q. なぜ賛成なのか。あなたの考えに近いと思われるものをいくつか選んでも選んでもください（複数回答）
（公益財団法人 明るい選挙推進協会（平成 27 年 7 月）「１８歳選挙権認知度調査」より抜粋）

	若者の意見を より反映させる ことができるか から	若者の意見を より反映させる ことができるか から	若者の政治へ の関心を高め るために有効と 思われるから	政治家が若者 の政治を 向けての政策を 実行するよう促 すことができる から	ほとんどの国 は 18 歳から選 挙権を与えて いるから	10代でも社会 人として参加し てくれるから	その他	わからない	一人当たり 選票数
全体	53.4	60.8	47.9	23.7	23.0	20.8	2.7	2.5	2.3
15歳	58.8	66.7	56.9	14.7	30.4	15.7	2.0	1.0	2.5
16歳	49.0	63.4	42.8	16.6	24.8	12.4	1.4	5.5	2.2
17歳	51.3	59.3	46.7	18.7	25.3	12.7	2.0	4.7	2.2
18歳	53.4	68.4	54.6	27.0	25.3	18.4	2.9	0.6	2.5
19歳	53.8	61.5	45.4	31.5	23.8	23.1	6.2	3.1	2.5
20歳	57.7	52.3	49.2	20.0	20.0	23.8	0.8	2.3	2.3
21歳	54.2	64.1	56.5	27.5	22.9	20.6	2.3	3.1	2.5
22歳	54.0	59.7	41.0	30.9	20.1	25.9	4.3	2.2	2.4
23歳	56.5	57.1	47.6	25.9	21.8	30.6	2.7	0.7	2.4
24歳	47.7	55.6	40.4	21.9	17.2	24.5	2.6	2.0	2.1

Q. なぜ反対なのか。あなたの考えに近いと思われるものをいくつか選んでも選んでもください（複数回答）
（公益財団法人 明るい選挙推進協会（平成 27 年 7 月）「１８歳選挙権認知度調査」より抜粋）

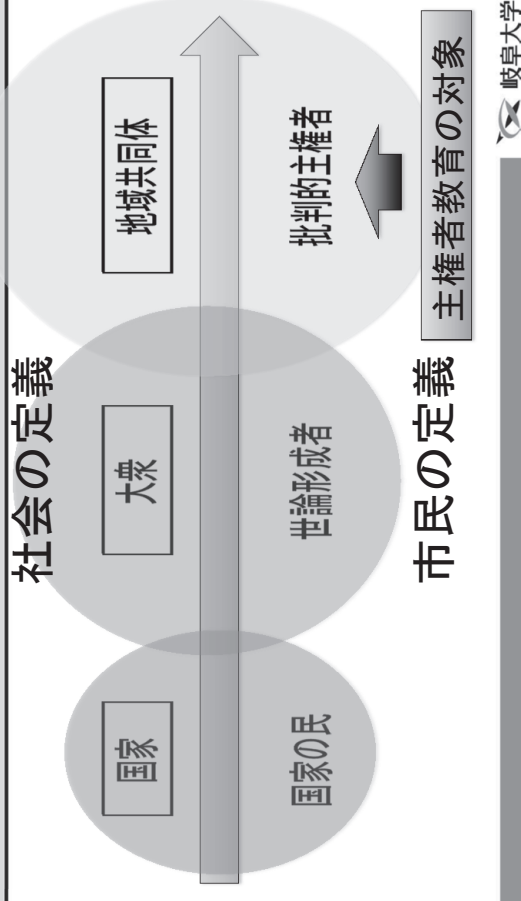
	面白くない から	面白くない から	18歳の時点で は世の中で どうなるか を判断でき ないから	選挙制度やア ルternative がないから	情報に乏し く、18歳以上 の若者が 政治に関与 する意欲が 低いから	18歳以上も 若い世代に は政治に関 与する意欲 が低いから	その他	わからない	一人当たり 選票数
全体	50.3	42.6	57.2	19.1	32.2	38.2	6.2	1.3	2.5
15歳	57.9	23.7	63.2	13.2	36.8	31.6	13.2	0.0	2.4
16歳	51.6	32.8	73.4	20.3	35.9	39.1	3.1	1.6	2.6
17歳	51.9	27.8	63.0	27.8	37.0	24.1	3.7	0.0	2.4
18歳	55.0	28.3	61.7	16.7	28.3	36.7	3.3	0.0	2.3
19歳	50.8	36.5	68.3	9.5	30.2	36.5	3.2	3.2	2.4
20歳	50.6	46.8	59.7	22.1	29.9	42.9	7.8	1.3	2.6
21歳	45.3	49.1	52.8	18.9	28.3	30.2	7.5	0.0	2.3
22歳	47.1	55.9	42.6	22.1	36.8	38.2	5.9	2.9	2.5
23歳	55.0	63.3	45.0	16.7	38.3	41.7	1.7	3.3	2.7
24歳	42.7	50.7	46.7	21.3	24.0	52.0	13.3	0.0	2.5

英国における投票率の推移 (国政選挙の得票率)

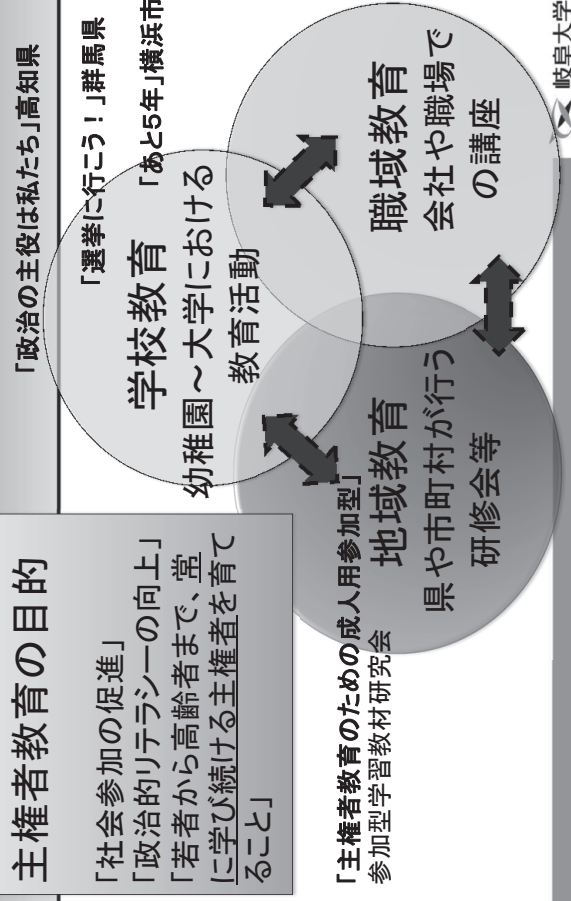


岐阜大学

主権者概念の変容



主権者(市民)をどこで育成するのか？



理念と実態のギャップ

民主制
(制度としての民主主義)

&

民主政
(振る舞いとしての民主政治)

岐阜大学

- 目標：制度の理解
政治制度及び、その問題点を理解
- 内容：知識の暗記・記憶
政治制度、選挙制度、主権者意識他
- 方法：説明
教科書主導、教師による説明

本日のテーマと流れ

1:「選挙権年齢が18歳以上に引き下げられると、

何がどう変わるのか」

⇒政治が変わる？変わらない？何がどう変わる？

2:「主権者意識をどう高めるのか」

⇒政治的関心を高める「仕掛け」を考える

提案

ハード面だけではなく、ソフト面も！

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.05.27 2016年8月1日発行号

VOL.24



18歳選挙権へ向けて 自分たちにできること

5月27日に岐阜大学サテライトキャンパスで、「若者よ、投票に行こうII」をテーマに第1回ぎふフューチャーセンターを開催しました。昨年度から引き続き2回目の開催となった選挙に関するフューチャーセンターには、岐阜大学生と岐阜市職員など25人が参加しました。対話では、社会全体で主権者意識を高める方法を議論し、「生徒会に休み時間や授業時間を変更するなどの大きな権限を持たす」、「職場で投票dayを設定」、「選挙カフェの開設」、「白紙投票を広める」といった意見が出されました。

今回の対話の結果、若者の選挙に対する意識向上と、積極的な投票行動が期待されるとともに、6月22日に岐阜市選挙管理委員会が実施した岐阜大学内での選挙啓発活動や、7月1日の学内に設置された期日前投票の利用につながりました。この対話で出された選挙に関する啓発案について、岐阜市で効果などを分析し、今後の啓発の取り組みの参考とされます。



今回のまとめ

- 主権者教育について、学校教育を軸とし、それを家庭、職場、地域へと広げる
- 生徒会に休み時間や授業時間を変更するなどの大きな権限を持たして、生徒会で選挙を行う
- 職場で投票dayを設定
- 選挙について知ることができる選挙カフェの開設
- 白紙投票を広める

各グループからの
意見・アイデア



今度の選挙は必ず行きます!

岐阜大学教育学部4年
渡邊 貴也 さん

今回のフューチャーセンターに参加して、家庭での主権者教育や選挙カフェというアイデアなど様々な意見を聞いて、選挙に対する意識という面で、大きな学びになりました。今後、社会科の教員になったとき、赴任した学校内で主権者教育を行う際の参考にしたいと思います。今度の選挙は必ず行きます。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人
岐阜大学



文部科学省
地(知)の拠点

第2回 ぎふフューチャーセンター

空き家で空き家を考える
～佐野の事例を対象に～

平成 28 年 6 月 29 日（水）

会場：岐阜市佐野の空き家

主催：岐阜大学

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 2 回 りふふチャーセンター	
会場	岐阜市佐野の空き家
日程	平成 28 年 6 月 29 日（水）14:30～16:30
背景	岐阜市佐野の一角にある民家は、由緒ある大きな家だが現在住人が退去してしまい、空き家となっている。時折帰省利用があるため二階は現状維持の必要があるが、一階については活用が許可されている。 一般的にも空き家の増加は防犯・防災・環境衛生上の問題があるとされており、対応や対策が急がれるものの何がその空き家の課題なのかは実にさまざまである。今回、ふチャーセンター会場として利用させて頂く空き家のケースを考えることで、こうした地域の課題に目を向ける契機とする他、現実の空き家活用活動を進めるための地域理解を広める一助としたい。
目的	①空き家活用という地域の課題に対して、近隣住民も巻き込んだふチャーセンターを実施することで、地に足の着いたアイデア創出の場を提供する。 ②今後その地域で活動を進める人々の間にネットワークを形成する幫助。 ③学生が地域の課題や地域活動について考えるための学習機会。
テーマ	空き家で空き家を考える～佐野の事例を対象に～
セッションテーマ	①情報提供 ②この空き家の魅力は何か、手入れの必要なところは何か ③どんな活用方法が考えられるか
参加者構成	学生 12人 大学教職員 3人 近隣住民等 3人（※1人途中退席）
対話の方法	6人／3グループ、KJ法
ファシリテーター	塚本明日香（地域協学センター 特任助教）
事前学習	平成 28 年 6 月 22 日（水）13:30～14:30 空き家活用の別事例として工学部社会基盤工学科出村研究室美殿町ラボの見学を実施。ふチャーセンター実践Ⅰの受講生7名が参加し、大学院生から空きビルリノベーションに関する説明を受けた。
当日のスケジュール	13:15～14:15 到着・会場掃除 14:15～14:30 設営・受付 14:30～14:45 ふチャーセンターと今回の目的説明 14:45～14:55 情報提供 14:55～15:10 会場見学 15:10～15:20 アイスブレイク 15:20～15:40 セッション① 「この空き家の魅力は何か、手入れの必要なところは何か」 15:40～16:05 セッション②

	「どんな活用方法が考えられるか」 16：05～16：25 まとめ発表（FC 完了） 16：25～16：45 片付け 16：45 会場出発
出された意見	1 グループ <魅力・改善点> ○外 ・「どう使うか」を決めてからアクセス確保・家までの道・交通の便・庭の手入れ・庭の緑が心地よい・緑が多い・庭が大きい・日本の原風景・自然が身近・外から見えない空間 ・近くに家がない・静か・涼しい・避暑できそう・周辺が静か・落ち着く ○内装 ・建材が木そのもの・古風さ 文化財・絵や屏風が多い・木やガラス味のある素材・家具がアンティーク調・木の温かみを感じられる・開かずの扉がいくつかある・清潔さ（掃除・手入れ）・引き戸のすべり、扉、ふすま・食品は捨てる・洋室を作ると活用の幅が広がるかも・畳が古い・床が沈む、ゆがんでる・トイレ、水道設備、電気設備、光環境 ○空間 ・レイアウト・とにかく広い・部屋が広く使える・和室が多い・部屋の数 ○立地 ・大学から割と近い <活用方法> ○公共施設…防災の避難所・地域の人集会所・公民館 ○文化施設…落語・料理教室・コンサート・音楽教室 ○泊まる…岐阜大生の合宿所・合宿 ○教育 ・体験型（・秘密基地・子供の遊び場・運動場やアドベンチャー系・お化け屋敷・夏休みの体験（BBQ、流しそうめん、室内観察、休憩室） ・サマーキャンプの拠点・基本、内装は変えない・教育の場、塾（寺子屋風） ○休憩所 ・保護者の休憩場・森の幼稚園の待合室・場所の一角をカフェに・古民家カフェ・喫茶店 ・BBQ、飲み会 2 グループ <魅力> ・非日常が魅力・現代にない異空間・和の空間・古民家ならではの雰囲気・冬は寒そう ・木造・広い部屋、落ち着く雰囲気・引き戸で開放的・古民家である点

<改善点>

- ・草が多すぎ、蜘蛛の巣、庭の手入れ
- ・けものみち、虫対策、玄関につくまでの草道
- ・電気はつく、全体に掃除、生活感がありすぎる点
- ・家の傾き、へこむ床、天井にいっぱいある蜘蛛の巣
- ・扉開けやすく、電気など生活在住に必要なもの
- ・ここまでの道、庭、電波がない、仕切りをなくす、トイレ

<活用方法>

- ・仏壇、天井の梁、縁側、彩光、窓、囲炉裏、掘りごたつ、畳
- 合宿、子供の遊び、書道教室、ルームシェア、天体観測、茶道教室、宴会、そば打ち体験、外国人の日本の生活体験

3 グループ

<魅力・改善点>

■ハード

○静かさ・自然

- ・静か、自然豊か・静かだから落ち着く・奥まっているところ（非日常）

○意匠

- ・ガラスが手作りなので味がある・豪華なつくり・太い柱の重厚感・興味をそそられる点が色々ある・立派な洋室がある

○広さ

- ・広い庭、とても広い、多くの人が集まれる・敷地が広い、部屋が小分けされていて多い

○使いやすさ

- ・脱衣所の面積が広い・割と収納が多い・ふすまがあり、容易に仕切りが出来る

■ソフト

○涼しい ・玄関が広くて涼しい

○雰囲気

- ・なつかしさ、タイムスリップした感じ・日本を感じる・昔ながらの日本家屋の雰囲気

- ・トトロっぽい、懐かしい雰囲気

○縁側 ・気持ちいい縁側

○家の中

- ・風呂が狭い・天井低め・畳の劣化が激しい、畳のへこみ、畳が沈む・生活感がめっちゃある、こけし類の置物が怖い・電球・虫の死骸、蜘蛛の巣、カビ、掃除・開かない扉があった、戸のゆがみ、家が傾いて戸が開かない（動かない）

○家の外

	・周りにコンビニ等がない、玄関までが細くて長い、車での出入り ・庭の手入れ、雑草抜き <活用方法> ○子供向け ・子供の宿泊場所・森の幼稚園（雨の日など）・オリエンテーリング的な宝探し ・子供への自然体験教室（草花、昆虫） ○日本的カルチャー教室 ・茶華道、書道、茶会、美術・絵画体験、美術館、ギャラリー、カルチャー教室（日本に関係）、移住 ○宿泊・体験 ・予約制の宿・旅館、民宿、料亭、和食処・1日1組限定の別荘（ぜいたく） ・農村生活の体験（お試し）・いろり、暖をとる ○合宿 ・部活用・ゼミなど（合宿可能）・合宿所 ○大学教育 ・修復のプロセス自体を、建築を学ぶ場に・研究室としての利用 ○地域 ・町の集会所・老人ホーム
まとめと今後の展開	このフューチャーセンターは、大学教員を介しての地域の課題提示という、これまでになかった課題設定手順を踏んだ。 空き家は全国的にも問題となっているが、今回のケースは郊外地にある大きな民家であり、都市部の空き家とは様相を異にする。フューチャーセンターに参加したほとんどの学生は市内の空きビル活用に関わった学生もしくはそこを事前見学している学生であり、こうした社会問題について見聞を広めて意見を出し合うことは教育の場として有意義な内容であった。 一方で、空き家持ち主との契約書取り交わしの関係で、地域の方への声かけを大々的にすることが出来なかった点は次への課題である。活用しようとする主体者は地域での協力者を求めており、そうした人脈づくりの場としての側面も期待されていたため、それに応えられなかったことは大きな反省点である。空き家持ち主の意向も踏まえつつ、今後の展開を探ることとする。
学生の感想	<フューチャーセンターに関する感想> ○様々な属性の人と交流・話し合いができることがFC 一番の魅力だと思います。地域の問題や課題に取り組み、地域貢献の実感が得られるのもFC の良いところだと感じています。（地域科学部3年） ○ちょっと奥にある古民家で、率直にはいかにも空き家って感じのところだなと思いました。これから少子高齢化や都会への人口集中に伴って、ますます今回見学したような田舎の空き家は増えてくると思います。空き家のままでおいておくのはもったいないし、防犯上もあまり良くないと思うので、どうやって空き家を活用していくかは今後多くの地方で大きな課題になると思います。また、その課題にきちんと向き合って取り組むことも大切であると感じました。

	(地域科学部 3 年) ○6/29 日のフューチャーセンター実践では、前の週にリノベーションのことについて学んだことから実際に空き家へ行き、自分たちが空き家でなにをすることができるのか考えた。空き家へ入ってみると、敷地面積が広いだけでなく、部屋数が多く何かに活用するにはとても最適だと感じた。実際にグループワークを行い、話し合っていく中でより具体的な意見も出るようになった。特に地域の子供とお年寄りの方が交流する場を作るという案がたくさん出され、空き家を活用することを通して、地域の交流を深めることが大切なのではないかという最終的な考えに達した。 今回、実際に見学することを通して空き家の実態やガイダンスからでは気づくことのできなかった空き家の活用法を見つけることが出来てよかった。(教育学部 1 年) <事前学習に関する感想> ○どこにあるかわからなくて迷子になるくらいのところにあった美殿町ラボだけど、扉をあけると建物の外観からは想像がつかないような部屋があって驚きました。空き家の改築といっても、ちょっと改装した程度かなと思っていたので、床も天井も壁も全部直したということなので、本当に驚きました。また、岐阜大学にこういったことをしている研究室もあると知り、改めて岐阜大学の活動の幅が広いのだと感じました。(地域科学部 3 年) ○美殿町ラボ見学における、最初は、どこにあるのかさえよくわからないほどの古い建物であり、こんなところを研究室にするのかと思っていた。しかし、リノベーションされた室内へ入ってみると、外観からは想像もつかないような綺麗な部屋であり本当に驚いた。 授業を受けるにあたり、はじめにリノベーションのことについて説明された時は全く想像もつかなかったが、実際に見学し、先輩方のプレゼンを聞いてから改めて考えると素晴らしいものであることが分かった。元々空き家であり使われることのなくなった部屋を綺麗にして使うだけでも有効活用していると思うが、部屋を綺麗にする過程を身内だけでなく周りの沢山の人々を巻き込むことによって活動することで、地域の方々との仲も深まる利点もあることを学んだ。 今回の見学を通して、私はリノベーションの本当のよさを学ぶことができ、空き家問題で悩む市町村への明るい光が差したように感じた。(教育学部 1 年)
企画者所感	本企画は、空き家の利用主体者である地域科学部教員からの相談を受け、新規科目であるフューチャーセンター実践Ⅰの最初の取組みとして実施した。 ○空き家関係者との打合せ 関係先…地域科学部教員、空き家オーナー（書面連絡のみ） 調整経緯…3/11 初回打合せ、4/2 事前見学、5 月空き家オーナーと書面連絡。

空き家オーナーとのやりとりは、先方が高齢かつ遠方居住ということもあり、書面を用いて利用主体者の教員が間に立って相談してくるという形式をとったため、円滑さに欠けていた。最初に学生教育の場として活用することに応諾頂いた後、企画内容を固めて近隣住民への呼びかけについての許諾を求めたが、後者の返事が間に合わないことになった。そのため、事前に自治会を訪れ企画の告知と協力を依頼しようと考えていたものの実行できず、近隣住民の参加をきちんと募れない形になった。

利用主体者の教員と事後に打合せをした際、教育の場としてうまく活用できたこと、ワークショップの手法が刺激的であったことを言っていたが、元々の相談事項であった現実的な協力者の確保という面では全く力になれず申し訳なかった。

○事前見学について

見学先…岐阜大学工学部社会基盤工学科 出村研究室美殿町ラボ

調整経緯…電話で依頼後、6/9 事前打合せ、6/22 事前見学実施（大学院生による解説）。

見学先研究室は街中の空きビルリノベーションの成果の一つであり、郊外の古民家空き家との好対照であるだけでなく、フューチャーセンターへの理解を十分に頂いている教員の下で、スムーズにご協力いただくことができた。

大学院生という、学生にとって数年違いの先輩からの解説であったことも良い刺激だったようである。ただし企画者の不手際で学生へのアンケート実施が遅れ、2名からの回答しか得られなかったため、別途回収していた感想と合わせて記述内容のみを本報告書に記している。協力して頂いた研究室へのフィードバックも一部の感想のみとなってしまった点、反省しきりである。記憶が新しいうち、きちんとその場でアンケートを取ることの重要性を失敗から確認する形となった。ただ、感想からは、リノベーションによって劇的に変わる可能性を目の当たりにしたことが、新鮮な驚きと感じられていることが分かり、見学の効果はそれなりに上げられたと考えられる。

○当日の運営について

当日は空き家の掃除体験からの会場セッティングという流れだったが、電気がきているのに電球がつかなくなっており、全体照明の暗さに辟易した。事前確認で「電気はきている」としか確認しておらず、現場見学から本番まで約2か月が経過していることを鑑みればもう一度直前に企画者による現場見学を行うべきであった。恒常的に利用している施設ではなく、空き家であることの難しさを全員で体感する結果となった。

プロジェクタ等は使用できない可能性を考慮して、予め資料を印刷していたので問題なく進められた。当日資料については日本建築学会（企画者の所属学会）の刊行雑誌にちょうど特集が組まれており、大変参考になった。

（地域協学センター特任助教 塚本明日香）

第2回岐阜フューチャーセンター

空き家で空き家を考える ～佐野の事例を対象に

2016/06/29

地域協学センター 塚本明日香

今日の流れ

- フューチャーセンターについて
- 情報提供
- 会場見学
- 対話の場の実施

フューチャーセンターとは

- 多様な人々が未来について語り合う対話の「場」
- 課題にともに取り組み、新しい価値をつくる「場」

【グランドルール】

- ① 対等な立場で話します
- ② 他の人の意見を尊重し、否定しません
- ③ 話しやすい場づくりを心がけます
- ④ 当事者意識を持ち、リーダーにのみに負担をかけません

空き家で空き家を考える

- 空き家の問題について知る
- 「この家」をどんな風に活用できるのかを考える
 - ・ 周辺状況
 - ・ この家の良いところ、
手入れの必要なところ
 - ・ どんな活用方法が考えられるか

全国的な空き家問題

- 高度経済成長期の出来事
 - ...都市圏への人口流入と約420万戸の住宅不足
 - 大規模な宅地開発と持ち家政策の成立
- 平成25年住宅・土地統計調査結果
 - ...空き家率13.5%（約820万戸）
- 空き家の「問題」
 - ① 防犯上の問題（ごみの不法投棄、空き巣の侵入等）
 - ② 防災上の問題（災害時のリスク向上）
 - ③ 環境衛生上の問題
（庭木の道路進出、インフラサポートの非効率化等）

参考：『建築雑誌』Vol.130 No.1672

空き家問題の地域差

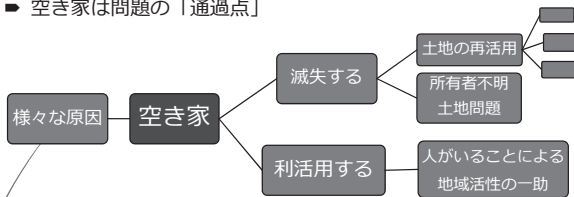
- 空き家が多くても地域社会は大丈夫！？
 - 空き家が多いのは昔から、という地域
 - ...生活インフラの保証があれば持続発展は十分可能。
 - 急激に空き家率の上がった都市部
 - ...賃貸住宅空き家があるのに新しい住宅を立て続け、
世帯人口も減少傾向、高齢化も進むし大丈夫？？

岐阜県の

- ・ 空き家率...約15%
 - ・ 「賃貸または売却用」及び「二次的住宅」を除いた「その他の空き家」率...約6%
- （厳密「空き家の現状分析」『建築雑誌』Vol.130 No.1672 図3より）

空き家を資源として考える

- 空き家は問題の「通過点」



- 多様性を実現できる、という空き家の可能性

例) 福祉用途への転用 (1980年代から)

慶應義塾大学「アーティスト・イン・空き家」(2000年)

HEAD研究会「リノベーションスクール」(2008年以降)

カフェ・レストランへの改造、移築による活用 等

参考:『建築雑誌』Vol.130 No.1672

岐阜の空き家活用事例

- 岐阜市川原町通「華久」

築約100年の町家を、店舗付き住宅として再生。

平成26年度岐阜市都市景観賞受賞



岐阜市景観賞公式HP (<http://www.city.gifu.lg.jp/23749.htm>)
2016.06.28アクセス



美殿町ラボ 2016.06.22様本撮影

- 岐阜市美殿町「美殿町ラボ」

商店街の空きビルの一角を大学の研究室として活用。周辺住民を巻き込んだリノベーションを実施。

この家を取り巻く条件

- 文化財レベルまでいかないが立派な古民家。
- 数年前まで高齢者の一人暮らし。
→ 帰省利用もあるので2階スペースは手出し無用
- 隣接する里山は「森のようちえん」の舞台として利用されている。

見つけてほしいこと

- 座り心地の良い (良さそうな) ところ
- 利活用するときに、使いたいもの
- 利活用するときに、邪魔そうなもの

15:10まで自由見学
※1階のみ

アイスブレイク

- グループ内で自己紹介をしてください。

<言うべきこと>

- ・ 名前
- ・ 所属
- ・ 座り心地の良かった (良さそうだと思う) ところとその理由

セッション1

この家の魅力は何か、
手入れの必要なところは何か

セッション2

どんな活用方法が考えられるか

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.06.29



実際の空き家で、 その家の活用について考える

6月29日は、岐阜市にある民家の活用を題材にフューチャーセンターを開催し、学生、地域住民、大学職員ら18人が参加しました。

まず全学共通教育科目「フューチャーセンター実践I」の受講生が一足先に現地へ赴き、会場となった民家の掃除と設営を行いました。フューチャーセンターでは、全国的に空き家問題がどう扱われているのか情報を共有した後、「座り心地の良いところ」を探しながら会場を全員で見学しました。その後、「この空き家の魅力は何か、手入れの必要なところは何か」「どんな活用方法が考えられるか」の順に意見を出し合いました。

今回のフューチャーセンターでは「古民家ならではの雰囲気」「静かなのが良い」「立て付けが悪い」等、特長や具体的な改善点の指摘がなされ、さまざまな活用アイデアが出されました。会場となった民家の活用に取り組む主体者にも今回のアイデアは還元され、実際の取り組みの参考とされる予定です。



今回のまとめ

- 手作りのガラス、木材、家具などの古い日本家屋ならではの内装を活かす
- 茶華道、書道、落語などのカルチャー教室やギャラリーなどの文化施設とする
- 老人ホーム、避難場所、公民館など地域の方が集まる施設として活用する
- 子供のための体験型(自然体験・遊び場)教室、大学の研修施設
- 隠れ家的な旅館、料亭、和食処、別荘などとして利用する

各グループからの
意見・アイデア

空き家活用には未来がある

岐阜大学工学研究科修士2年

川口 直秀 さん

空き家活用問題は、身の回りにある問題だと認識していたが、実際にどのような問題が現場に起きているのか、実際に見学したうえでその活用方法について話し合うことができた。空き家はまだまだ活用できるものであるという感想を持ったので、今回意見として出た空き家の使い方を実行に移していけたらいいと思う。



アイデア満載の空き家活用

岐阜大学地域科学部3年

沢村 春奈 さん

岐阜に住んでいるが、このような古い空き家があることは知らなかった。どんなところだろうと思ってきてみたが、実際に昔の日本家屋ならではの活用について考えたとき、きりがなくいろいろな色々と活用方法が浮かんだ。食事会やバーベキュー、子どもたちのための教室などができそう、など、考えているだけで楽しかった。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

第3回 ぎふフューチャーセンター

国際交流機会の増加をめざして、
郡上の魅力を考えよう

平成28年7月15日（金）

会場：古今伝授の里フィールドミュージアム篠脇山荘

主催：岐阜大学・郡上市・郡上市国際交流推進協議会

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 3 回 ゑふフューチャーセンター(in 郡上)	
主催団体	岐阜大学・留学生センター 郡上市 郡上市国際交流推進協議会
会 場	古今伝授の里フィールドミュージアム 篠脇山荘 郡上市大和町牧 9 1 2 番地 1
日 程	平成 28 年 7 月 15 日（金）14:20～16:50
目 的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様で豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献することを目的としてぎふフューチャーセンターを実施する。
テーマ	「国際交流機会の増加をめざして、郡上の魅力を考えよう」 ①外国人として見たいもの、日本人(郡上人)として見せたいもの／見せられるもの ②観光を楽しむため（楽しんでもらうため）に必要なことは ③訪日外国人にとって魅力ある郡上観光とは
内 容	郡上市には台湾を中心とした訪日観光客が多く訪れ、年々増加している。外国人が観光に訪れれば、住民と何らかの接触を持ち、国際交流の機会となる。また、郡上の住民も訪れる外国人に対して、おもてなし等のため興味を持つことになり、それが国際理解へと繋がっていくことになる。 今回のフューチャーセンターでは、郡上への訪日観光客をさらに増やすことにより、住民の日常的な国際交流機会の増加を目的として、郡上の魅力再発見、観光客が訪れてから必要な環境整備とは何かというセッションを経て、外国人にとって魅力的な郡上観光を考えるフューチャーセンターを行った。今回のテーマで対話をするにあたっては、国際交流に理解が深い、知識がある人同士の対話により高い効果を狙うため、留学生と国際交流団体を交えて行った。また、郡上外からの視点として日本人学生も参加した。留学生の指導、会の進行など留学生センターの協力により実施した。
参加者構成	参加者合計 34 名（6、7 人×5 グループ） ・学生 20 名（留学生 13 名、学部生 7 名） ・郡上市国際交流推進協議会 10 名 ・郡上市職員 4 名（国際交流担当課、観光担当課）
対話の方法	KJ 法 6、7 人／5 グループ FC（3 セッション）
ファシリテーター	土谷桃子 留学生センター准教授
当日のスケジュール	開会 あいさつ(郡上市国際交流協会鷺見会長、三島郡上市長公室長) FC の説明、概要 アイスブレイク（共通点、グループ名決め） 話し合い（3 セッション） グループ発表・講評 閉会(郡上市国際交流協会金山副会長) 交流活動

グループ発表 ※要約	1 グループ グループ名：アメンボ ①外国人として見たいもの、日本人として見せたいもの／見せられるもの 【行きたい所】 温泉など 【食べ物】 日本酒、日本のビール、回転寿司、鮎 【文化】 相撲、忍者、歌舞伎、野球→日本独自なもの ②観光を楽しむため（楽しんでもらうため）に必要なことは 【良い点】 レストランで水が勝手に出てくる（タイではなし） 【悪い点】 旅行用アプリで岐阜（郡上）が出てこない→ないため他の所へ、宿泊施設がきれいなほうがよい（沖縄での話）、食べ物が好みに合わない、方言が分からない、英語表記を分かり易く（けいちゃん→鶏肉のミソ炒め） ③訪日外国人にとって魅力ある郡上観光とは 【宣伝】 SNS 利用→海外では一番利用者が多い FaceBook を中心にする、タイで佐賀県を舞台にしたドラマ放送。佐賀県が有名に→郡上でも誘致する 【体験】 郡上でしかできないことを提供する 【AR 技術（拡張現実）の利用】 大人気ゲーム「ポケモン GO」を参考に、郡上版（ゲーム要素を取り入れる）を作成→アプリイベントの実施 【その他】 多言語表記、分かり易いマークなど快適に観光を楽しむ工夫 2 グループ グループ名：Green Wave ①外国人として見たいもの、日本人として見せたいもの／見せられるもの 【行きたい所】 川など自然が豊かな所へ→郡上の魅力であり得ること ②観光を楽しむため（楽しんでもらうため）に必要なことは 【案内板の改善】 特に駅の表示が分からない→スマホアプリに頼らずとも分かる表示の工夫。多言語化 ③訪日外国人にとって魅力ある郡上観光とは 【宣伝】 I Tを活かす（特に大事）→SNS で「ハッシュタグ」の活用 【テーマパーク】 若者に好まれている自然活用型テーマパークの設置 3 グループ グループ名：四季 ①外国人として見たいもの、日本人として見せたいもの／見せられるもの 【夏の良い点】 季節ごとの良い点を考えた。夏を事例として発表。 ・川遊び→ラフティング、魚とり ・富士山登山 【グルメ】 飛騨牛、明宝ハム 【おもてなし】 地元の人とのふれあい→日本人の友達づくりが魅力 ②観光を楽しむため（楽しんでもらうため）に必要なことは 【良い点】 声かけ、案内など 【悪い点】 レストランでタバコが吸えない、公共の場で静かにする必要有（なぜ？→親の教育）、バスの料金制度が複雑（エリア制⇔距離・従量制） ③訪日外国人にとって魅力ある郡上観光とは 【宣伝】 ・I T活用→多言語サイト、郡上の写真（フォトコンテスト）、I Tを使った宿泊施設（安いほうがよい） 【イベント】 幅広い世代（特に子ども、ファミリー）が楽しめるように 【交通アクセス】 駐車場が必要、キャンピングカーで宿泊も賄える、空港からは遠い→出迎えのバスがあると良い 【国際化】 やさしさ・笑顔等のおもてなし→日本人の良い点、ホテルより民宿→より日本らしさを感じることができる 【連携】 岐阜大学と連携する→留学生によるボランティア ④グループのまとめ ・このような会を通して多くの意見を集めて活かす
-----------------------	--

	4 グループ グループ名：ちゃ・チャ・茶 ・交通に焦点を当てて話し合いをした 【交通】 バスが高い→留学生は旅行がしたいが難しい 郡上はより不便→シャトルバスを作る(空港⇄郡上) 地域内での移動手段整備→地域内1日フリー切符 【ホスピタリティ】 ヘルプデスクを設置(現地の人と通話ができる) 【交流】 リピーターを生む提案 日本人と交流(友達づくり)→そのための体験活動(サンプル、お寺宿泊体験) 【情報発信】 留学生が国に帰って宣伝をする→マージンがある →郡上は人が増え、留学生は見返りがあり winwin な関係に 5 グループ グループ名：寿(ことぶき) ①外国人として見たいもの、日本人として見せたいもの／見せられるもの 【留学生から良い点】 食べ物、地域、お城、寺、文化、自然 ②観光を楽しむため(楽しんでもらうため)に必要なことは 【不便の改善】 地図表記→翻訳が間違っている物修正、マークが外国人には分からない→分かり易いマーク(ユニバーサルデザイン) 【交通】 田舎ほど交通不便→郡上地域内交通の充実 【日本人のよさ】 気配りを売りにする ③訪日外国人にとって魅力ある郡上観光とは 【体験型イベント開催】 農業、おどり、サンプル 【交通】 地域内観光バスの1日券、公共交通の値下げ 【宣伝】 グループとしてはこれが大事な要素である I T系→情報発信サイト、郡上アプリ 口コミ→人から人に伝わることも大切
今後の展開	【郡上市国際交流推進協議会】 ・郡上の国際都市化に向け、市民意識の醸成を進めるとともに、関係団体と協力してインバウンドの展開をサポートする。 ・訪日外国人を迎え入れる視点から、多言語表記、おもてなし等(多言語 Web サイト・パンフレット、ホテル・レストランの写真付き多言語メニュー、外国人の食習慣への対応、ヘルプデスク等)の必要な取り組みを整理し、提供する。 ・上記の検討にあたって、留学生や在住外国人等と市民、関係団体などがマッチングできるよう協力する。 【郡上市】 ・訪日外国人旅行者にとって使いやすい交通手段や、市内観光地等へのアクセス方法の検討 ・地域の魅力を活かした体験プログラムの検討 ・情報発信方策の検討 【その他】 ・インバウンドを課題とする地域で今回の手法を展開する
自治体等との調整過程	5月23日 ファシリテーター依頼 5月27日 郡上市国際交流推進協議会 会長、副会長とFC開催協議 6月 8日 国際交流協議会長、郡上市国際交流担当とFCテーマ協議 6月15日 郡上市国際交流担当とFC運営協議 6月30日 FC会場の管理担当との協議 7月 5日 ファシリテーターと運営協議
報道等	平成28年7月23日 中日新聞 朝刊 中濃総合版

担当職員感想 (郡上市)	・今回は開催決定から時間が少なくて仕方ない面もあるが、対話をするだけでなく、対話結果を具体化できるとよい。次回以降では、対話の後に何かワークが伴うフューチャーセンターとしたい。 ・留学生、郡上市外在住の日本人学生など、多様な人から郡上市の魅力を聞く事ができた。対話だけでなく、郡上に来てもらい交流することで国際交流に対する意識は醸成されていくのでは。 ・留学生に参加してもらい、郡上観光に対する外国人の生の声が聞く事ができ参考となった。
企画担当者所感	観光が大きな産業の一つである郡上市にとって、国内旅行より伸びる要素がある訪日観光を考えることは大切なことである。外国人旅行者が増えれば、地域の経済に良い効果をもたらすだけでなく、郡上の住民が異国の習慣、文化などについて興味を持ち理解が進めば、更なる来訪に繋がり好循環が生まれることとなる。今回、留学生から直接郡上に関する意見は多くはなかったが、訪日旅行を通じた意見では取り組むべき事が多くあったと思う。 企画者として気になった意見は3点。①宣伝方法、②交通、③ホスピタリティについてである。 ①の宣伝方法ではSNSについての意見がどのグループからも出された。ありがちな意見として済まされそうであるが、既に取り組んでいる事を意見されるのは、それが不十分か見直す必要があるためである。「ハッシュタグ」などの意見があったが、注目されるように再検討が必要と考える。 ②の交通については郡上にとって弱点と考える。郡上に至るまでのアクセスについては、高速道路が整備されており利便性が高い。問題は郡上についてからの移動であり、意見にあったように地域内フリーキップなど旅行者にとってお得感のある対応が必要と思う。 ③のホスピタリティについては、交通と違い、郡上の強みであると考え。留学生からは、旅行をするにあたって「日本らしさ」「日本の日常の生活」を求める声が多かったと思う。郡上には日本の原風景というべき場所、人が多くあり、アピールポイントになると思った。 今後については、留学生センターの協力も得て、留学生と郡上の国際交流、観光の活動をする団体との協働で今回出た意見を実践していくようにしたい。

(企画者：地域コーディネーター(郡上市派遣) 安藤 祐二)

第3回 んふフューチャーセンター アンケート結果・集計 学生用 参加人数20名 回答20名

1. 性別	男	8	女	12	
2. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。					
①はじめて	7	③3回目	7	⑤5回目以上	4
②2回目	1	④4回目	1		
3. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)					
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた					19
②さまざまな知識や経験を持つ人(地域、大学、行政など)と知り合えることができた					18
③今後の活動に活かせることがあると感じた					10
④その他(以下意見:原文のまま)					0
4. 今後、ぎふFCに参加したいですか。					
①参加したい	7	②テーマに興味あれば参加したい			13
③参加したくない	0				
5. 今回のぎふFCを通じて国際交流活動に興味は持てましたか。					
①とても関心が持てた	12	③関心は持てなかった	0		
②ある程度関心が持てた	6	④関心は持てたが理解が不十分であり学びたい			2
6. 今後国際交流活動に関わってみたいですか。					
①積極的に関わりたい	11	②機会があれば関わってみたい	9	③活動までは興味ない	0
7. 今回の対話を通して異なる文化を持つ人々の事を理解する大切さを感じることができましたか。					
①感じる事ができた	19	③関心は持てたが理解が不十分であり学びたい			1
②感じられなかった	0	④その他			0
8. 郡上市の観光に魅力を感じることができましたか。					
①感じる事ができた・また来訪したい		18	②感じられなかった		0
③関心は持てたが理解が不十分であり学びたい		2	④その他		0

9. 学びになったこと、今後に活かしたいこと、感想(以下意見:原文のまま)

- ・学びになったことは様々な人からの意見で、どう改善すればいいか、貴重な意見を自分の国のためにも勉強になりました
- ・外国人が日本で体験したいこと、日本人が外国人に見せたいことや体験させたいことについての知識が前より理解してきた気がする。さらに郡上に対する魅力に興味が出て、外国観光者による郡上へのアピールも明らかになったと思う
- ・今回のぎふFCに参加して、いろいろ勉強になりました。日本人と留学生、若者と年上が座って、一緒に郡上の未来を考えました。いろいろな立場から様々な意見が出てきました。その中、本当に郡上の発展に役立つものがあると思いました。その後、そういった意見を参考に新しい政策や方針を生まれるとありがたいと思います。
- ・国際交流をする貴重な体験をさせて頂き、新しい考え方ができるようになりました。留学生の子と日本人学生、さらには役所の方など様々な人が参加する場で、共感したり、違うことに気付かされたり、とても刺激的でしたが、様々な人の意見がぶつかることで新しい発想が生まれて楽しかったです。普段の生活ではなかなかこういう体験はできないので、今後もぜひ参加したいと思いました。
- ・外国人の方と交流の機会を持てたことが一番の収穫だと思います。
- ・郡上のことについてもっと詳しく知っていました。郡上の祭りとか、イベントとか、郡上の特別な活動に参加したい。みんな一緒に話し合ったり、郡上の宣伝のためにいろいろ考えたり、楽しかったです。
- ・郡上のたくさんの魅力が私を待っています。例えばラベンダーです。ぜひ見に行きたいと思います。帰国してから友達に東京や大阪だけではなくて、すごく違う雰囲気のある郡上を伝えようと思います。いろんな年齢層の人と交流することは楽しかったです。
- ・郡上には何回か来たことがあります。その時、いつもいい思い出ができ、いい気持ちで帰ったので、郡上はこういういいところなんだ！と思いました。その時もやはり郡上の方々が他の地域、あるいは外国人との触れあいに努力し、交流しようとするのにも感動しました。そして今日のFCでも郡上(岐阜)の悪い点を直してよりいい郡上を造ろうと努力している郡上の方々を見て、郡上はこれからも発展する可能性を持っているところだと感じました。
- ・国籍が違うことはすごく合わないむずかしくなる原因と思いますが、今日の活動でそれほどでもないと思いました。そしてみなさんと意見が合った時うれしかったです。今後も機会があれば参加したいです。
- ・郡上について何も知らなかったのも、今回のスライドや現地の方のお話を聞くことで郡上の魅力を学べました。まずは自分の周りの友達に今日知った郡上の魅力を伝えるとともに、友達や家族を誘って遊びに来たいです。外国人の日本に対する不満を聞く機会があまりなかったのも、とても良い経験になりました。
- ・留学生の方の日本語のうまさと積極性に驚きました。また、素直な日本に対する意見もなるほどなと思うことが多々ありとても学びになりました。国際的なつながりを考えるとき、留学はとてもためになるなと思い、自分もしてみようかなと考えています。
- ・地域の人々と意見などをふりあうのはとても楽しかった。郡上のことももっと知ってきたので、また行きたいと思う。さらに宣伝するのは重要とのことなので、やはり自分のいい体験などのことを友達に伝えるのは大事だと分かってきた。
- ・郡上でのイベント、グルメ、特製品がいろいろあると学びになりました。地域の長所を発信できることから活動してみたいです。郡上のおもしろさ、貴重な自然を好きになりました。
- ・皆の意見を聞き、自分の意見を出す。いいところがあれば、他人に良い方法でアピールすること。30分以内のビデオを撮りたい。過去は変えられないけど未来は変えられる。皆の力を集まってよりよい未来を作りましょう。実は有名なカメラマンを誘って郡上の美しさを世界の人々に宣伝することもいいと思います。
- ・私自身郡上のことをあまり知らなかったのも、郡上の魅力をたくさん知ることができた。名前は「上村」というとみのさんに「いとしろの方？」と聞かれたので驚いた。私の祖父がいとしろ出身ときいたことがあったので「上村」のルーツがいとしろということを知った。今度祖父に会う時に祖父に聞いてみたいと思う。この経験も今日のFCに参加しなければ得られなかったものだと思う。
- ・まず!!留学生の方が日本語がとても上手で、文字も上手で何と言っても日本のことをとても知っていて驚いた。郡上のことはあまり知らなくて、今日どんな観光、魅力があるかを考えることで、ぜひプライベートで遊びにきたいと思うことができた。普段だったら関わることでできない人たちとたくさん交流ができて楽しかった。
- ・地域への関心。ウネさんと一緒に外国の方に岐阜郡上の魅力をアピールすること。楽しかったです。
- ・郡上に来て、自然な風景に触れて、住民たちもとても親切です。郡上のアピールを拡大するためにいろいろな意見が出てきました。それはいい経験だと思います。
- ・意見を似ているもの、似ていないもので分けていくのが意外と難しかった。どのように分ければ、話が広がるのか考えながらやることは難しかった。
- ・留学生にとって、いつも岐阜大学以外の岐阜にある所に行きたいので、このような活動はとても楽しかったと思います。

第3回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果・集計 一般参加者用 参加人数14名 回答12名

1. 性別	男	8	女	4
-------	---	---	---	---

2. 年代

①10代	0	③30代	1	⑤50代	1
②20代	0	④40代	1	⑥60代	9

3. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。

①はじめて	11	③3回目	0	⑤5回目以上	0
②2回目	1	④4回目	0		

4. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた	10
②さまざまな知識や経験を持つ人(地域、大学、行政など)と知り合えることができた	7
③今後の活動に活かせることがあると感じた	6
④その他(以下意見:原文のまま)	1

・若い人達の素直な意見が聞けた。全体に楽しかった。

5. 今後、ぎふFCに参加したいですか。

①参加したい	7	②テーマに興味あれば参加したい	5
③参加したくない	0		
④その他	0		

6. 「訪日観光客を増やすことにより国際交流機会を増やすこと」をテーマとして対話を行いました。

今回のテーマ設定について、どう思いますか。

①とてもよいテーマだった	7	③普通	2	⑤よくないテーマだった	0
②よいテーマだった	3	④あまりよくないテーマだった	0		

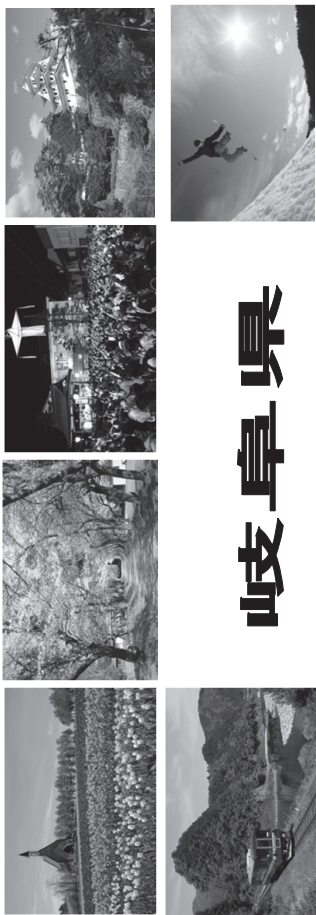
7. ぎふFCは地域の人々、岐阜大学が一緒になって地域課題の解決に向けて対話をする場です。

今後どのようなテーマで対話をしたいですか。(以下意見:原文のまま)

- ・インバウンドの拡大に向けた課題を絞った上で議論を深めたワークショップを持ちたい。多文化共生推進にむけたワークショップ
- ・想定外の災害があった場合の外国人への日本人への対応、対策
- ・元気な地域づくり、人が集まる地域にする
- ・今回出たテーマの中でもっとテーマを絞って、もう少し長い時間、出来れば1泊での会を
- ・またインバウンド等国際交流のテーマで行いたい
- ・在郡上の外国人との対話。郡上のいい所を生かす。問題点を直す
- ・情報発信の仕方
- ・農業体験型のテーマ
- ・海外を訪問するとき「私の国のおすすめ」

8. 自由意見(以下意見:原文のまま)

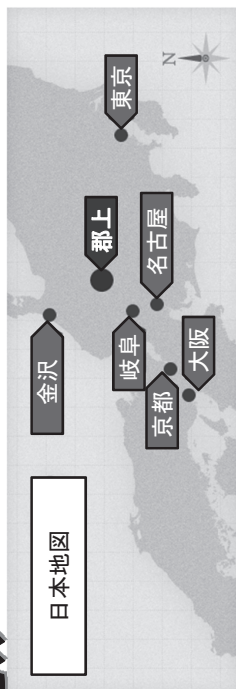
- ・非常に楽しく留学生と意見交換できました。参考になる意見も多々ありました。今後の行政施策に生かせればと思います。特に宣伝、INSの活用等は重要と感じた。それと案内表、私の重要性も認識した。
- ・とても良かったです。楽しく過ごせました。学生との対話時間も十分あり若返りました。進行の土谷先生お見事です。
- ・お客様の考を知り大変参考になりました。岐阜大学皆様ありがとうございました。
- ・テーマとしては良かったと思いますが、もう少し観光に関係のある市民に参加を呼び掛けた方がいいと思います。行政だけではもったいないと思います。
- ・楽しくできたことが一番。次回も参加したい。
- ・短時間によくまとめる事が出来たと思いました。郡上観光についてのディスカッションでしたので、せっかくですので全員で八幡町を歩いて見学して、美味しいものを食べてからフューチャーセンターに入ってもらえたらよかったと思います。



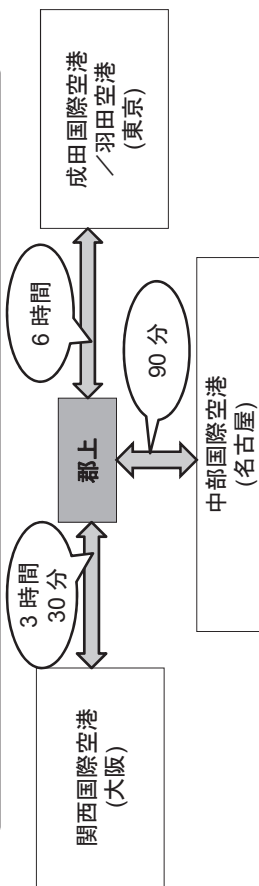
岐阜県 郡上市

郡上市役所
(2016年7月)

1



郡上市は、東海北陸道のインターチェンジに近く、アクセスに便利！



郡上市役所
(2016年7月)

3



中部国際空港からノンストップで90分。
最初の休憩スポットにおすす
めです。
・飛騨高山、白川郷、下呂温
泉まで70分。
・名古屋まで60分。

郡上市面積: 1,031km²
郡上市人口: 43,500人
産業構造: 第一次産業 6.2%
第二次産業 41.4%
第三次産業 52.4%

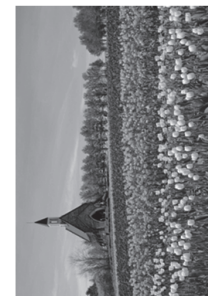
大阪(関西)
郡上市役所
(2016年7月)

2

季節ごとに花の見どころがたくさんあります。



芝桜【4月下旬～5月上旬】



チューリップ【5月上旬】



ラベンダー
【6月下旬～8月上旬】



コキア
【9月下旬～10月上旬】



ユリ【7月中旬～8月中旬】

郡上市役所
(2016年7月)

4

郡上市内には11か所のスキー場があります。

スキーやスノーボードなどのウインタースポーツだけでなく、「雪遊び」も楽しむことができます。(12月中旬～3月中旬)

＝スキー場への入場は無料です。

中部国際空港からスキー場まで、車で約2時間30分です。



【受入スキー場】

- ・高鷲スノーパーク
- ・ダイナランド
- ・ひるがの高原スキー場
- ・鷲ヶ岳スキー場
- ・郡上高原スキー場
- ・めいほうスキー場



郡上市役所
(2016年7月)

5

郡上おどろり体験

Gujo-Hachiman Hakurankan
郡上八幡 博覧館



郡上八幡城



いがわこみち



郡上八幡博覧館では、365日 郡上おどろり体験をすることが出来ます。一度に80名まで対応可能です。きれいな水が流れる城下町散策もお勧めです。

郡上市役所
(2016年7月)

7

三大盆踊り 郡上おどろり GUJO

郡上おどろりは、観る踊りではなく参加する踊りです。

そして、日本で一番長い期間開催する踊りです。

今年は、7月9日～9月3日の間の32日間開催します。

特に8月13日～16日の4日間は「徹夜おどろり」と呼ばれ、翌朝まで徹夜で踊り盛り上げます。



郡上市役所
(2016年7月)

6

食品サンプル作り体験 GUJO

本物そっくりな「天ぷらとレタス」などの食品サンプル作り体験をすることができます。

お土産として食品サンプルのキーホルダーもお勧めです。

プロの職人さんが作業している工房の見学ができる施設もあります。



サンプルいっしょ いわさき
定休日：火曜日
駐車場料金：無料

さんぷる工房
定休日：木曜日

郡上市役所
(2016年7月)

8



鶏ちゃん(郷土料理)

鶏ちゃんは、郡上の郷土料理です。

醤油や味噌、ニンニクなどで味付けした鶏肉を野菜と一緒に焼いた料理です。



郡上鮎

郡上鮎は郡上の夏を代表する食べ物です。

おいしい鮎を決める大会でグランプリを獲得しました。



飛騨牛

飛騨牛は、岐阜県の特産品です。

柔らかくておいしい牛肉です。

郡上市の現状・課題

多言語対応や予算など



単独事業として、多言語化を促進するためのパンフレットや看板などの翻訳助成のほか、Wi-Fi機器やクレジットカード機器の導入施設への助成を行っています。

インバウンド関係の今年度の予算は、市全体(行政+連盟)で約1,000万円です。

郡上市の課題



郡上市は、高速道路ネットワークの恩恵を受け、多くの人気観光地や宿泊地からのアクセスが非常に容易ですが、反面、公共交通(バスや鉄道)でのアプローチがしづらく、国際空港から何度も乗り継がないと立ち寄れないことが課題です。

また、外国人向けの宿泊施設が少ないことが課題の一つであり、そのことから立ち寄りがメインとなっている現状です。

郡上市役所
(2016年7月)

9

歴史遺産の活用



400年続く、歴史ある「郡上おどり」をさらに100年継承していくため、また運営を円滑に行うため、年間2,000万円の予算を計上しています。

このほか、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「郡上八幡北町」地区の無電柱化などにより、景観づくりにも力をいれています。

インバウンド入り込み



現在、郡上市を訪れる外国人観光客の多くが台湾のお客様です。

2015年には年間でおおよそ12万人の外国人観光客をお受けしました。

内訳: 台湾 9万人、シンガポール・マレーシア・タイ 各5千人、インドネシア・韓国・香港 各3千人

宿泊も前年に比べて40%増加しています。

郡上市役所
(2016年7月)

10

郡上市の取組

キラーコンテンツを使った誘客



郡上市の強みである「体験」を前面に出した誘客を実践しています。

- ・食品サンプル体験
- ・郡上おどり体験
- ・雪遊び



メインマーケット



郡上市では、岐阜県が積極的に取り組みを行うマーケットに対し、同じ歩調でセールス活動を進めています。

今年度の主な取り組み先: ・タイ ・台湾 ・香港

郡上市役所
(2016年7月)

11

郡上市役所
(2016年7月)

12



みなさまのお越しをお待ちしております



郡上市

〒501-4222 岐阜県郡上市八幡町高谷130-1
TEL: +81-(0)575-67-1808

郡上市役所
(2016年7月)

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.07.15 2016年9月1日発行号

VOL.25



国際交流機会の増加をめざして、 郡上の魅力を考える

7月15日のフューチャーセンターには、岐阜大学生、留学生、郡上市国際交流推進協議会会員など34名が参加して、郡上市へさらに外国人旅行者が訪れ、国際交流の機会が増加することを目的として話し合いました。

対話では、郡上市の魅力や観光を楽しんでもらうために必要なことは何かについて、外国人、地元住民など様々な立場からの意見交換を行い、「郡上の売りである自然など日本らしさを体験してもらう」「郡上市内での移動利便性向上」などの意見が出されました。

今回の対話を受けて、さらに外国人旅行者が増え、住民が日常的に国際交流の機会を持つことが期待されます。岐阜大学、郡上市、郡上市国際交流推進協議会では、連携した活動を継続していく予定です。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

- スマートフォンの旅行用アプリで郡上観光が確認できるようにする
- 空港と郡上を結ぶシャトルバスを運行する
- 郡上地域内を移動できるバスの運行とお得な1日フリーきっぷの販売
- ハッシュタグなどSNS発信方法の工夫
- 多言語表記の案内板作成と誰にでも分かるユニバーサルデザインマークの導入



郡上市国際交流
推進協議会 会長

鷲見 幸彦 さん

異文化の視点を入れた観光資源開発を

留学生にとって、観光資源を発掘することは難しい事だと思います。私たちが見落としている価値をどのように評価し、海外からの人々に伝えるか。そのために、今回のような「異文化の視点」は欠かせないと思います。



岐阜大学 留学生センター
日本語・日本文化研修留学生

王 卉怡 さん

母国で留学先の魅力を伝えたい

今回の対話で、郡上の魅力を地域の人から知ることができました。帰国してから中国の友人に東京や大阪だけではなく、留学先である岐阜や郡上の魅力も伝えようと思います。



岐阜大学
地域科学部3年

伊藤 光毅 さん

能動的な交流機会の創出が大切

国際交流機会の増加という点から考えると、自然に來るのを待つのではなく、こちらから巻き込んで交流する機会を創出することで、地域の魅力がより伝わり、また外国からの意見を地域に吸収できると思いました。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

第4回 ぎふフューチャーセンター

岐阜県への移住定住を考える

平成28年8月8日（月）

会場：岐阜大学サテライトキャンパス

主催：岐阜大学・岐阜県

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 4 回 りふふチャーセンター	
主催団体	岐阜大学・岐阜県
会 場	岐阜大学サテライトキャンパス
日 程	平成 28 年 8 月 8 日（月）13:30～16:00
目 的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様な豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献することを目的としてりふふチャーセンターを実施する。
テーマ	「岐阜県への移住定住を考える」 ・岐阜の魅力は？ ・どういった街に住みたいと思うか？ （将来的に住み続けるために必要なこと） ・移住を希望している人に岐阜を選んでもらうために必要なことは何か？
内 容	県では、人口減少社会においても地域が活力を保ち続けるため、「地域の将来を支える人を呼び込む」という視点から移住定住対策に取り組んでいる。 近年、大都市圏から地方への移住希望者は増加しており、地方で暮らすことを希望する人が増えているようであるが、とある NPO 法人の移住希望地ランキング調査では、岐阜県は 18 位となっている。 縁あって岐阜で学んでいる大学生、既に岐阜に移住している方々、自治体職員等が自由に意見交換することにより「岐阜で暮らす」ことの魅力を広め、より多くの方に岐阜に移住・定住してもらうための方策を考える。
参加者構成	参加者合計 34 名（6、7 人×5 グループ） ・学生 15 名（岐阜大学 10 名、岐阜経済大学 3 名、県立森林文化アカデミー 2 名） ・自治体職員等（地域おこし協力隊含む） 19 名
対話の方法	KJ 法 6、7 人／5 グループ FC（3 セッション）
ファシリテーター	地域協学センター長 益川浩一教授
当日のスケジュール	○ 開会 ○ あいさつ（岐阜県：尾関移住定住まちづくり室長） ○ FC の説明、概要 ○ 情報共有（県の施策・地域での取組事例紹介） ○ アイスブレイク ○ 意見交換（テーマ） ○ グループ発表・講評 ○ 閉会

グループ発表 ※要約	1 G・大学を卒業して就職するタイミングの方に岐阜に残ってもらうため、岐阜県の良さや魅力を知ってもらう自然体験ツアーを実施するなど学生にアピールする機会を設ける。 ・名古屋への交通の便が良く、家賃が安い等の利点から、名古屋圏で働き、岐阜に住むという選択肢もあることをPRする。 2 G・岐阜を選んでもらうために県内の受け入れ地域の方に移住者を受け入れるメリットを紹介していく必要がある。 ・岐阜はいろいろ組み合わせることで今までにないものができる街。やりたいことができる街であることをPRする。 ・伝統技術を「職」につなげる。 3 G・岐阜県は地域によって色々な特徴があるので、移住者ひとりひとりのニーズに合った街を探して紹介する。 4 G・人が集まる特色ある施設を見直し、その特色を伸ばす。魅せ方、PRの仕方を工夫し、岐阜をPRする。 5 G「日本一の移住定住者を目指す！出会いから住まいそして子育てまで支援する。」 ・移住者の方が、地域に馴染むことができるよう地域の方々と交えたイベントを開催する。 ・空き家をリノベーションして提供する。 ・日本一の子育て支援県を目指す。(待機児童がほとんどないことを、もっとPRする。) 講評・新しいもの、ないものをもとめるだけではなく、あるものを活かすという視点が非常に大切である。 ・一見マイナスに見えるようなものをいかにプラスに転化していくのという視点も重要。
今後の展開	○ぎふ創生県民会議移住定住部会 工学部1年生2名、教育学部1年生1名の計3名が、フューチャーセンターで出た意見を発表。 ○県内全域に限らず、市町村単位で、より具体的なテーマで移住定住について意見交換することも効果的だと考えられるので、機会を捉えて包括連携自治体等にPRする。(上記会議に出席する各市町村の企画若しくは移住定住担当課長にぎふフューチャーセンターについて案内。)
自治体等との調整過程	5月下旬 県清流の国づくり政策課から移住定住に関する学生からの意見聴取について依頼  県担当者と打合せ・調整 8月初旬 ファシリテーターと打合せ 8/8 フューチャーセンター開催 8/26 ぎふ創生県民会議 移住定住部会において学生が意見発表
報道等	8月15日 岐阜新聞朝刊(県内版)「第4回ぎふフューチャーセンター」 8月27日 岐阜新聞朝刊(県内版)「ぎふ創生県民会議(学生発表)」
担当職員感想 (岐阜県)	○ 学生と若手職員等が一緒になって話し合うことで、学生の方々にも移住定住という社会的課題を身近に認識していただく好機となった。 ○ 地域協学センターと連携して実施することにより、大学の有するスキル・資源を十分に活用させていただくことができ、若い方々の自由な意見を引き出す会議として開催することができた。

企画担当者所見	○ 地域を岐阜県全域として意見交換を行っており、各地域の特徴を基にした具体的な提案はなかった。今後、モデル的に地域を特定して開催していくことも効果的である。 ○ 「ぎふ創生県民会議 移住定住推進部会」においてフューチャーセンターに参加した学生の代表3名が、各グループから提示された意見を発表した。部会参加者は各市町村の移住定住担当者や農林商工、金融機関等の団体で、学生の意見発表に熱心に耳を傾けていただいた。 ○ 事前説明の時間配分が短く、意見交換の時間に影響があった。今後は、余裕をもった時間配分を考える必要がある。 ○ 意見交換について、グループによっては自治体職員に頼りきりで、発表も職員が行ったところもあった。グループでの話し合いで発表者を決めるものではあるが、学生が積極的に参加できるように事前に話しておく必要がある場合もある。 ○ 当日の急な増員、資料の提供があったが、スタッフの1人をフリーにしておくことで対応が可能。必要性を再認識した。
---------	--

(地域コーディネーター(岐阜県派遣) 松原 裕子)

第4回 ギフフューチャーセンター アンケート結果・集計 一般参加者用 参加人数34名 回答32名

1 性別	男	23	女	9	
2 年代					
①10代	10	②20代	14	③30代	6
④40代	2	⑤50代		⑥60代	
3 フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。					
①はじめて	29	②2回目	3	③3回目	
④4回目	1	⑤5回目以上			
4 これまでに人たちが集まり話し合いながら何かを決めていく場(ワークショップ等)に参加したことはありますか。					
①今回が初めての参加	9				
②これまでに参加したことがある					
1回	6	2~4回	12	5回以上	5
5 フューチャーセンターへの参加を決めた理由はなんですか。(複数回答)					
①テーマ「岐阜県への移住定住」に関心があったから				7	
②自分の良い経験になるから				9	
③フューチャーセンターに関心があったから				1	
④人から勧められたから				16	
⑤多様な人々と関わりをもちたかったから				2	
⑥その他				6	
〔授業の一環で、担当職務〕					
6 フューチャーセンターの感想についてお伺いします。					
(1)フューチャーセンターに参加することで、どんなことを期待して来場しましたか。(複数回答可)					
①参加者を通してさまざまな地域の情報を入手し、視野を広げること				20	
②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えること				14	
③テーマ「岐阜県への移住定住」に関して、自分の意見を発言できること				6	
④テーマ「岐阜県への移住定住」に関して、自分とは別の人の意見を聞けること				12	
⑤地域に関わる一つのきっかけとなること				6	
⑥その他				6	
〔学生と話せる2、単位の取得、学生に地域での活動に興味を持ってもらいたかった 自分の知らない人と出会うこと、岐阜県や各市町村の移住に対する動きを知るため〕					
(2)今日のフューチャーセンターに参加して、どんな感想をお持ちになりましたか。(複数回答可)					
①参加者を通して様々な地域の情報を聞いて、視野を広げることができた				24	
②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた				17	
③テーマ「岐阜県への移住定住」に関して、自分の意見を発言することが大切だ				5	
④地域に関わるひとつのきっかけとなりそう				7	
⑤その他					
〔住民や移住を希望する当事者の意見がないままだったのが気になった。政策や行政の活動へはどう情報利用するのか気になった、若い人と話せてよかった、学生との意見交換が有意義だった。 今後こういった機会があれば参加したい、すごく楽しかった〕					

(3) フューチャーセンターに参加することで、地域に対する考えにどんな影響があったと思いますか。	
①住民自治の意識が高まった	15
②人(地域、大学、行政など)のつながりができた	25
③行政が身近な存在に感じられた	9
④その他	

(4) フューチャーセンターに参加して、地域に対する考え方にどんな影響がありましたか。(複数回答可)	
①住民自治の意識が高まった	11
②人(地域、大学、行政など)のつながりができた	25
③行政が身近な存在に感じられた	8
④その他	

「さまざまな地域のおもしろい人とつながれて、岐阜県の楽しさが深まった、やり方に
よっては、現場の生きた声が人々の間で共有され、いい動きになると思った」

7 もし移住するとしたらどこに住みたいです。都道府県や市町村名とその理由を教えてください。	
[郡上市]	[自然が豊かで程よく田舎だから]
[郡上市石徹白地区]	[地域の住民が本気で未来を考えて活動している、移住者も入りやすい、おもしろい発想がある]
[海外]	[刺激がありそう]
[各務原市]	[駅が近く名鉄がある]
[岐阜市]	[結局のところこれといった弱点がなく便利だから]
[美濃加茂市]	[便利だから]
[大垣市 2]	[子育て支援が充実し、交通の便も良いため、大垣の大学に通っているため]
[愛知県大岡町]	[税金が安いから]
[愛知県北名古屋市]	[都会でもなく田舎でもないから住みやすい]
[岐阜県 2]	[人が穏やかで自然が豊か、程よい田舎、程よい都会、特化した魅力がないとこ]
[京都市]	[歴史や文化があるから]
[仙台市]	[気候が程よいから]
[本巣市]	[待機児童ゼロが魅力的だったから]
[知多市]	[店も近く、夜は静かできれいな星空が見える]
[沖縄県]	[あこがれ]
[北海道]	[雄大な自然があるから]
[関市上之保]	[よそ者を受け入れてくれる町である]

8 今後、フューチャーセンターに参加したいですか。			
①参加したい	11	②テーマに興味があれば参加したい	19
③参加したくない	1	④その他	

9 自由意見(以下意見:原文のまま)

- ・とても時間が短く感じ、もう少し感が多い楽しいものとなった。立場の違いがすごく良かった。
- ・行政の方を含め、様々な方と共に議論を進めることができ、良い経験になった。一つのテーマで複数回開催して続けて議論しても良いと思う。
- ・とても勉強になりました。ファシリターの仕方、進め方が良かったです。
- ・時間の面でリーダーに頼りがちで、意見がまとまりにくかったです。
- ・とても面白い内容でした。学生の方と語り合うことはなかなかだったので、凝り固まった頭がすっきりしたように思います。本当にありがとうございました。
- ・大学間、また大学のある自治体以外の行政の方とお話ができる機会が今後もあるとうれしく思います。
- ・もう少し話し合いの時間があれば具体的に話が出たと思う。
- ・岐阜県のような地域の話しが聞けて良かった。
- ・ファシリテーターの方が上手かった。
- ・チーム内でファシリテーターを決めることは、学生にとって良い経験になるかと思いました。チーム内の人の構成はあらかじめ決まっていたようでしたので、岐阜大学生など若年の方にやってもらおうと良かったと思います。前半の事例紹介は間に3分の休憩をはさむとよいと思いました。人間は集中力が切れると頭が回らなくなります。ワークショップの進め方は、やはり、分割して進めながらセッションごとに説明したほうが良かったと思います。リーダーの方が困っていました。
- ・アイスブレイクがあることで気持ちが楽になった。司会進行役を決める際に押し付けないところがいいと思った。
- ・アイスブレイクや進行の進め方はとても勉強になりました。

移住定住施策促進への経緯

～人口減少問題に立ち向かい、本県のまち・ひととこと創生である「清流の国ぎふ」づくりを全面展開していくために～

- 平成17年 岐阜県人口・少子化問題研究会を設置
- 平成21年3月 「岐阜県長期構想～人口減少社会への挑戦～」策定
(計画期間：平成21年度～30年度)
→ 当時まだ注目されていなかった「人口減少」に着目し、独自の人口推計をベースとして、来たるべき人口減少、少子高齢化社会を見据えた政策の方向性を打ち出した。
- 平成26年3月 社会情勢を踏まえ「岐阜県長期構想中間見直し」実施
(平成26年5月 日本創成会議が全国の自治体の約半数が「消滅可能性都市」であると公表)
- 平成26年 「岐阜県人口問題研究会」設置
→ 県・市町村職員、学識経験者、民間シンクタンクからなり、本県の人口動態の現状と動向を分析。
- 平成26年8月 「ぎふ創生県民会議」設置
→ 県内各界の代表者からなり、今後の施策のあり方について検討を行う。
- 平成27年8月 「ぎふ創生県民会議 移住定住部会」設置
→ 県内の移住定住関係の実務者からなり、成果指標達成にむけた施策を検討。
- 平成27年10月 「清流の国ぎふ」創生総合戦略策定
※ 5年間(平成27～31年度)の移住者数累計 6,000人 として成果指標を設定

人口の状況

- 2000年(平成12年) 2,107,700人
→ 国勢調査によると、2000年(平成12年)をピークに減少傾向
- 2040年(平成52年) 1,576,183人(推計)

人口の状況

- 推計は1955年の人口とほぼ同じだが、構成が異なる
年少人口(0～14歳)総人口 33% → 11%
老年人口(65歳以上)総人口 10%未満 → 36%

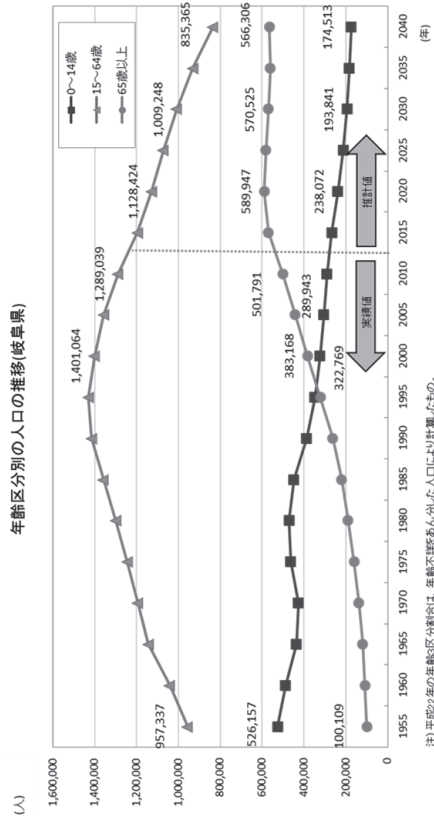
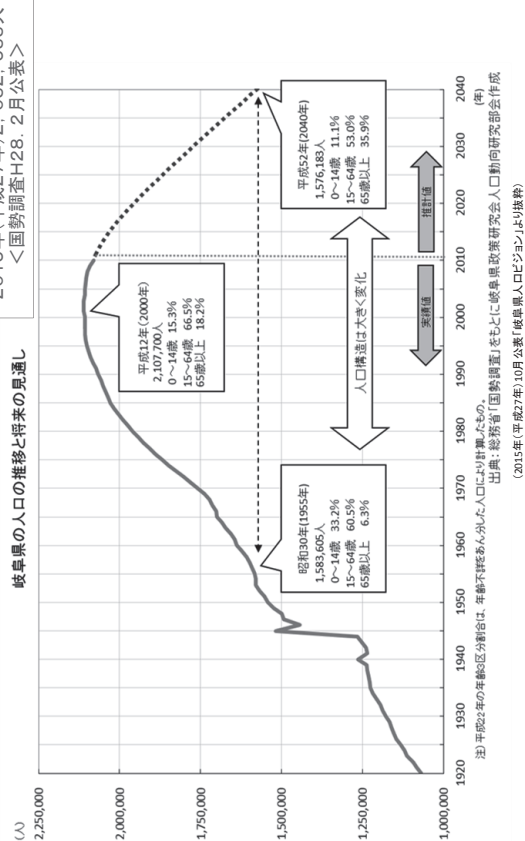
岐阜県の人口推移 移住定住の取り組み

岐阜県清流の国づくり政策課

移住定住まちづくり室

平成28年8月8日(月)

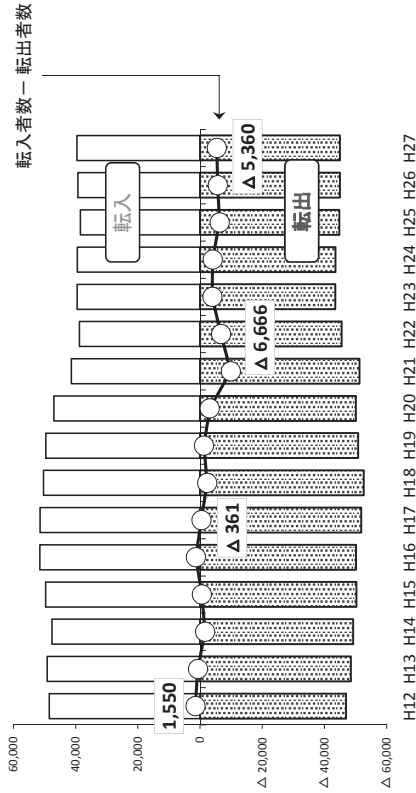
岐阜県の人口の推移と将来の見通し



- 近年の県外への転出超過は、年5～6千人規模で推移
- 直近では、5,360人の転出超過

■ 県外との転入・転出者数の推移

平成12年～平成27年、単位：人

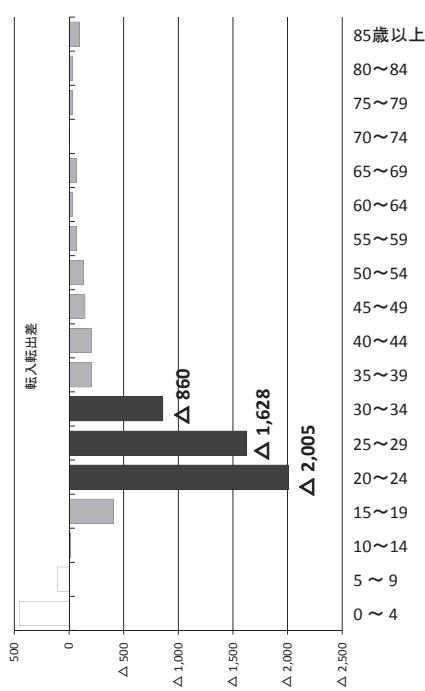


出所：平成27年 岐阜県人口動態統計調査

- 20～34歳の若年層の転出超過が目立つ。

■ 年齢(5歳階級)別社会増減数(転入転出差)

平成26年10月1日～平成27年9月30日



出所：平成27年 岐阜県人口動態統計調査

- 転入者数、転出者数ともに愛知県が最多
- 転入転出差5,360人のうち、愛知県との転入転出差は3,856人で72%を占める。

■ 主要な都道府県との転入・転出状況

平成26年10月1日～平成27年9月30日

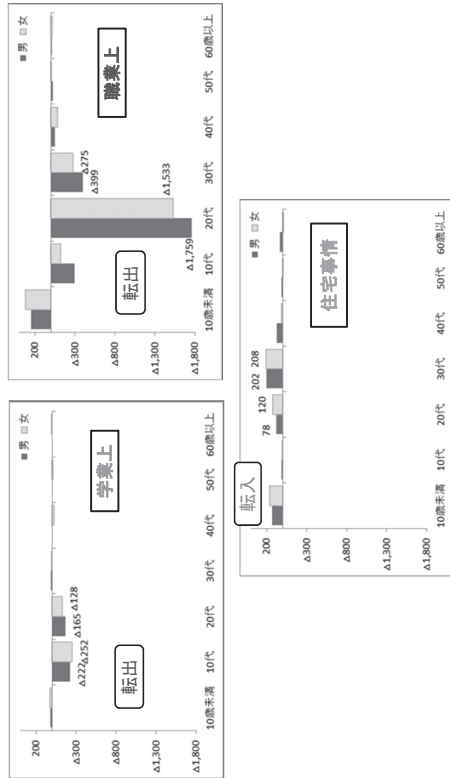
都道府県	転入者数	転入構成割合%	転出者数	転出構成割合%	転入転出差
愛知県	12,403	31.3	16,259	36.2	△ 3,856
三重県	1,457	3.7	1,532	3.4	△ 75
静岡県	1,115	2.8	1,195	2.7	△ 80
滋賀県	708	1.8	728	1.6	△ 20
東京都	1,917	4.8	3,237	7.2	△ 1,320
神奈川県	1,019	2.6	1,314	2.9	△ 295
千葉県	611	1.5	816	1.8	△ 205
埼玉県	672	1.7	863	1.9	△ 191
大阪府	1,289	3.3	1,418	3.2	△ 129
京都府	545	1.4	700	1.6	△ 155
兵庫県	673	1.7	707	1.6	△ 34
県外総数	39,587	100.0	44,947	100.0	△ 5,360

出所：平成27年 岐阜県人口動態統計調査

- 10代は「学業上」、20代は「職業上」での転出超過が多い
- 20代・30代(と10歳未満の子ども)は「住宅事情」による転入超過が多い

■ 主な移動理由でみた「年代別」日本人の社会動態

平成26年10月1日～平成27年9月30日、単位：人



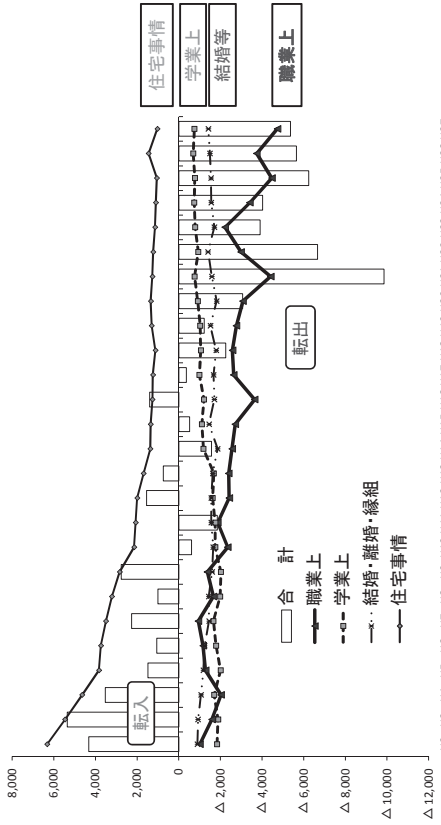
出所：平成27年 岐阜県人口動態統計調査

人口の状況

- 職業上での転出超過が最多、かつ増加傾向
- 学業上での転出超過はやや減少傾向
- 住宅事情では転入超過

■ 主な移動理由別 転入転出差の推移

平成2年～平成27年、単位：人



出所：平成27年 岐阜県人口動態統計調査

注1) 合計は外国人及び離縁記載・消除等を含む。
注2) 県内の市町村間移動を含む。

岐阜県 移住定住実績

● 岐阜県への移住者数は、過去最高を記録

■ 移住者数推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
移住者	165人	309人	422人	596人	782人	1,129人
増加率	—	87.3%	36.3%	41.2%	31.2%	44.4%

※移住者数：市町村の帰国窓口を通じ、あるいは市町村の移住定住支援を受けて、当該市町村に生活の拠点を移した人数

● 移住者数は愛知県が最多

● 関東からの岐阜県への移住者が大幅に増加

■ 移住者の移住前の住所地

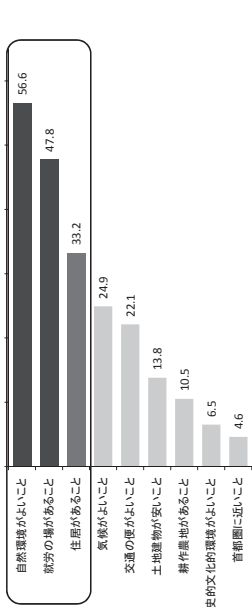
	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
関東	18人	32人	48人	77人	76人	159人
増加率	—	77.8%	50.0%	60.4%	▲1.3%	109.2%
関西	22人	11人	33人	25人	55人	73人
増加率	—	▲50%	200%	▲24.2%	120%	32.7%
愛知県	85人	94人	230人	356人	512人	670人
増加率	—	10.6%	144.7%	54.8%	43.8%	30.9%
その他	40人	172人	111人	138人	139人	227人
合計	165人	309人	422人	596人	782人	1,129人

移住者の動向

ふるさと回帰支援センター 来場者アンケート（公表：平成28年4月）

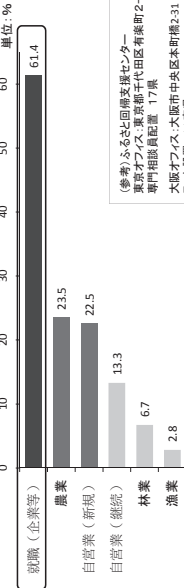
● 移住定住希望者のニーズは、1位 自然環境 2位 就労の場 3位 住居

■ 来場者のニーズ（複数回答）



● 希望する就労形態は、企業への就職が6割強と最多

■ 希望する就労形態（複数回答）



（参考）ふるさと回帰支援センター
東京オフィス、東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館
専門相談員配置 17名
大阪オフィス、大阪府中央区本町橋3-31 シティプラザ大阪1階
ラウンジ設置 11席席

【清流の国さふ創生総合戦略】 成果指標＝5年間（平成27～31年度）の移住者数累計 6,000人

平成28年度 移住定住支援策

1 移住候補地などの情報提供

◆ 三大都市圏での相談対応・情報発信

- 東京、名古屋、大阪における相談拠点の設置及び定期的なセミナー開催による情報発信
- 【東京】清流の国さふ・移住・交流センター
千代田区有明市 東京交通会館内
- 【名古屋】清流の国さふ・移住・交流センター
名古屋市中区栄 中ビル内
- 【大阪】大阪ふるさと暮らし情報センター、移住交流推進機構
大阪府中央区本町橋 シティプラザ大阪内
- 【全国組織】ふるさと回帰支援センター、移住交流推進機構
[JOIN] 等と連携した情報発信
- 【東京】ふるさと回帰フェア2016 in 東京(10月22日・土)
JOIN移住・交流を地場おもしろフェア(11月15日・日)
- 【名古屋】さふ暮らし応援フェア(7月23日・土、2月予定)
- 【大阪】ふるさと回帰フェア2016 in 大阪(8月6日・土)

2 暮らし体験サポート

◆ 体験プログラム

- さふの暮らし体験ツアー（東京、大阪、名古屋発着による計6コースを用意）9月～2月
- 都市部の移住後訪しに各地域での体験を通じて、岐阜県での暮らしを具体的にイメージできる機会を提供
- Webサイト Classica gift(クラスカ岐阜)
県内各地の体験プログラムをWeb上で紹介

- さふ創生県民会議 移住定住推進部会
- 広域連携組織 関市・美濃市・郡上移住定住推進協議会など
- 十六銀行・大垣共立銀行「移住定住に関する協定」
- 移住定住コンシェルジュ(4名に要請)

3 「仕事」への支援

◆ 企業、林業、農業への就職支援

- 【就職】岐阜県地域づくり支援センター
Uターン就職のサポート窓口（職業相談・職業紹介）
- 【林業】岐阜県林業労働力確保支援センター
相談室や研修会、給付金等の各種情報を提供
- 【農業】地域就農支援協議会、就農応援隊
「農業経営塾」(生活)を地域ぐるみで一貫してサポート

4 「住まい」への支援

◆ 住まいを建てる・改修する

- 空き家活用支援事業費補助金（清流の国づくり政策課）
- 岐阜県住宅資金利子補給制度（住宅課）
- さふの木で家づくり支援事業、さふの木で家づくりローン
支援事業（産産材流通課）

5 生活サポート

◆ 教育支援

- 奨学金 教育財団、私立財団、青少年課、清流の国づくり政策課
- 「清流の国さふ大学生等奨学金」
Uターン就職を前提とした給付型奨学金を平成28年度創設
（清流の国づくり政策課）

◆ 子育て支援

- 子育て支援総合サイト「さふ子育て応援団」(子育て支援課)
- 子育てに関する各種支援策を総合的に紹介

◆ ワーク・ライフ・バランス支援

- 「岐阜県子育て支援企業」登録及び「岐阜県子育て支援エ
- クレジット企業」認定を促進（女性の活躍推進課）
- 登録事業所 2,643、認定事業所 55（平成28年7月）

都市部における移住の総合相談窓口

清流の国びる 移住・交流センター

東京

場所：千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館内
時間：10時～18時
(休：月祝祭日、夏季・年末年始)
連絡先：080-7749-3317
e-mail: gifu@furusatoaika.net
「個別就職相談」毎週水曜13時～18時

専門相談員

名古屋

場所：名古屋市中区栄4-1-1
中日ビル4階
時間：平日 9時～17時30分
(休：土日・祝祭日、年末年始)
連絡先：電話 090-2619-2102
e-mail: gifu-huu@nagoya.net
「個別就職相談」毎週月曜13時～17時半

専門相談員

大阪

大阪ふるさと暮らし情報センター
場所：大阪市中央区本町
10F プラザ大阪内
時間：平日 9時～18時
(休：日祝祭日、夏季・年末年始)
連絡先：06-6730-2000
e-mail: huu@ed-afika.jp
「個別就職相談」毎月第1金曜10時～18時

専門相談員

清流の国びる大学生等奨学金

県外通学者が卒業後、岐阜県にリターンして居住・就業する場合に、返還を全額免除
賞与月額 3万円(年額36万円、4年間で144万円)
対象者 県内の高等学校を卒業し、県外の大学等を卒業後、県内で就業する者
(返還全額免除)
次のいずれにも該当すると認められる場合
①大学等を卒業した日の属する月の翌月から起算して6月以内に、県内に居住し、引き続き5年間居住していること。
②大学等を卒業した日の属する月の翌月から起算して6月以内に、県内で就業し、引き続き5年間就業していること。

空き家活用支援事業費補助金

移住者等が居住を目的として空き家を改修する場合に改修費を補助
補助率等 補助対象事業費の1/3(上限1,000千円)
対象者 ①県外からの移住者
②県内外の多子世帯
③県内外の新婚世帯
④①～③と売買又は賃貸借契約を締結して改修する空き家所有者又は賃借権者

清流の国びる 暮らし体験ツアー

東京都、大阪府、名古屋県の移住検討者を対象として、岐阜県内各地域での体験、交流を通じて魅力を実際に知ってもらうことで、岐阜県での暮らしをより具体的にイメージできる機会を提供し、移住に結びつける。

地域おこし協力隊について

- 制度概要
都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。
隊員は一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地域産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援など、「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る。
- 実施主体：地方公共団体
- 活動期間：1年以上3年以下

(総務省の支援：自治体に対し、特別交付税の財政支援)
地域おこし協力隊 全国2,625人(平成27年度実績)

【岐阜県内の状況】 *平成28年8月現在

制度区分	名称	人数	取組市町村(人数)
総務省制度	地域おこし協力隊	51	山県市(7)、本巣市(4)、揖斐川町(3)、関市(2)、郡上市(5)、七宗町(2)、八百津町(3)、白川町(7)、東白川村(3)、惠那市(2)、飛騨市(2)、下呂市(5)、白川村(6)
市町村独自制度	恵那市 ふさと活性化協力隊	2	* 通隣償ソフトや単費を財源に、地域おこし協力隊に類似した市町村独自の制度により活動する支援隊のこと。
	郡上市 地域おこし実践隊	5	
合計		58	
県内隊員の約5割が女性		県内隊員の約9割が20～30歳代	任期終了後、約5割が県内に定住(*H27年度総務省調査)

＜本日の参加市町村＞ 本巣市 下呂市 七宗町 白川町 白川村

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.08.08



岐阜県への移住定住者を 増やす方策を考える

8月8日のフューチャーセンターは、岐阜大学、岐阜経済大学、森林文化アカデミーの学生及び地域おこし協力隊員とその受入れ自治体の職員等、計34名が参加しました。

参加者は、岐阜の魅力や将来住んでみたい街について意見を出し合った後、移住希望の方に岐阜を選んでもらうために必要なことを話し合いました。各グループからは、「自然を活かした起業の可能性をPRする」、「魅せ方、PRの仕方を工夫する」、「空き家をリノベーションし、移住希望者に提供する」などの意見が出され、新しいものを求めるのではなく、今ある魅力を活かす視点が必要だという提案がされました。

今回の提案は、8月26日(火)に開催された「ぎふ創生県民会議 移住定住推進部会」で学生代表3名から発表され、今後の施策の参考とされることが期待されます。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

- 大学生に岐阜の魅力をPRする
- 自然を活かしたカフェなどの起業の可能性をPRする
- 魅せ方、PRの仕方を工夫する
- ひとりひとりのニーズに合った街を紹介する
- 県外の方だけでなく県内の方に対しても移住のメリットをPRする



岐阜大学
地域科学部4年

舟橋 皓希 さん

移住定住は身近な問題

行政を含め様々な方と議論し、それを一つの考えにまとめるという良い経験ができました。移住定住を自分自身の問題として考えることができました。



岐阜経済大学3年

野田 莉緒奈 さん

岐阜を知るよい機会!

フューチャーセンターには初めて参加したが、いろいろな立場の人と話しをして、岐阜のことを知る良い機会になりました。



本巣市
地域おこし協力隊

田淵 琢真 さん

斬新な意見を交換できる場

学生や自治体職員との意見交換により、斬新な意見を聞くことができてよかったです。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

第5回 ぎふフューチャーセンター

運動を始めるきっかけづくりについて考える

平成28年10月19日（水）

会場：岐阜大学サテライトキャンパス

主催：岐阜大学・岐阜市

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 5 回 んふフューチャーセンター	
主催団体	岐阜大学・岐阜市
会 場	岐阜大学サテライトキャンパス
日 程	平成 28 年 10 月 19 日（水）14:00～16:10
背 景	人口減少と少子高齢化が進む中、岐阜市の歳出総額のうち医療費・介護給付費が約 3 割を占めており、医療費・介護給付費の増加に伴う財政の硬直化による行政サービスの低下が懸念されている。今後、医療費・介護給付費の伸びを抑制するためには、市民の健康を維持増進することが重要である。 健康を維持増進するには、身体活動量が多い人ほど、がんや心疾患などで死亡するリスクが低下するという統計データがあり、身体活動量を増加させることが有効である。岐阜市健康基礎調査によると、約半数の市民が普段、スポーツ、運動（散歩などの軽い運動も含む）を実施していない。 今回、学生と市民等が議論することにより、運動するきっかけづくりのアイデアを考えることで、市民の健康の維持増進につなげたい。
目 的	身体活動量を増やし市民の健康増進につなげるために、普段、運動をしていない市民各個人が運動するきっかけとなるようなアイデアを考える。 さらに、この FC で出されたアイデアについて、今後の岐阜市の「ぎふ健幸チャレンジ」事業等にかされる。
テーマ	「運動を始めるきっかけづくりについて考える」 （1）健康でいるため、やりたい（やっている）運動は何か。 （2）どういうきっかけがあれば、運動を始めるか（始めたか）。 （3）多くの人が運動を始めるきっかけとは何か。
参加者構成	参加者合計 27 名（5、6 人×5 グループ） ・学生 13 名 ・地域 5 名 ・岐阜市職員 9 名
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	伊藤 栄一氏（岐阜大学地域コーディネーター）
当日のスケジュール	12：30～ 会場準備 13：00～ バス出発 岐阜大学バス停ロータリー 発 13：30～ バス到着 岐阜大学サテライトキャンパス前 着 （30 分） 受付開始 14：00～ 開会 （15 分） 挨拶及びフューチャーセンター紹介 グループワークの方法（付箋、グループリーダー）の説明 グラドルールの徹底 14：15～ 情報共有 （20 分） ※岐阜市スマートウェルネス推進課から、健康施策について紹介

	14：35～ アイスブレイク (10 分) 14：45～ セッション①②③ (45 分) 15：30～ まとめ (15 分) 発表できるようグループ毎にまとめ 15：45～ 発表・コメント (20 分) グループ毎に発表 (5 グループ×2 分) 16：05～ アンケート・閉会 (5 分) 振り返り 16：10 終了 16：25 撤収 16：30 バス出発 岐阜大学サテライトキャンパス前(十六プラザ前)発 17：00 バス到着 岐阜大学バス停ロータリー 着
今後の展開	・この対話で出されたアイデアについては、来年度の岐阜市の施策の参考としていく。 ①運動する仲間を作るための支援の検討 ②運動する場づくりの検討
出された意見	【1 グループ】 ・時間がない、お金がないという理由で運動ができない状況に対して、ご褒美がもらえるような気軽に参加できるイベントや、人が集まることができる施設があると、運動を始めるきっかけとなるのではないかな。 ・運動する仲間作りや、子供会・自治会などの組織を利用するなどして、取り組むと効果的。 【2 グループ】 ・一緒にやれる仲間がいないことや、運動をする場所がないなどという理由で運動をできない状況に対し、行政が運動をする教室を開催し、機会を提供することが、重要。 ・友達から誘われる、流行、異性にもてるためなどが、運動のきっかけになる。そのような理由で始めた運動が、結果として、健康につながる。 【3 グループ】 ・運動のきっかけを4つに分類した。①友人関係、②イベント（無料で参加できる気軽な運動イベント、合コン）、③健康・生活（健康診断・ダイエット）、④環境整備（子供を預かってもらえる、指導者がいる） ・運動をする時間を確保するため、有給の積極的な取得を奨励することが重要。 【4 グループ】 ・運動をはじめたきっかけは、自分で始めた、環境により始めた、友人から誘われたなどがある。 ・年齢層により、運動を始めるきっかけが異なる。 ・若年層は好きな運動を始めるが、年齢層が上がるにつれて、健康管理や体力の維持増進などやらなければならない状況になったという理由で始めることが多い。 ・マッスルメモリーの観点から、若いうちから運動を始めることが重要。

	【５グループ】 ・通勤で歩くなど、時間がない中でも、日常生活の中に無理なく運動を取り入れるとよい。 ・運動イベントを開催して、運動施設をチェックポイントとして、スタンプラリーを行うとよい。 ・運動施設を人が集まりやすい仕掛け（周知に注力）をして、人を集めると効果的。
自治体等との調整過程	8月 岐阜市健康部スマートウエルネス推進課との調整開始 9月 ファシリテーターとの打合せ 9月上旬 スマートウエルネス推進課と企画内容を協議
担当職員感想(岐阜市)	・運動する仲間づくり、イベント等のきっかけづくりが重要などの今回のFCで出された意見を来年度の施策に活かしていきたい。 ・ウォーキングイベント等に仲間とともに参加してほしい。 ・運動のきっかけづくりは、自分自身でできることから実行できるとよい。
企画担当者所見	・健康を課題とする他の地域で、今回の手法を参考に、横展開できる可能性がある。 ・今回のFCの開催により、健康意識の醸成につながった。 ・大学HPから地域の方の申し込みが2名あり、地域の方にも関心があることがわかった。

(地域コーディネーター（岐阜市派遣）中尾 真一郎)

第5回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果・集計 参加人数27名 回答27名

1. 性別	男	19	女	8
2. 年代				
①10代	4	③30代	5	⑤50代
②20代	15	④40代	2	⑥60代
				1
3. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。				
①はじめて	16	③3回目	1	⑤5回目以上
②2回目	6	④4回目	1	
				3
4. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)				
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた				19
②さまざまな知識や経験を持つ人(地域、大学、行政など)と知り合えることができた				16
③大学又は行政が身近な存在に感じられた				2
④その他(以下意見:原文のまま)				
・若い人達の素直な意見が聞けた。全体に楽しかった。				
5. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？				
①参加できた	23	②どちらでもない		4
③参加できなかった				
6. 普段から運動(歩き等の軽い運動を含む)していますか？				
①運動している(質問7へ)		21		
②運動していない(質問8へ)		6		
7. 質問6で①と回答した方へお聞きします。普段の生活でどれくらいの頻度で運動をしていますか？				
①毎日		②週5日以上	2	③週3日以上
④週1日以上	11	⑤2週間に1日以上	1	⑥2週間に1日未満
				6
				1
8. 質問6で②と回答した方へお聞きします。FC参加に参加して、今後、運動をしようと思いましたが？				
①運動しようと思う	6	②どちらでもない		
③運動しようとは思わない				
9. 今後、ぎふFCに参加したいですか。				
①参加したい	3	②テーマに興味あれば参加したい		24
③参加したくない				
④その他				
10. 質問9で①または②と回答した方にお聞きします。今後のぎふFCの開催について、メールにてご案内してよろしいですか。				
①送付してよい	4	②案内は必要ない	7	

11. 自由意見(以下意見:原文のまま)

○FCについて

- ・学生だけではなくから、意見がたくさん出て楽しかった。
- ・今までかかわったことがない人ばかりだけど、意見が言いやすかった。
- ・様々な意見が出るので、まとめるのが難しいことが分かった。
- ・色んな人がいるから自分では思い浮かばない意見が出て、面白いと思った。
- ・自分がリーダーとなったときには、グループ内に知り合いがいないから話づらいという環境にならないようにしたい。
- ・これまでの経験や年齢によって同じテーマでも出る意見がだいぶ異なることが分かった。
- ・2時間弱という短い時間でも同じテーマについてみんなで話し合うことでお互いのことが少し知れた気がした。
- ・意見を出したら、みんなが膨らませてまとめてくれるので、自分の中でまとまっていなくても、意見を言おうと思う。
- ・初めてのFCの参加でしたが、とても楽しかった。
- ・他の人の考えを知った。将来、同じ問題に面したとき、違う発想が出てくるかもしれない。
- ・参加できてよかった。
- ・普段、関わることのない人たちと話ができて良い機会になった。
- ・地元の話だったので、興味が持てて楽しかった。
- ・いろいろな意見に接触して、視野を広げられた。
- ・フューチャーセンターの流れ・進め方について学びになった。
- ・全体的に意見の羅列のようになってしまった。
- ・地域科学部の2人が顔見知りで、少し閉鎖的になっていたことが残念だった。
- ・1班の1人、流れを分かっているリーダーを配置している点はよいと思う。
- ・話し合いの前の現状説明セッション別の話し合い、付箋の色を変えるなどはすごくよいと思う。
- ・業務の中で、色々な課題に行き詰ったとき、今回のような形でみんなで意見を出し合いまとめていくと効率的で、効果的と感じた(多くの意見が出るし、スムーズにまとまる)。
- ・学生と社会人という立場の違いから、新鮮な意見を取り入れることができた。
- ・行政2人と学生3人だったが、普段の生活スタイルが違う分、運動している時間や内容なども異なり新鮮味を感じた。
- ・いろいろな考えが出る中、どれもその通りだと思うことが多く、自分では絞り出せない意見が出るのは面白かった。
- ・相手の意見を尊重することは大事なことだった。
- ・的外れなことを言うてしまうのではないかと日本人らしい考え方は捨てて、もっと自分の意見を出していこうと思った。
- ・FCに2回参加し、貴重な経験ができた。
- ・幅広い年代の方と話すことができて、自分にない視点や意見を知ることができて良かった。
- ・職場以外の方の目線を意識して岐阜市の政策を考えていこうと思う。
- ・いい刺激になった。
- ・いろんな立場・年齢の方の話を聞いて、自分が思いつかないことも多かったので、2時間楽しく参加できた。
- ・どんな話のテーマでも1つ1つ細かく分けて話すことで、意見がまとめてられて面白い提案ができることが分かったので、活用したい
- ・大学生と話すことは、最近なかったもので、新鮮な感じがした。有意義であった。
- ・普段なかなか接することのない方たちとセッションすることができ、貴重な経験になった。
- ・フューチャーセンターへの参加は初めてで雰囲気はわからず緊張もあったが、とても話しやすい雰囲気の中で楽しく学ぶことができた。
- ・私の班には学生のほかにスポーツインストラクターの女性や市役所職員の男性がいた。話し合いの中では学生と社会人という立場からの話だけでなく、地域の中の女性、働く独身男性といった立場からの意見も聞けて自分の中にはなかった考えを知ることができ有意義であった。
- ・今すぐに使えそうな「運動を始めきっかけづくりのアイデア」を導き出すと思っていたが、今回はそんなに深いところまで掘り下げなかったのが予想と違っていた。
- ・普段かかわる機会の少ない人たちと意見の交換をすることが大切なのかと思った。
- ・フューチャーセンターへの参加は初めてで雰囲気がわからず緊張もあったが、とても話しやすい雰囲気の中で楽しく学ぶことができた。
- ・物事を多面的に見るためには自分一人では限界があり、それを補うために話し合い意見を出し合うことが重要であると改めて感じた。
- ・今回初めてフューチャーセンターに参加したが、学生だけで話し合うのではなく、行政の方を中心に様々な年齢層の方と話し合うことができ、とても有意義な時間になった。
- ・こういう話し合いは一つの議題に対し協力して意見を出し合いますが、いろいろな意見を考えるとともに自分を見つめなおす時間になると思った。
- ・様々な人の意見を聞き、自分に足りないことや、新たな考えを教えてもらったりできるので、個人にとってもいい機会だと思った。
- ・私はぎふフューチャーセンターに参加するのは今回が初めてだったが、普段なかなか接することのないような方々ともセッションすることができ、貴重な経験になった。いろいろな立場の方からの意見を聞くことで、自分の意見とはまた違った視点の考え方に触れられて、勉強になったし、新鮮だった。
- ・今回のフューチャーセンターに参加してみて、フューチャーセンターの良さはやはり地域の人たちと知り合えるところだと感じた。普段は教員と学生の立場で議論を交わすことがほとんどだと思う。フューチャーセンターでは、地域で働く公務員の方だけでなく、市民の方とも議論を重ねられるので、学生として非常に充実した時間・空間を作り出すことができていると思います。

○運動について

- ・話しやすいテーマだと思う。
- ・運動指導者をしているので、今後、初心者の方の運動のきっかけづくりに活かしていきたいと思う。
- (例) イベントの企画、環境整備、友人関係(ネットワークづくり)など
- ・これまで運動をしてこなかったで、友人などを誘って、ランニングをやろうと思う。
- ・スイーツマラソンに参加したいと思う。
- ・他の人が自分より運動していると知った。
- ・運動に関する現状を学んだ。
- ・自分で出した案(仲間を作って運動など)を自分の生活に活かしていきたいと思った。
- ・市民に運動をしてもらうことは思っていた以上に大変で、案を出すのが難しかった。
- ・行政がウォーキング大会を実施している目的が分かったので、今後、祖母や母を誘って参加しようと思う。
- ・自分は運動が好きで、グループ内でも運動好きな人ばかりだったので、運動が苦手な人がいると、話に厚みがでると思う。
- ・友達と一緒にもっと運動しようと思った。
- ・筋肉は自分が運動していた時を覚えているマッスルメモリーがあるようなので、運動したいと思った。
- ・大人になったら、より時間や金銭面に余裕がなくなることや聞いたので、ランニングとか手軽なことをやりたいと思った。
- ・運動のきっかけについて、友人と始めて続けていることや取り組んでいるイベントの知名度を高めるために、口コミやメディアを通じた発信力が必要であるといった意見が参考になった。
- ・自分が運動を始めて、多くの人に伝えることが重要と思う。
- ・自分ができる範囲で、イベントに参加していきたい。
- ・普段、漠然としか考えていない運動や健康に関して、どうすれば運動を始めるきっかけとなるか考えることで、いろいろな面から物事を見るための1つの経験になったと思う。
- ・年を重ねるにつれて、運動を始めるきっかけがどう変化していくのか学びになった。
- ・自分がやりたいと思った運動をできる限り始められるように積極的に行動したい。
- ・今回、話したことを今後の自分の運動習慣にも活かしていきたい。
- ・岐阜市の施策を知ることができた。運動の大切さを再認識できた。
- ・普段の運動といえば、駅まで歩くことくらいしかないので、もっと運動したい。
- ・運動は大切と感じた。
- ・出てきた意見について、イベント開催や気軽に使える施設などがあつた。
- ・国によってスポーツのとらえ方・認識等違う。
- ・中国では野球がかなりマイナーということに驚いた。
- ・今回運動について考えるうえで、自分の意見では、まず自分はどういった理由で運動をしてきたのかを考え、そこからどうすれば運動を始めようと思ってもらえるのかという意見を考えた。子供のころの体験や、実際に解放されていた体育館で遊べたなどのことから、周りの環境によっても運動のしやすさは違うもので、その環境を整備することが重要になっているのではないかと考えが出せた。
- ・漠然と健康のためといっても目標が遠く、実感が持てないために続かないのではないかと考えられ、運動を始めるきっかけ、一つの課題に対していろいろな面から考えることができたので良かったと思う。
- ・他の人の意見ではイベントなどの開催やそれをメディアや口コミ(SNS)などで広げまずイベントそのものの知名度を高めるべきだという意見や、友人・同僚などと一緒であることが運動を始めるきっかけ、継続する理由になるといった意見があり、自分では気づけなかったことや重要だと思っていたことに気づくことができた。
- ・仕事をして結婚をしてからの意見はというと学生からでは出ない意見だと思い、こういう話し合いならではないかと思った。
- ・学生であれば時間はありすぐに行動がしやすいが、働きだすと時間がなく、時間があっても疲れをとりたがためになかなか行動がしにくくなることでした。さらに結婚をし、子供ができると、より時間の制約がかかったり、金銭的にも余裕がなくなったりし、何か始めようとしてもできないことが多いとのことだった。それらのことを聞いて、学生のうちにやりたいことはやっておくべきだと思った。
- ・私自身、やりたくても実行に移せていない運動やスポーツがまだまだたくさんあるので、今回のフューチャーセンターをいいきっかけにして今後は積極的に自分のやりたい運動・スポーツに取り組んでいきたい。
- ・今回のテーマでは運動を始めるきっかけについて議論しましたが、自分ひとりで新たに運動を始めることは難しいと改めて感じた。
- ・他の人たちも似たような意見が多かったと思う。
- ・高齢者の健康寿命を延ばすために運動の促進をしていくというテーマでしたので、高齢者が参加しやすいコミュニティをつくっていくことは重要だと考えた。運動をすることだけに限らず高齢者のみならず若者が日常生活を送りやすい関係をつくっていく環境があれば地域的に見ても良い効果が生まれるのではないかとと思う。
- ・中学校はずっと運動部だったけど、大学にはいつからかは全然運動しなくなっていたので、しないといけないという良い刺激を受けた。
- ・岐阜市は積極的に市民にスポーツ活動を啓発しているとおもう。
- ・わたしの住む市の広報にもスポーツイベントのお知らせがよく入っている。
- ・住民に積極的に啓発し、イベントに参加してもらい、運動を継続的にやれる環境を整えていくと良いと思う。

○その他

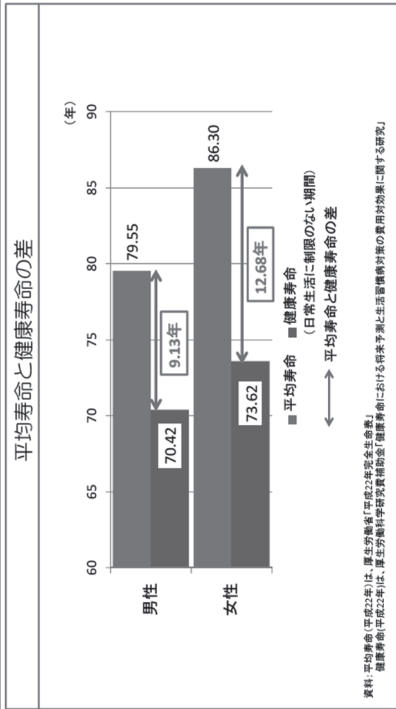
- ・岐阜市の事業にできるだけ参加していきたいと思う。
- ・岐阜市が運動に関するイベントを行っていることを知らなかった。
- ・岐阜大学出身の岐阜市役所の方と知り合えてよかった。
- ・自分も岐阜市出身ですが、知らなかった行政の事業が多々あった。
- ・市の事業に参加してみようというきっかけになった。
- ・多くの方々に共通する意見であると思った一方で、行政として取り組みを行っているが、知っている人が少ない。
- ・行政の事業について、周知の方法について、検討が必要であると感じた。
- ・各種審議会等で、大学生など若い世代のご意見も聞ける機会があればと思う。
- ・岐阜市で健康づくりのイベントが行われているのを知らなかったため、行政が取り組んでいるイベントや掲げている目標を知れた点でよい機会であった。

運動を始める きっかけづくりについて考える



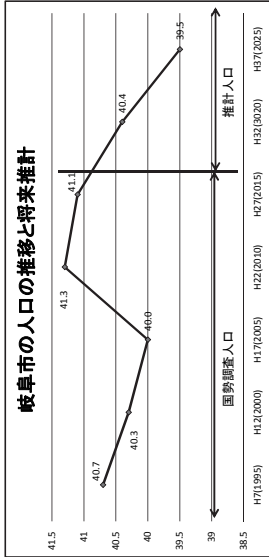
平成28年10月19日
岐阜市 健康部 スマートウェルネス推進課

日本の平均寿命と健康寿命

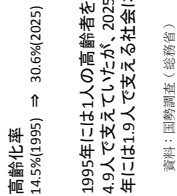


平均寿命と健康寿命の差を縮めることが重要

岐阜市の人口将来予測

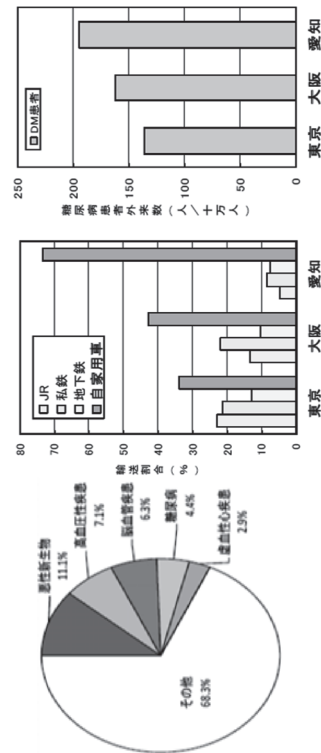


岐阜市の人口構成の推移と将来推計



生活習慣病

生活習慣病の一般診療医療費に占める割合



(為本推定：肥満と糖尿病：8,823, 2009より引用)

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.10.19 2017年1月1日発行号

VOL.26

運動を始める きっかけづくりについて考える

10月19日(水)に岐阜大学サテライトキャンパスで、第5回ぎふフューチャーセンター「運動を始めるきっかけづくりについて考える」を岐阜市と共同で開催しました。今回のフューチャーセンターには、岐阜大学生、岐阜市職員と市民の計27名が参加しました。

最初に、参加者は岐阜市スマートウエルネス推進課の担当者から健康寿命や医療費、岐阜市の健康施策の事例などについて話を聞き、情報を共有しました。その後、運動を始めるきっかけづくりについて議論し、「ご褒美がもらえるような気軽に参加できるイベントの開催」、「運動をする時間を確保するため、有給の積極的な取得を奨励する」、「通勤で歩くなど、時間がない中でも、日常生活の中に無理なく運動を取り入れる」といった意見が出されました。

今回の対話を通して、参加者の運動に対する意識の向上が期待されます。また、この対話で出されたアイディアについては、今後の岐阜市の健康施策の参考とされる予定です。



今回のまとめ

- ご褒美がもらえるような気軽に参加できるイベントの開催
- 運動をする時間を確保するため、有給休暇の積極的な取得を奨励する
- 通勤で歩くなど、時間がない中でも、日常生活の中に無理なく運動を取り入れる
- 年齢層により、運動を始めるきっかけが異なる
- 人が集まることができる施設があると、運動を始めるきっかけとなる

各グループからの
意見・アイデア



今後、運動をしようと思います!

岐阜大学地域科学部4年

舘山 大河 さん

今回のフューチャーセンターに参加して、各グループ発表で、いろんな方の意見を聞いて知識が深まるとともに、視野が広がりました。今後、自分自身が社会人になったときに活かしていきたいと思います。普段、時間がありませんが、その中でも時間を見つけて、運動に取り組みたいです。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>
[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

第6回 ぎふフューチャーセンター

ジビエ肉が家庭で食べられるようになるには

平成 28 年 11 月 16 日（水）

会場：郡上市大和庁舎防災研修室

主催：岐阜大学・郡上市・郡上やまと獣肉利活用推進協議会

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 6 回 りふふチャーセンター(in 郡上)	
主催団体	岐阜大学・郡上市・郡上やまと獣肉利活用推進協議会
会 場	郡上市役所 大和振興事務所 防災研修室 郡上市大和町徳永 585 番地
日 程	平成 28 年 11 月 16 日（水）14:00～16:30
目 的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様で豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献することを目的としてりふふチャーセンターを実施する。
テーマ	「ジビエ肉が家庭で食べられるようになるには」 ①ジビエ肉のイメージとは ②ジビエ肉の印象とは ③ジビエ肉が食べてもらえるようになるには
内 容	郡上市は面積の 90% を山林が占め、猪、鹿、猿など農業被害を引き起こす野生鳥獣が多数生息しており、駆除を進めている。駆除後には埋設、焼却されることが多い。しかし、ヨーロッパでは食材として利用されており、ただ駆除し廃棄するのではなく、ジビエ肉として地域振興策への活用が注目されている。 郡上市大和地域においては、郡上やまと獣肉利活用推進協議会を組織し、メニュー開発、そのメニューの試食会などを実施し、ジビエ肉の普及に努めている。また、郡上市総合計画においても特産品振興のひとつとしてあげられている。しかし、普及が進んでいるとは言い難い面がある。普及が進んでいない理由として、消費者がジビエ肉についての知識が（少）なく、未知の物より、よく知っている牛、豚、鶏を選択している事が考えられる。 今回のりふふチャーセンターでは、ジビエ自体の理解を深め、課題やメリットの整理を行い、普及に繋がるアイデアを考えた。セッションでは、ジビエに対する知識が（少）ない状態でイメージを出し、試食・情報提供を受けて、どう印象などが変わったか（変わらなかったか）を話し合った。セッション 3 では、セッション 1、2 までを受けて普及させていくために必要なアイデアを考えた。
参加者構成	参加者合計 20 名（5 人×4 グループ） ・学生 9 名 ・郡上やまと獣肉利活用推進協議会 他各種団体 9 名 ・郡上市職員 2 名
対話の方法	KJ 法 3 セッション 5 人／4 グループ
ファシリテーター	地域協学センター 伊藤栄一コーディネーター
グループ発表 ※要約	1 グループ 【ジビエに対するイメージ】 （食べたことがある）くさそう、油っこい、独特な肉のくさみがありそう、高

	そう、食べられるお店が少ない (食べたことがない) ヘルシー、臭みも少なくおいしい →食べたことがある人となない人ではイメージに差がある。食べる機会が少ないことからイメージ、知識の不足に繋がっている。 【試食後の印象】 臭みが少なかった、食感が良くておいしかった、子どもも食べやすい →試食後はプラスイメージばかり出てきた。マイナスイメージが出てくるのはイメージ不足、知識不足が理由ではないか。 【広めるには】 (広報に力を入れる) ・学校給食で地域食材として扱い、子どもの時から親しんでもらう。 ・調理方法を広めることで家庭でも食卓に並んで、親にも広まる。 (食べられる環境づくり) ・お店を増やす ・いい肉を使って、おいしい料理を出し、「ジビエがおいしい」というイメージを広めてもらう ・長期保存ができる加工品を作成し、県外へお土産として広める。 (供給体制) ・安定した供給ができるように猟師を増やす必要がある 2 グループ 【ジビエとは】 解体所経営者から聞いた事 ・熊、鹿、猪等の肉でフランス料理に使われる ・子どもアレルギーに効くと言われている ・処理によって味が変わる 【ジビエに対するイメージ】 ・マイナスイメージばかりである (固い、手に入りづらい、値段が高い) ・見たことがない (留学生) 【ジビエの印象：試食後・情報提供後】 ・プラスイメージに変わった (におわない、初めて食べたがおいしい) ・低カロリー高たんぱくで若い女性でも食べやすいのではないかな 【広めるためには】 3つの提案→知ってもらい、食べてもらい、販売方法の改善 (知ってもらい) ・給食、試食会で食べてもらい ・豚肉のおまけで猪肉を食べてもらい ・SNS で拡散 (食べてもらい) ・試食会、イベントで多くの人に提供する
--	--

	(販売方法の改善) ・ 猟師を増やす ・ 処理・販売店を増やす ・ インターネット販売など入手を容易にする 【グループからの提案】 「週に一度はジビエの日」 みんなでジビエを食べよう 3 グループ 【印象について】 ・ くさみがある→（試食後）普段食べているものと遜色ない ・ 遜色がないことがいいことなのか、安全面はどうなのかという課題が出た 【広めるには】 (流通させたい) ・ 安全面の保障が必要。解体所の数を増やす。検査体制も確立する。 ・ 食肉確保のため官民一体となって猟師を増やす。 ・ 「郡上から出よう、外へ外へ」 郡上以外でも周知活動を行う (広める) ・ 給食で出す。 ・ 「ジビエを食べる日」を県など行政が定める。 (その後・・・夢) ・ 郡上ジビエのブランド化 →海外輸出、専門レストランの出店・チェーン化 4 グループ 【ジビエのイメージ】 ジビエの肉とは何の肉？、味にクセがありそう、においが気になる、田舎で食べる、値段が高いのではないかな 【試食後の印象】 おいしい、食べやすい、豚や牛の代わりになり得る 【広めるには】 (売り方) ・ ネット販売 ・ ふるさと納税の返礼品 ・ 牛豚のように大衆化するのではなく特徴が残るようにする。馬肉のように特別感があるほうがよい (PRの方法) ・ 「ジビエ」の言葉自体が一般的でない。「ジビエと言えば郡上」と連想ができるようにする。 ・ 郡上の中だけで広めるのではなく、県内外に広めていく。各地のイベント等で試食を提供するなど。
--	--

当日のスケジュール	開会 FCの説明、概要 アイスブレイク（18歳と81歳の違い） 話し合い（3セッション） グループ発表・講評 閉会
今後の展開	○郡上やまと獣肉利活用協議会や郡上市大和振興事務所において、給食での提供や「ジビエの日」など、取り組みが可能と思われる活動への参考意見とされる。
自治体等との調整過程	4月15日 郡上市大和振興事務所担当者と開催協議 10月25日 郡上市大和振興事務所担当者と運営協議 11月 1日 ファシリテーターと運営協議 11月 2日 郡上市大和振興事務所担当者と運営協議 11月 8日 郡上市大和振興事務所長、副所長、担当者と運営協議
報道等	11月18日 岐阜新聞 朝刊 地域総合
担当職員感想 (郡上市)	・今までも様々な活動を展開してきたが、大学生の人を交えて新しい意見、活動に繋がるものを聞く事ができた。 ・新しく聞く事ができた意見を取り入れて、ジビエ普及の活動を行っていききたい。 ・ジビエの普及に関わる団体の方も、普段あまり話すことがない年齢層やジビエについてあまり知識のない人と対話ができた。新鮮な意見が聞けたことが刺激になり、「改めて普及に向けた活動に気力がわいた」と感想を受けた。
企画担当者所見	ジビエは全国的に「地域資源」としての活用が注目されている。郡上は、猪が三大産地の一つと言われるなど、資源として活用するための下地が整っている。しかし、ジビエの資源としての活用は多くの地域で成功しているとは言い難い事例が多く、衛生管理、供給体制、知識不足など、郡上でも課題は多くある。 今回はジビエに対する知識を向上させることが目的であったが、ジビエ普及の関係者と対話したことによって、学生たちから衛生管理や供給体制についての話もあり、想定していた以上の意見が出せてもらえた。 出された意見では、給食での提供や「ジビエの日」制定など、行政としてもすぐに取り組めるものが参考となった。市の担当者、団体とともにできることから推進をするようにしていきたい。

(企画者：地域コーディネーター(郡上市派遣) 安藤 祐二)

第6回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果・集計 参加人数20名 回答20名

1. 性別	男	16	女	4			
2. 年代							
①10代	2	②20代	7	③30代	0	④40代	3
⑤50代	4	⑥60代	3	⑦70代	1		
3. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。							
①はじめて	11	②2回目	5	③3回目	0		
④4回目	0	⑤5回目	2				
4. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)							
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた					15		
②さまざまな知識や経験を持つ人(地域、大学、行政など)と知り合えることができた					9		
③大学又は行政が身近な存在に感じられた					8		
④その他					0		
5. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？							
①参加できた		19	②どちらでもない		1		
③参加できなかった		0					
6. 今後のジビエの普及に向けて何が必要と感じましたか？(複数回答可)							
①ジビエ自体の理解を深める					15		
②良い点を広める周知活動					16		
③衛生面など供給体制の整備					7		
④その他(以下意見:原文のまま)					2		
・郡上市から出る！ 給食・学食・刑務所・自衛隊などから普及							
・ジビエとは何か。どこで食べることができるのかPRする。「ジビエを食べに郡上に行こう！」							
7. 岐阜大学では、月1回を目途にFCを開催していますが、今後、ぎふFCに参加したいですか。							
①参加したい		6	②テーマに興味あれば参加したい		13		
③参加したくない		1	④その他		0		

8. 自由意見(以下意見:原文のまま)

○フューチャーセンターに対する感想

- ・今回のぎふFCに参加することで、ジビエという言葉を知ることができた。それと郡上の魅力を知って、地域の皆さんと交流できてうれしかったです。きてよかった！
- ・ジビエという全く未知のものについて考えるので、全くイメージがわからなかったけど、郡上のジビエと関わりの深い方々とお話しできて良かったです。自分ではジビエを食べる機会にめぐり会えないのでFCでこういった内容とめぐり会えて大きな経験になりました。
- ・ジビエは普段食べることがなく、深くは知らなかったので、ジビエ自体をよく知ることができ、いい機会になりました。また、今日の話し合いにおいては地元の方が本当にジビエを普及させようという思いが伝わってきて、自分達もそこに一役買わなければならないと思いました。そのため議論も白熱しておもしろかったです。
- ・初めて参加させていただきました。学生のすなおな意見等身近に聞けて良かったです。大学と地域の交流ありがたかったです。
- ・今までこりかたまった自分の意見やまわりの人の意見で、今回、外に目を向けてやお土産、輸出入、ブランド化等、斬新な意見が聞けて良かったです。参加できて良かったです。
- ・岐阜大学祭の折、シシ、シカ肉を是非とも出したいです。今回は大学生との交流会良かったです。又、参加したいと思います。
- ・大学と地域を結ぶよい機会でした。若い人たちに今後プラスになっていくように願っています。貴重な時間をありがとうございます。

○ジビエに対しての感想など

- ・ジビエ肉を普及させるという目的を達成するには、ジビエ肉の調理方法や味、入手方法を広めることが必要で、また、そのための環境づくりが重要であることが分かった。話し合っている中で、広めるにはどうすればよいかという課題と、実食した時の子どもでも食べられるのではというイメージから学校給食に提供できるのではないかという意見が出るなど、新しい発想ができたと思うのでよかった。
- ・これまでジビエについての知識はほとんどなく、ジビエという言葉を知ったことがあるくらいだったが、今回、フューチャーセンターに参加したことでジビエについて詳しく知り、試食まですることができ、貴重な経験になった。また機会があればジビエを食べてみたいと思った。
- ・今回のフューチャーセンターに参加して、ジビエのことをよく了解した。初めてジビエを食べた。ジビエの普及とイメージについて対話しました。いろいろなことを勉強しました。本当にいい活動だと思います。
- ・ジビエについて今まで知らない知識や処理店の意見など貴重な話が聞けて良い経験になりました。今後もジビエを食べて、友達や家族にも広めていきたいです。

○フューチャーセンターの運営に関すること

- ・お菓子、料理、お茶の準備ありがとうございました。アイスブレイクから3段階+まとめのグループワークに至るまで、学生では発想が及ばないな、と。話し合った成果が得られると嬉しいです。話し合い3回分のフセンを1枚の模造紙だとゴチャゴチャしがち。模造紙を分けてもよかったと思われる。
- ・スムーズな進行でとても話し合いがしやすかったが、どんな結論にするのか、どんな発表にするか考える時間が短かった。

○その他、提案など

- ・地域の取組みを大学祭、クラブ活動との共同で紹介してもらえると良い。
- ・奥美濃ジビエ普及協議会の代表です。郡上市の給食センターとの話し合いを行っています。
- ・地域のイベントなどでコラボして、若いみなさんの情報発信のノウハウを借りて周知できると良い。

ジビエ

狩猟から家庭の食卓に並ぶまで

ジビエとは・・・

ジビエ(仏: gibier)とは、食材とすること
を目的に、狩猟に
よって捕獲された野
生鳥獣のことを言い、
主にフランス料理で
使用されます。



古今伝授の里フィールドミュージアム内にあるフランス料理店「レストランもちどりのメインディッシュの一つである鹿肉を使った料理。

昔のジビエ料理

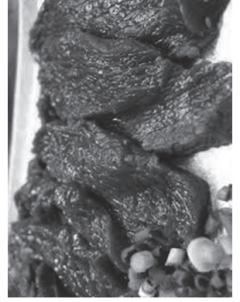
各家庭で高級食材として流通していた。

代表的な料理

●猪鍋



●鹿刺し



ジビエに対する取り組み

広く住民にジビエ料理が届くように・・・

郡上調理師会大和支部や大和観光協会など、各種団体と連携した試食会を開催。



大和観光協会主催「どぶろくまつり」内で試食コーナーを設ける



郡上調理師会大和支部主催「四季のスローフード」で、各飲食店が考案したジビエ料理を披露



郡上調理師会大和支部主催「四季のスローフード」で、各飲食店が考案したジビエ料理を披露

現在のジビエに対する郡上での取り組み

各種イベントに出店し、ジビエ料理を販売

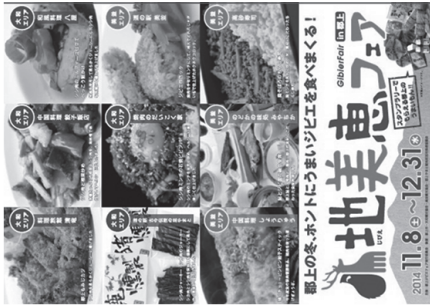


食の祭典inぎふ郡上に、毎年出店



やまとふれあい祭りでは多くの品を販売

独自イベント「郡上ジビエフェア」を開催



ジビエ肉の特徴(鹿)

旬の時期 6月～9月

鹿肉の旬……

それは春から秋にかけてです。理由は鹿の餌となる木々の若芽が豊富だからです。木の芽の成長点は良質のタンパク質をたくさん含んでおり、その若芽を食べた鹿は肉質がよく大変美味です。

鹿肉の栄養価

鹿肉は、肉類の中でも特に栄養価が高いと言われています。表からわかるように、高たんぱく・低カロリーのダイエットに適した食材と言えます。貧血予防に役立つ鉄や脂質代謝に関与しているビタミンB2も多く含んでいます。

部 位	エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂 質 (g)	炭水化物 (g)	鉄 (g)	ビタミン B2 (mg)
鹿肉	110	22.3	1.5	0.5	3.1	0.35
牛肉 (肩ロース)	316	16.5	26.1	0.2	2.4	0.21
豚肉 (肩ロース)	157	19.7	7.8	0.1	1.1	0.28

鹿肉を使ったレシピ

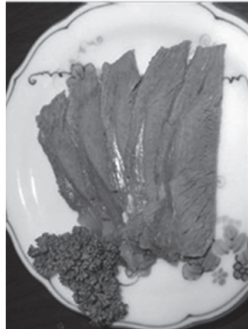
鹿茹でジャーキー

■作り方

- ① シカ肉をブロックごと茹でる。
- ② ダシ昆布、塩、薄口しょうゆなどで味付けし約2時間煮込む。
- ③ 冷めたら細かく切って出来上がり。

■材料

鹿肉ブロック 適量
ダシ昆布 4枚
薄口しょうゆ 適量
塩 少々



旬の時期 11月～3月

猪肉の旬……

冬から春にかけてです。猪は寒くなると脂を層状に蓄えていきます。そのため、冬が一番脂がのっておいしい時期です。

主な産地

郡上市は、丹波(兵庫)、天城(静岡)と並ぶ猪の日本三大産地である。

猪肉の栄養価

いのしし肉には、成長期に欠かせない良質のたんぱく質をはじめ、疲労回復や皮膚の健康、新陳代謝を促すビタミンB群が豊富に含まれています。

部 位	エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂 質 (g)	ビタミン B1 (mg)	ビタミン B2 (mg)	ビタミン B6 (mg)	ビタミン B12 (μg)
猪肉	268.0	18.8	19.8	0.24	0.29	0.35	1.7
豚肉	291.0	18.3	22.6	0.77	0.13	0.35	0.3
牛肉	411.0	13.8	37.4	0.06	0.17	0.18	1.1

猪肉を使ったレシピ

猪肉のガレット

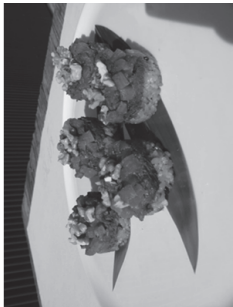
■作り方

- ①お米に、もち米粉を加え炊いておく。
- ②シシ肉は1cm角切りにし、フライパンで色づけ。
- ③しょうがのみじん切り、赤ワイン、酒粕、砂糖、醤油でシシ肉を煮る。
- ④大根は1cm角切りにし、②の煮汁で煮る。
- ⑤柔らかく煮たシシ肉をザルにあげ、1/3をフードプロセッサーにかけ残りとはわせる。
- ⑥セルクルに 米 → 肉 → 大根の順に詰めていく。
- ⑦上にローストしたくるみ、あさつきを添えて出来上がり。

■材料

シシ肉 600g
大根 1/3 本
お米 300g
もち米粉 少量

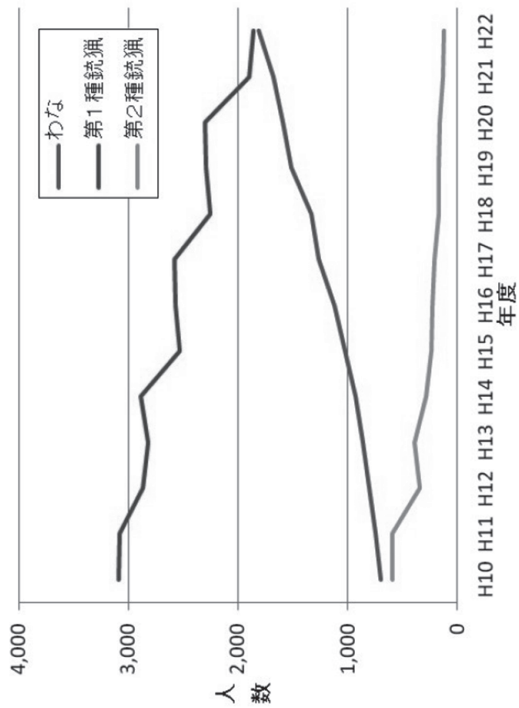
【調味料】
醤油、ワイン、酒粕、
酒、砂糖、しょうが...各適量
くるみ、あさつき.....少量



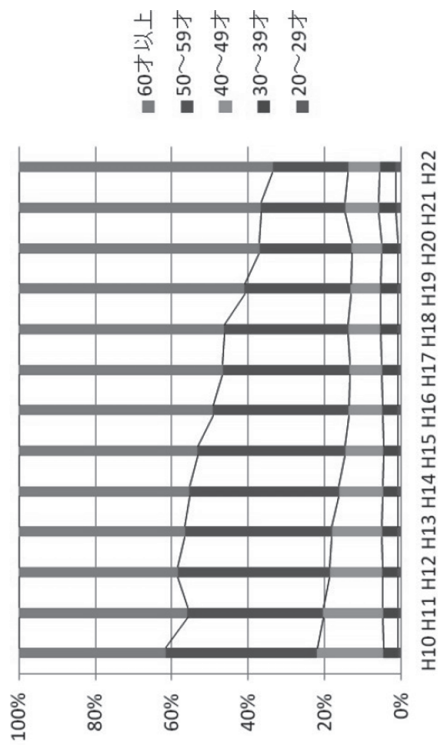
猟師の現状

●減少する猟師

1. 猟師の高齢化
2. 担い手の減少
3. 猟師専業がいない
4. 獣肉が売れない
5. 儲からない



種類別免許所持者数の推移(岐阜県環境生活部 清流の国ぎふづくり推進課)

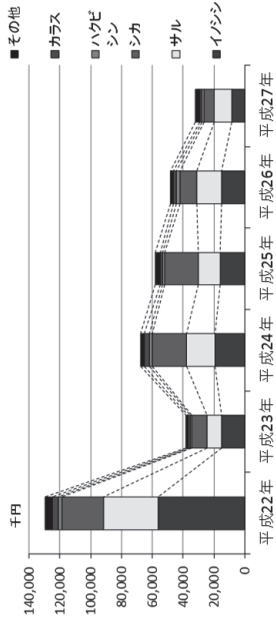


狩猟者の年齢構成別の経年変化
(岐阜県環境生活部 清流の国ぎふづくり推進課)

野生鳥獣による農産物被害

●農産物の鳥獣被害額の推移(平成22年～平成27年) 単位:千円

地域名	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	対前年比
イナシシ	56,132	15,097	19,329	15,839	15,141	8,394	56.4%
サル	35,360	9,630	18,510	14,036	16,059	11,458	71.3%
シカ	27,381	9,569	22,165	21,833	10,765	6,544	60.0%
ハクビシン	2,072	977	1,777	1,370	2,393	1,349	58.6%
カラス	3,909	1,794	3,479	1,426	2,032	1,359	66.9%
その他	4,689	1,012	2,195	3,398	1,747	3,144	180.0%
合計	129,553	38,080	67,454	58,102	49,128	32,249	67.0%



郡上市における農産物被害額
郡上市役所農林水産部農務水産課

捕獲した個体の処理は？

捕獲した個体のほとんどは、埋設処分か焼却処分されています。

廃棄される獣肉を利用して地域振興を図ろうと、各地で獣肉(ジビエ)の普及を図られており、最近「ジビエ」という言葉をよく耳にするようになっていいる。

郡上市での捕獲状況

(頭)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
猪	772	230	459	500	1,058	230
鹿	366	489	490	722	1,213	910

※郡上市全体の捕獲数
※各年、4月1日～3月31日までの捕獲

1 捕獲

捕獲には主に次の方法がある

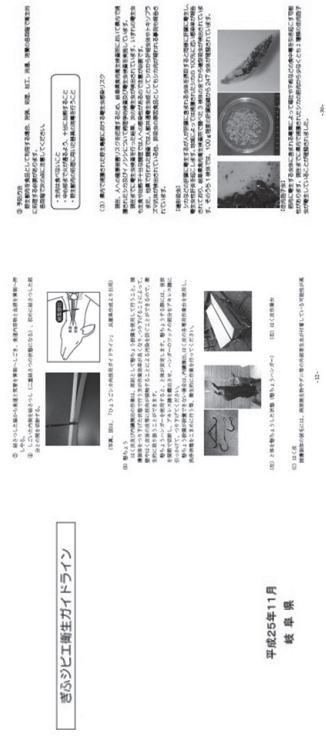
- ①猟銃 ②くくり罠 ③箱罠

以前は猟銃による捕獲が多くを占めていたが、現在は罠による猟が多くなっている。

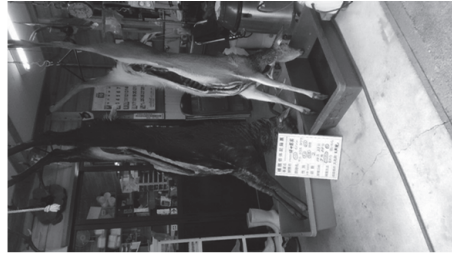


2-1 解体

平成26年11月 ゐふジビエ衛生ガイドラインが制定され、これに沿った解体が必要。



2-2 解体



大和町内にある解体処理施設「ITAYA」

- ① はく皮
- ② 内臓摘出
- ③ 枝肉
- ④ 部位ごとにカット



2-3 解体



骨を抜き、肉の塊にする。
真空パックで冷蔵・冷凍保存。



3 販売

解体処理施設 「ジビエITAYA」



郡上旬彩館 やまとの朝市



「ジビエITAYA」施設内



郡上旬彩館 やまとの朝市 施設内



4 トレーサビリティの徹底

誰が、いつ、何処で、どれだけだけ獲った個体かなどを記録・開示することで、不測の事態への対応とともに消費者の信頼を得ることが出来ます。

[illegible][illegible]

安心安全なジビエのために

基本 !!

ジビエとは 天然の野生鳥獣の肉を指す意味する言葉です。

食肉の営業許可

調理したイノシシやニホンジカを食用として販売する場合は、**食肉処理業・食肉販売業の営業許可が必要**です。

※ジビエの流通をする際には、食肉の流通に必要です。

営業許可なく食肉を販売した場合

2 年以下の懲役 または 200 万円以下の罰金

食品衛生法第72条

ジビエの食中毒防止

- 生食は絶対にやめましょう
- 中心部まで火が通るよう十分に加熱しましょう
- ジビエの処理に係った器具はしっかりと消毒しましょう

岐阜県では

ぎふジビエを普及・推進しています

ぎふジビエ衛生ガイドラインとは

野生鳥獣の肉を食するには、衛生上の実用許可が必要で、さらにイノシシやニホンジカの肉が流通しているように安心安全には適切な流通の工程、衛生管理についてガイドラインを定めています。このガイドラインに則って解体された肉の流通を最も推奨しています。

岐阜県では「おごジエ」で検索！

ぎふジビエ営業事業者による...

- ぎふジビエに加盟制度に加盟していただきます。
- 登録されることで他の活動に参加できます。
- 登録技術研修会への受講
- 関係技術者との意見交換会
- 解体処理施設と販売店の情報交換
- ぎふジビエへの告知
- 岐阜県によるジビエ取扱店舗のPR など

啓さん ぎふジビエ営業事業者になりました！

《お問い合わせ先 岐阜県》

生活衛生課 055-272-2280	農村振興課 055-272-8422
解体処理施設・ジビエの流通先	ぎふジビエ連絡所・販売場所管理

食肉衛生法第72条

生食は絶対にやめましょう

中心部まで火が通るよう十分に加熱しましょう

ジビエの処理に係った器具はしっかりと消毒しましょう

《詳しくはお近くの解体所までお問い合わせください》

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.11.16 2017年2月1日発行号

VOL.27



ジビエ肉が家庭で 食べられるようになるには

11月16日(水)、ジビエ肉への理解を深め、家庭の食卓で食べられるようになるには何が
必要かをテーマに、岐阜大学生、郡上やまと獣肉利活用推進協議会員など20名が参加して、
第6回フューチャーセンターを開催しました。

最初に、参加者それぞれが持っているイメージを確認した後、ジビエの試食や情報提供で
どうイメージが変わったかを話し、ジビエ肉に対する理解を深めました。試食前には「くさい」
「固い」などマイナスイメージが多かったのが、試食後には「おいしい」「くさは意外と
感じない」などプラスの印象を多くの参加者が受けていました。ジビエ肉の特徴を理解
した上で議論した結果、「むしろ独特な味を残す」「衛生上の安全性を高める」などの意見が
出されました。

この対話で出されたアイディアは、今後、郡上市のジビエ普及に向けた活動の参考と
される予定です。



今回のまとめ

- 試食などを通して良さを伝えることで、
知識不足から来る悪いイメージを払しょくする
- 猟師を増やす、衛生上の安全性を高めるなど
供給体制を整備する
- 学校給食で地域食材として、
子どもの時から親しんでもらう
- 「ジビエの日」を自治体が制定して普及に努める
- あえて特徴ある味を残して特別感を出す

各グループからの
意見・アイデア

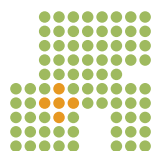


ジビエを知ってもらう事が大切

岐阜大学地域科学部2年

細川 瞬 さん

自分にはない知識を持った地域の方たちと対話を
した事によって視野を広めることができました。
ジビエの普及については、知らないと食べる気には
ならないのでジビエについて知ってもらう事が
大切であると思いました。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

第7回 ぎふフューチャーセンター

リニア岐阜県駅を活用した観光について考える

平成 28 年 11 月 19 日（土）

会場：中津川市坂本公民館

主催：岐阜大学・岐阜県

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 7 回 りふふチャーセンター	
主催団体	岐阜大学・岐阜県
会 場	中津川市坂本公民館
日 程	平成 28 年 11 月 19 日（土）12:30～15:00
目 的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携している。大学、地域、自治体が共に地域の課題を探り、未来に向かって新しい価値をつくることを目的としてりふふチャーセンターを実施する。
テーマ	「リニア岐阜県駅を活用した観光について考える」 ○岐阜県について学ぶ （東濃の観光資源、岐阜県の観光、岐阜県の交通、リニア） ○リニア岐阜県駅を活用した観光プランを考えよう ○岐阜県駅とその周辺や（東濃を中心とした）観光地に必要なことを提案しよう
内 容	2027 年のリニア中央新幹線の開通は、県内全域に大きな波及効果をもたらすとともに、岐阜県駅が設置される東濃地域にとっては、観光振興の大きな起爆剤になることが想定される。これを最大限活用して岐阜県を国内外の観光客に PR し、リニアが開通する 11 年後には、リニア岐阜県駅を多くの観光客の方に利用していただき、東濃地域を中心とした観光の起点としていただくためには何が必要か。 学生が岐阜県と岐阜県の観光について学び、自治体職員等と共に観光プランを考え、意見交換を行うことで、リニア岐阜県駅を活用した観光について気が付いたことを提案してもらう。
参加者構成	参加者合計 21 名（5、6 人×4 グループ） ・学生 16 名（岐阜大学 13 名、中京学院大学 3 名） ・自治体職員等 5 名
対話の方法	ジグソー法＋KJ 法
ファシリテーター	加藤直樹総合情報メディアセンター教授
当日スケジュール	○ 開会 ○ あいさつ（岐阜県：大野雅人岐阜県リニア推進室長） ○ FC の説明、概要 ○ 東濃の観光にかける思い 今井将史（中津川市観光課） ○ アイスブレイク ○ （自治体職員からの）情報提供・共有、意見交換 ○ グループ発表・講評 ○ 閉会
グループ発表	○セッション 2 「観光プラン」資料参照 ○セッション 3 概要 1 G・JR やバスの割引が必要＜移動＞ ・レンタカーの利用が増える＜移動＞ ・リニア岐阜県駅への待合室の設置＜気候対策＞ ・天候に関わらず恵那山が楽しめる工夫をする＜気候対策＞ ・リニアを実際に見られるスポットを観光資源にする＜リニア＞ ・若者を呼び込むためのレジャー施設が必要＜レジャー＞ 2 G・観光地への交通アクセス網を増やす＜インフラ関連＞

	・団体で宿泊できるホテルや民宿等の宿泊施設を増やす＜施設＞ ・民泊による農業体験（法整備が必要）＜施設＞ ・駅の中に商業施設や温泉をつくる＜駅＞ ・栗きんとん作りの体験＜食＞ ・有名なB級グルメを推し進める＜食＞ 3 G・ポケットWi-Fiの貸出＜便利に＞ ・リニア駅、下呂までの道路脇に直売所（地元の農産物）設置＜便利に＞ ・鮎釣りイベント＜イベント＞ ・観光地を回ったらクーポンがもらえる仕組み＜PR＞ ・カップルで栗の木を植樹し、3年後に訪れる＜思い出＞ ・東濃でしか手に入らないグッズの販売＜思い出＞ ・写真撮影のスポットを増やす（若者のニーズに応える）＜思い出＞ 4 G・商店街、レンタサイクルなど周りを移動できるものが必要。＜駅周辺＞ ・駅が地上から約25メートルという高さを生かし、上から見下ろしたときにきれいに見える花壇をつくる。＜駅周辺＞ ・模型喫茶（ジオラマを作ってリニアを走らせる）＜駅周辺＞ ・現地ガイドを住民にやってもらう（住んでいる人が自分の地域の売りを知っている）＜案内＞ ・体験できるプランに（鵜飼喫茶のように）岐阜県について知ってもらう場所をつくる＜体験＞ ・道幅を広くする、バスの本数を増やす、バリアフリーの徹底＜交通＞ ・CM、PR動画、イメージビデオの作製＜PR＞
今後の展開	○第8回リニア岐阜県駅周辺整備協議会において県担当者からフューチャーセンターの開催及びその内容が発表される。 ○今後の県及び関係市のリニア及び観光関係課による、施策検討時に活用されることが期待される。
自治体等との調整過程	6月初旬 公共交通課からフューチャーセンターについて問い合わせ ⇕ 県担当者と打合せ・調整 9月中旬 ファシリテーター、県と打合せ 9月下旬 ファシリテーターと打合せ 10月中旬 会場視察 県と打合せ 11月中旬 県と打合せ、ファシリテーターと打合せ 11/19 フューチャーセンター開催
報道等	11月21日 岐阜新聞朝刊（県内版） 「第7回ぎふフューチャーセンター」
担当職員感想	・学生さんの発言を通じ、体験プログラム、Wi-Fiの整備など、進めている施策の方向性が正しいことが再認識できた。（岐阜県） ・笑いのある楽しい話し合いだった。人が喜ぶことを推進するという観点を今後の仕事にも生かしてほしい。（中津川市） ・観光資源の活用やプロモーションの方法について、旅行者目線、若者目線の意見を今後に反映させたい。意見を寄せてほしい。（中津川市） ・観光資源を磨き上げて、リニア岐阜県駅で降りてもらえるようにすることが必要。皆さんからのご意見は、今後の施策の参考にさせていただく。（岐阜県） ・今日出た具体的な意見を参考に庁内で連携しながらリニアを見据えたまちづくりを進めていきたい。（中津川市）

企画担当者所見	・ジグソー法を初めて取り入れたが、学生が自治体職員の話真剣に聞き、学ぼうとしている姿は印象的だった。今後もこの手法が適当な課題には積極的に活用していきたい。 ・他大学の学生の参加は、意見交換に相乗効果をもたらしたと考える。フューチャーセンターの今後の企画に当たっては、より多様な属性の方々の参加に努めたい。 ・観光プランづくりと課題提案を一度のフューチャーセンターで行ったが、数回に分けて開催してもいい内容だった。テーマによっては、課題提案、考察、提案などを複数回で開催するフューチャーセンターがあってもよい。
---------	--

(地域コーディネーター (岐阜県派遣) 松原 裕子)

＜資料＞セッション2の内容

○1 グループ

- ・ターゲットは若者（同世代）
- ・岐阜県駅近くで観光できるものがないと意味がない

【観光プラン】

- ＜1日目＞車両基地（工場見学）＝駅レンタカー＝ 馬籠（昼食）・付知峡 下呂温泉（泊）
- ＜2日目＞＝高山本線＝ 高山観光（泊） 夕食は飛騨牛、女性は浴衣を着ると割引になる施設
- ＜3日目＞＝バス＝白川郷 金沢（北陸新幹線）

○2 グループ

- ・鉄道を使って観光をしてもらう

【観光プラン】

- ＜1日目＞馬籠（昼食）＝明知鉄道＝ →岩村・開所村 恵那（泊）
→リニア工場見学、坂下そば打ち道場 中津川若しくは恵那（泊）
- ＜2日目＞＝長良川鉄道＝ 観光列車ながら（10:40 美濃太田発） 郡上八幡

○3 グループ

- ・ターゲットは若者（若者（大学生）を呼び込む）
- ・若者はツアーより少人数で動くことが多いためレンタカー
- ・下呂温泉まで北上する間をどのように楽しむか（歌舞伎、アウトレットにある岩盤浴）

【観光プラン】

- ＜1日目＞喫茶店（モーニング）でゆっくり＝レンタカー＝下呂温泉（泊）
- ＜2日目＞ 検討中

○4 グループ

- ・ターゲットは家族連れ

【観光プラン】

- ＜1日目＞馬籠を含めた宿場町の風景（昼食）ローマン溪谷（ヤナで鮎のつかみ取り、川遊び）
明治座で歌舞伎の裏側体験 下呂（泊） （親も疲れを癒す）
→高山・白川郷
→関（刃物）、美濃（和紙）などの伝統工芸を見て、土産購入・・・名古屋 セッション2

第7回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果・集計 参加人数21名 回答18名

1. 性別	男		14	女		4
2. 年代	①10代		3	②20代		13
	③30代			④40代		2
3. フューチャーセンター（以下、「FC」という）の参加は何回目ですか。						
①はじめて		16	②2回目			③3回目
④4回目		4	⑤5回目		3	
4. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。（複数回答可）						
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた						16
②さまざまな知識や経験を持つ人（地域、大学、行政など）と知り合えることができた						10
③大学又は行政が身近な存在に感じられた						3
④その他（以下意見：原文のまま） ・地域について知れた。						
5. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？						
①参加できた		15	②どちらでもない		2	③参加できなかった
6. 今回の岐阜FCのご案内以前から「リニア岐阜県駅」ができることをご存知でしたか？						
①知っていた		15	②知らなかった		3	
7. あなたは、リニア中央新幹線が開業し、中津川市内にリニア岐阜県駅が設置されるにあたり、どのような効果を期待しますか？（複数回答可）						
①観光の振興と来客数の増加			17	②移住・定住人口の拡大		
③企業の本社や工場、事務所などの誘致			9	④駅周辺地域の商業の活性化		
⑤首都圏に集中する国の行政機関の移転			3	⑥鉄道や道路などの社会基盤の充実		
8. あなたが観光地を決める際に重視することは何ですか？（複数回答可）						
①歴史的な観光スポット		8	②その土地ならではの食		11	③レジャー施設
④豊かな自然		4	⑤アクティビティ（体験）		11	
⑦イベント・祭り		5	⑧その他			⑥利便性
9. 岐阜大学では、月1回を目途にFCを開催していますが、今後、ぎふFCに参加したいですか。						
①参加したい		5	②テーマに興味あれば参加		11	③参加したくない
10. 自由意見（以下意見：原文のまま）						

○FCについて

- ・今回は行政の立場で参加させていただきました。若者の考え方・発想に大変参考になることが多く、またこのような企画に参加させていただけるとうれしく思います。
- ・初めてFCに参加して、自分の意見を言うことで将来に少しでもつながることが感動した。また、ほかの大学の学生や県庁の方と話ができることで、自分には思いつかなかった意見も聞くことができて参考になった。今回出た意見が少しでも実現すると良いなあと思った。
- ・大人では思いつかない自由な発想を聞けて良かった。
- ・様々な立場の人が多方面での意見を交流することで新たな気付きを得ることができました。
- また、リニア岐阜県駅完成は11年後で、自分たちが働く上では、ちょうど主役になる時期なので、今後の将来動向について考えていく良い機会になりました。
- ・行政の方が多く参加していたので、専門的な意見、これからの計画等を聞けて、リニアの開通はまだまだ先で想像もつかなかったけど、今回参加してリアリティをもって、リニアの開通が楽しみになった。
- ・幅広い方々の意見を聞くことができ、大変参考になりました。
- ・ゲスト（専門家、行政の方）に話を聞くFC（ジグソー法）は初めてでした。地理にしても名物、スポットにしても無知を思い知らされました。よく言えば、いろいろ知る良い機会でした。逆にもっと素人、夢のある小中学生に柔軟な発想を出してもらおうか。
- ・自分だけでは考えることができなかった意見を他の学生や行政の方から聞くことができ、自分の考えの幅が広がりました。私は交通関連の研究をしていこうと思っているので、今日学んだことをこれから行かせていけばいいと思います。
- ・今回リニアが中津川駅付近にできるということで、観光客をどう増やしていくかや、町の活性化などを考える企画が自分にとってとても楽しく感じました。班のメンバーは自分以外皆岐阜大の方達だったため、話し合いでは自分から積極的に発言していくことができたと思います。今後自分が就職するうえで、今回行ったような町の観光について考えたり、町のことについて考え企画したりする仕事に興味を持ちました。今回は参加できて本当に良かったと思います。
- ・詳しく情報が聞けたので、その後の話し合いの時スムーズにできました。直接周辺を見に行ってみたいと思いました。
- ・最終的にどのような発表をするのか初めの段階で説明があると議論を進めやすくなったと思います。
- ・リニア岐阜県駅をきっかけに、身近な地域のことを考えることができ、貴重な経験となった。普段は話せない人とも話すことができ、様々な考え方を知ることができ、今後生きていくうえで役立つ経験だったと感じた。

○リニアについて

- ・リニアは便利なものだななどいろいろなことを勉強しました。必ずリニアを利用します。

○観光について

- ・岐阜県の観光場所を知った。勉強になった。
- ・岐阜県に住んでいても、東濃地区のことについて何があるのかなどを知らなかったが、観光ルートを考える中で、何があるのか、有名なのかを知ることができたのでよかった。また、今回では前回の事前講義では考えられなかった部分、リニアができる10数年後までにどうするべきか、何を改善し、作り出していくかについて考えることができたので良かった。
- ・自分が考えてきた観光プランについての議論ができたので、これからもよく考えて深めていきたい。観光に関しては、自治体の生き残りをかけたもので、様々な手段・方法を考える必要があると思いました。
- ・リニアに岐阜の駅ができると聞いたときはすごいなと思ったのと同時にこんなところにできて大丈夫かなと思いました。しかし、今回のフューチャーセンターやその事前学習を通じて、岐阜県の観光地や東濃の観光地について考えることができ、岐阜の良さを知ることができよかったなと思いました。
- ・今まで知らなかった岐阜・東濃の魅力について知ることができて貴重な機会になり良かったです。

F C実践受講学生（リニアF C参加）の感想

【地域科学部3年】

リニア駅を活用した観光ルートを考えていく中で、岐阜県の広さを改めて感じるようになった。岐阜県を周遊しようとするとうとう移動時間が長くなってしまふ。この点は観光客が岐阜県に来づらいう要因だと思う。リニア駅を活用しようとしても、まず駅周辺に魅力的な観光地が無ければ観光客はわざわざ岐阜に停まるリニアに乗りたくないだろう。名古屋まで行った方が効率が良いと考えてしまふ。その点で中津川周辺に観光客を呼び込めるスポットをつくること、PRすることが求められている。

今回のセッションを進めていくうえで前提条件として挙げた「東京からリニアに乗って、午前9時頃岐阜駅に到着します」という部分に少し疑問を覚えた。リニアが開通すれば東京から岐阜に観光客が訪れることになっていると感じたからだ。セッションするうえでの前提条件とはいえ「東京から来ると既定されている観光客」を案内するルートを考えるよりも「東京から旅行をしたいと思っている観光客」をどのように岐阜県に呼び込むかを考える方がフューチャーセンターを開催する意義があるのではないかと感じた。

また今回のフューチャーセンターでは「観光ルート」を考えたいのか、「岐阜の観光に必要なもの」を提案するのか、結論として出したいものの一貫性がとれていないと感じたので、最後の発表では各チームが消化不良に陥ってしまったのではないかと感じた。セッションを始める前に結論として出したいものを提示していただけると話し合いがスムーズに進んだのではないかと思います。

【地域科学部3年】

この度の中津川でのフューチャーセンターでは、2つのことが印象に残りました。

1つは、フューチャーセンターの進行方法です。グループごとに担当を決めて、それぞれの分野でのスペシャリストを養成、その後グループでの話し合いが始まったので、自分の担当エリアの聞き漏らし、不十分な発言がないように意識できました。

2つ目は、リニア開通に向けて、中津川の方たちが、真剣にその成功のために取り組んでいらっしゃるということです。市役所の方はもちろん、中京学院大の同年代の学生も、リニア開通を契機に中津川の良さをアピールし、人を呼びたいという思いがひしひしと感じられました。そのために、どんな意見でも参考になるから教えて欲しいとおっしゃられたことが強く印象に残りました。

個人的に出せた意見としては、実現性の薄いものでしたが、敢えて発言しました。それはどんな意見でも受け入れてもらえる雰囲気があったからでした。

実りの多いフューチャーセンターだったと感じています。

【地域科学部3年】

行政の方が多く参加してみえたので、専門的な知識や、これからの具体的な計画等の詳しいお話聞けたので、とても貴重な経験になりました。

リニアの開通はまだ未来の話でどこか私の中ではまだ現実味がなかったけれど、実際に美乃坂本駅をみたり、想像図をみて、ほんとうにここにリニアがくるのかと少しリニアがほんとうにくるという実感が湧いた。

リニアの開通が楽しみだと同時に、今から万全の準備をして、岐阜県の活性化に活かせるといいなと思う。

【地域科学部 2 年】

今回中津川の行政の方や様々な方の話を聞かせていただいて、リニアの開通がまだ先ではありますが、迫ってきているのだと感じました。リニアの駅が岐阜県にできると聞いたときは驚きましたが、駅の周りに何も無いところだと聞いてこんなところできて大丈夫かなと昔は思っていました。しかし、駅周辺が出来上がっていない場所だからこそ様々な考えを盛り込むことができ、地域の方にとっても必要となる場所にする事ができるのではないかと思います。地上から駅舎が 20~30m も上になると聞いてすごく高いんだとびっくりしましたが、それも街のシンボルになっていくのではないかと思います。

また、今回のフューチャーセンターを通して岐阜の観光地についても考えることができ、深くつづいていくと魅力的な場所は様々あり、もっと県外の人に向けても発信していかなければいけないと思いました。リニア開通ということは岐阜を知ってもらうという意味でも重要になってくると思うので、もっとリニア開通ということを考えていかなければいけないと思いました。

【地域科学部 2 年】

今回はリニア駅についてとそれを観光にどうやって繋げていくのかについて考えた。

まず、最初にリニア駅についての説明を聞き、リニア駅ができることで単に観光客が増加するというだけでなく、運搬能力の向上から企業誘致、工業地帯の建設などでもメリットがあることが分かった。また、そもそもなぜ岐阜県の中津川に駅ができるのかという理由でも、開発費の安さや在来線への乗り換えの利便さなどの理由があること、それに合わせて濃飛横断自動車道の建設が進められていることなどを知ることができた。

観光ルートに関してでは体験できるものを多く取り入れることを目指してローマン渓谷での「やな」の水遊びや歌舞伎小屋の見学などをルートに組み込みながら考えることが出来た。

しかし、実際に行きたくなるような大きなアピールポイントが作れなかったことと、地域の観光資源が把握しきれておらず、細かいルートを作れなかったことが残念だった。

将来に向けての準備や施設に関してでは、まず駅の高さが 25m にもなるということから、高さを生かした景観づくりができた方がいいと考え、それ以外にも、まず地元の人に観光や地元の名所について知ってもらうことが必要だと考えた。そして、観光客がそこにいる誰に聞いても目的地にたどり着ける、新しい目的地を作れるような地域にすることで、そこに行ってみたくなる人は多くなるのではないかなど新しい考え方ができたので良かった。

第7回ぎふフューチャーセンター

リニア岐阜県駅を活用した観光について考える

本日の予定

- *アイスブレイク
- *セッション1 (20分)
岐阜県について学ぶ
(東濃の観光資源、岐阜県の観光、岐阜県の交通、リニア)

- *セッション2 (30分)
リニア岐阜県駅を活用した観光プランを考えよう

- *セッション3 (20分)
岐阜県駅とその周辺や、(東濃を中心とした観光地に必要なことを提案しよう

- *まとめ (10分)
観光プランと提案の発表

ワークの方法

(正面)

*セッション2・3・まとめ

グループ1
B, C, D

グループ2
A, B, C, D

グループ3
A, B, C, D

グループ4
A, B, C, D

*セッション1

ワーク1
東濃の観光資源
2A, 3A, 4A

ワーク2
岐阜県の観光
1B, 2B, 3B, 4B

ワーク4
交通事情
1C, 2C, 3C, 4C

ワーク3
リニア
1D, 2D, 3D, 4D

(後方)

3

1

2

セッション1

岐阜県について学ぶ

リニア岐阜県駅を活用した観光プランを考えるために必要な知識を、専門家から学ぼう！

- ▶ 岐阜県の観光について
- ▶ 東濃地域の観光資源について
- ▶ 岐阜県の交通事情
- ▶ リニアについて

セッション2

リニア岐阜県駅を活用した観光プランを考えよう

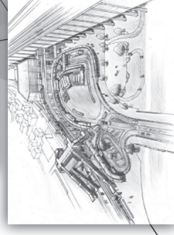
【前提条件】

- ▶ あなたは岐阜県に住んでいます。今回、東京に住む人（友人、親戚、誰でも可）に岐阜県への観光プランを提案します。
- ▶ 東京からリニアに乗って、午前9時頃岐阜県駅に到着します。
- ▶ 岐阜県駅を起点として、岐阜県内で宿泊します。
（帰着地は岐阜県駅でなくてもよい。）
- ▶ 東濃地域を少なくとも半日以上案内します。

*コンセプト（自然、伝統文化、食など）及びターゲットを決め、なぜそのプラン・観光地を提案したいのか理由を考えます。

セッション3

岐阜県駅とその周辺や、（東濃を中心とした）観光地に必要なことを提案しよう。



より多くの方に岐阜県駅を利用していただくために、

- ◆ 岐阜県駅やその周辺に必要なこと
- ◆ 東濃地域の観光施設やサービスに必要なこと
- ◆ 県内を観光してもらうために必要なこと

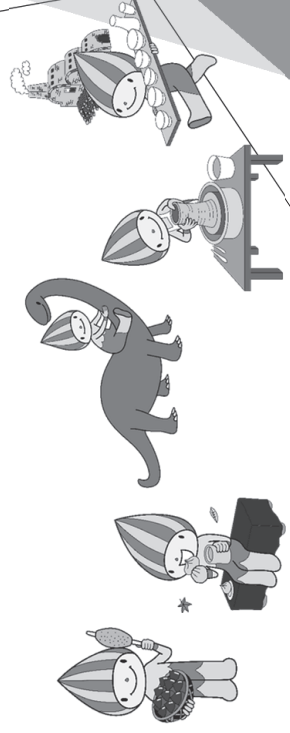
まとめ

観光ルートと提案の発表

- ◆ 発表者は何人でも、どのような形でも可
（学生が中心となって発表）
- ◆ 持ち時間は5分
- ◆ 観光プランは、なぜその観光地を選んだか？、なぜそのルート？など理由を発表してください。
- ◆ 提案は、岐阜県駅に降りてもらったための工夫、観光地への要望などどんなことでも構いません。

終了です。

本日はお疲れ様でした。
アンケートを提出のうえ、気をつけてお帰りください。



FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.11.19



リニア岐阜県駅を活用した観光について考える

第7回ぎふフューチャーセンターは、11月19日(土)に中津川市坂本公民館において開催し、岐阜大学、中京学院大学の学生と自治体職員等計21名が参加しました。

参加者はリニア岐阜県駅の建設予定地を視察した後、「岐阜県の観光」や「リニア」など4つのテーマについて、自治体職員から情報提供を受けました。

その後「リニア岐阜県駅に降り立った知人に岐阜県を案内する」という想定で旅行プランを作成し、最後にこれらの作業を通じて感じたリニア岐阜県駅とその周辺や観光地に必要なのは何かを話し合いました。

発表では「駅に農産物直売所を設置する」、「駅から見下ろせる花壇を整備する」などの意見が出されました。提示された意見は、今後自治体の施策の参考とされることが期待されます。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

- リニアを実際に見られるスポットを観光資源にする
- 民泊による農業体験
- 模型喫茶(ジオラマを作ってリニアを走らせる)
- 現地ガイドを住民の方(地域の“売り”を知っている)にやってもらう
- 食品をブランド化し、食で人を呼び込む



岐阜大学
教育学部2年

小椋 健司 さん

リニア開通が楽しみ

自分とは違う人の考え方を知り、生活環境をより良くするにはどうしたらいいかを考えるきっかけになりました。

今回の意見が活かされ、リニア駅周辺に、体験施設や、土産物店が充実すると思います。



中京学院大学
経営学部1年

服部 早希歩 さん

自分の考えが広がりました!

初めての参加でしたが、他大学や自治体の方から具体的な意見を聞いて自分の考えが広がりました。リニア新幹線についても、今までより興味や関心を持つことができました。ぜひリニアに乗ってみたいです。



中津川市観光課

今井 将史 さん

貴重な経験になりました

普段、若い世代の方の意見を直接聞くことはなかなかできない経験。参考になる意見や気づかされる意見も多く、今後の仕事にも活かしていきたいです。観光資源にも若い方が求めるものを取り入れていけるといいと思います。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

第8回 ぎふフューチャーセンター

企業・学生・大学の関係者にとって
より良いインターンシップとは何かを考えよう

平成 29 年 1 月 25 日（水）

会場：岐阜大学サテライトキャンパス

主催：岐阜大学

「地（知）の拠点整備事業」×「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」 平成 28 年度第 8 回 りふふチャーセンター	
会 場	岐阜大学サテライトキャンパス 多目的講義室（大）
日 程	平成 29 年 1 月 25 日（水）13：30～16：00
目 的	・平成 27 年度に文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋事業）」に採択され、他大学・企業・自治体・金融機関と協働して、地域のニーズにより適合した人材を育成する「次世代地域リーダー育成プログラム『産業リーダーコース』」を新設した。本コースではインターンシップを核とした 3 ステップの教育プログラムを実施している。 ・企業がインターンシップを実施する目的は、学生に対する企業の理解度向上や企業イメージの向上などである一方、学生にとっては、企業の情報を入手すること、将来企業で働くことの理解を深めること、将来の就職活動を有利に進めること等があげられる。また、大学にとっては、学生の教育の観点を重視する等、関係者にとってインターンシップに求めているものは様々である。 ・今回はインターンシップ受け入れ企業、COC+参加大学・事業協働機関の関係者及び大学生を交えて、関係者にとってインターンシップに求めているものを把握したうえで、関係者にとってより良いインターンシップがどんなものかについて、それぞれの関係者の立場から洗い出すことにより、今後のインターンシップがより良いものに繋がる機会を提供することを目的とする ・岐阜大学ではこのふりふチャーセンターで出た意見を今後策定する予定のインターンシップのガイドラインへ反映させることを目指す。
テーマ	企業・学生・大学の関係者にとって より良いインターンシップとは何かを考えよう
内 容	企業で働くことについての理解を深め、インターンシップに対する課題について関係者で共有することとする。冒頭のセッションでは、企業で働くことについて社会人と学生が一緒になって議論することを通して、社会人と学生の働く価値観に対するギャップを洗い出すこととした。その上でインターンシップに対する課題について議論をすることで、企業で行われているインターンシップの問題を抽出することとした。各グループで出たアイデアを確認した後に、今後より良いインターンシップを作り上げるために学生側・企業側・大学側の視点を複合させながら各グループで意見をまとめた。
参加者構成	参加者合計 23 人（6 人×3 グループ＋5 人×1 グループ） 岐阜大学生 6 人（1 年生 4 人、4 年生 2 人） 民間企業 12 人 大学関係者 5 人
対話の方法	KJ 法 KJ 法を採用して行うが、セッション①②終了後には他グループで出た意見を踏まえて検討するために、他グループで出たアイデアを確認する時間を設ける。（ファシリテーターの誘導により他のグループのアイデアを確認し、終了後に元のグループでセッション③に取り組む）
ファシリテーター	地域協学センター 特任助教 今永典秀
グループ発表 ※要約	（1 グループ） 企業と学生との間のコミュニケーションが不足していることから、インターンシップに対して企業と学生の間にギャップが生じている。学生と企業のニーズの相互理解が必要である。企業と学生の目標を明確にした上で、実施内容を明確にすることが必要。具体的な解決策としては、企業と学生がイン

	ターンシップ開始前に交流を行い、インターンシップの内容と目的を相互に明確にすること。また学生のインターンシップへの認知度は低いことから、学生への周知も必要である。 (2 グループ) インターンシップが最近のトレンドとなっており、長期・時期・有給など多様化してきている。多様化によって、インターンシップの目的が、採用が主目的なのか教育が主目的なのか曖昧になってきている。企業側と学生側、大学側の目的を明らかにし、相互に共有して目的の一致を図ることで、お互いにとってメリットのあるインターンシップにすべきである。仮に、学生と企業の目的の一致がはかれなかった場合においても、最後に学生にとって良いインターンシップであったかどうかは学生の意識次第でもある。 (3 グループ) 企業に入社する時とインターンシップ中でのギャップが生じている。企業と学生の意識の共有が大切。学生と企業で考えを共有し相手のニーズを理解することが良いインターンシップに繋がる。学生側は、インターンシップの事前準備として情報収集の徹底や OB 訪問などを通して企業理解を深める努力が必要。企業側も学生にわかり易くインターンシップに関する情報公開をすることが大切。長期のインターンシップ(3ヶ月)や実際の仕事内容に触れること、社員と本音で話せる機会を作るなどが必要である。 (4 グループ) インターンシップの課題は、学生側が目的意識を持っていない点。 企業側はインターンシップを採用の道具とみている点や、バイトに近い雑務のみをやらせるなど課題があげられる。良いインターンシップを実現するためには、学生は目的意識をもって参加する。企業側は、インターンシップに関わる人の熱意とプログラムと広報の方法を向上させることが必要。具体的なアイデアとしては、他大学と合同でやることや、学生がインターンシッププログラムを考えることがあげられる。企業側としては、広報・社内教育としての良い機会と位置付けることで社内の協力を仰ぐ必要がある。学生にとって良いインターンシップとは、インターンシップ後に学んだことと、その経験が社会に出て繋がることであり、普段の学生生活では得難い経験を経ることが一番の肝である。
当日のスケジュール	1. 岐阜大学のインターンシップの取り組みと課題 (20 分) 2. アイスブレイク・自己紹介 (10 分) 3. セッション① 企業で働くことについて (30 分) 4. セッション② インターンシップに対する課題について (30 分) 5. 他のグループで出たアイデアを確認する (10 分) 6. セッション③ セッション①②を踏まえてより良いインターンシップを考える (25 分) 7. 発表 (15 分) 8. アンケート記載 (5 分)
企業等との調整過程	・ 12 月中旬：企業へのご案内開始 COC+企業向け成果発表会参加企業及び、地域協学センターが過去に企業見学会やインターンシップを実施した企業へ案内を開始した。 ・ 1 月中旬：参加企業 12 社が確定 事業協働機関のうち 4 社（岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、岐阜県）が参加。企業見学会実施先・インターンシップ先 6 社が参加（株式会社岐阜新聞、株式会社大光、鍋屋バイテック株式会社、岐阜プラスチック工

	業株式会社、中日本高速道路株式会社、株式会社文溪堂) その他企業として2社が参加(岐阜トヨペット株式会社、株式会社コメ兵)
今後の展開	終了後は、当日出た意見を取りまとめた上で、今後岐阜大学で開催する産業協働型インターンシップ等の受入れ先企業への情報提供を行い、より良いインターンシッププログラムの実施へ向けて取り組むこととする。 【今後の展開①】学生への周知拡大 インターンシップの学生への認知度の低さが課題で上げられたように、より多くの学生に対して周知することが必要である。次世代地域リーダー育成プログラムの受講生を中心に、岐阜大学の主に低学年時の学生を対象に広く周知することを通して、継続的に開催したい。 【今後の展開②】参加企業の裾野拡大 学生と企業のインターンシップにおけるギャップが課題として挙げられている。今回参加の11社にとどまらず、岐阜県内を中心により多くの企業の参加を呼びかけ、継続的に実施することが、学生と企業のインターンシップに関する相互理解を深めるために必要だと考える。
参加者感想	(企業の参加者の声) ・学生の方の素直な意見や、他企業の方の意見をたくさん聞くことができて大変参考になりました。今後インターンシップを実施予定ですので、活かしていきたいと思います。 ・どのような内容のインターンシップをすれば、学生のニーズに合うのかわからなかった中で参加しましたので、いろいろな意見が聴けて良かったと思います。学生の方の率直な意見や思いも聴けたので今後のカリキュラムの内容にも反映していきたいと思います。 (学生の声) ・実際に企業で働く方々とお話できてとても良かったです。インターンシップに対する企業さんの考えが少しでも知ることができたと思います。また、それを受けてインターンシップに対する意識も向上したと思います。企業にも学生にも両方にとって有意義なインターンシップになればよいと思います。 ・学生としては、このような場は大切だと感じました。インターンは学生の成長、就職に大切だと感じており、多様な立場の人と話せて良かったです。学生の人数がもっと多くても面白いかと思います。
企画担当者所見	・今回のフューチャーセンターは、インターンシップに関して企業と学生と大学関係者が集まって、働くことに関して考え、インターンシップの課題を共有し、より良いインターンシップに関する議論を行った。 ・各グループの発表においては、学生と企業が目的意識を共有することに関する課題があげられていた。学生が企業に対する理解を深めることに加えて、企業側も学生の目的と状況を理解した上で、適切なインターンシッププログラムを提供していくことの必要性が洗い出された。学生側にとっても単にインターンシップに参加するだけではなく、事前の企業に対する調査や、インターンシップに取り組む際の目的意識、終了後今後の活動に向けて目標設定が必要だと実感した。また、企業の方の意見から、インターンシップに関しては、試行錯誤を重ねながらよりプログラムの設計や学生との接触方法等について模索している現状を垣間見ることができた。 ・今回、初めて実施した試みであったが、定期的に実施することにより学生と企業との認識のギャップを縮めるのに有意義な機会であると感じた。次回は、より多くの学生に周知したうえで開催したいと考える。

(企画者：地域協学センター特任助教 今永典秀)

平成28年度第8回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果

参加者23名 回答者17名 回収率74%

1. 性別

①男性 10名 ②女性 7名

2. 年代

①10代 3名 ②20代 5名 ③30代 5名 ④40代 4名 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上

3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 15名 ②2回目 1名 ③3回目 ④4回目 ⑤5回目以上

4. FCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 13名

②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 9名

③大学又は行政が身近な存在に感じられた 1名 ④その他 3名

5. 本日の満足度はいかがでしたか？

①大変満足 5名 ②満足 10名 ③普通 2名 ④不満 0名 ⑤とても不満 0名

6. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？

①参加できた 14名 ②どちらでもない 3名 ③参加できなかった 0名

7. インターンシップに参加、実施したことはあるか？

①ある 14名 ②参加予定 3名 ③ない 0名

8. 岐阜大学では、月1回を目途にFCを開催していますが、今後、ぎふFCに参加したいですか。

①参加したい 0名 ②テーマに興味あれば参加したい 17名

③参加したくない 2名 ④その他 0名

9. フューチャーセンターに対する感想(自由意見)

【社会人】 ・他グループの発表等まとめたものがあれば見てみたいです。インターンシップ等、弊社としても協力できることがあればぜひ声をかけていただければと思います。 ・学生の方の素直な意見や、他企業の方の意見をたくさん聞くことができて大変参考になりました。今後インターンシップを実施予定ですので、活かしていきたいと思います。本日はありがとうございました。 ・学生さんの考えや他社の方のご意見を聞かせていただき、今後のインターンシップ開催に向けて参考にしていきたいと思いました。ありがとうございました。 ・今後ぎふFCのHPは確認させていただきますので、今回の内容がどのように反映されるか楽しみにしています。 ・企業、大学、学生のそれぞれの立場から意見交換できる機会はありそうであまりないので、今後も継続して頂きたいです。本日はありがとうございました。 ・今回初めて参加させて頂きましたが、大学、他企業、学生さんと色々と意見交換できて貴重な経験をする事ができました。ありがとうございました。 ・どのような内容のインターンシップをすれば、学生のニーズに合うのかわからなかった中で参加しましたので、いろいろな意見が聴けて良かったと思います。学生の方の率直な意見や思いも聴けたので今後のカリキュラムの内容にも反映していきたいと思います。参加させて頂きありがとうございました。 ・他の企業様の考え方や、学生さんの声が聞くことができて非常に貴重な体験をさせていただきました。当協会でもインターンシップを行っており、学生に足してはどのような対応をすればいいかの参考になりましたので、大変ありがたい体験でした。1月30日もまたよろしくお願いします。 【学生】 ・実際に企業で働く方々とお話ができてとても良かったです。インターンシップに対する企業さんの考えが少しでも知ることができたと思います。また、それを受けてインターンシップに対する意識も向上したと思います。企業にも学生にも両方にとって有意義なインターンシップになればよいと思います。 ・様々な世代、企業の方々と交流し、企業として我々をどう見ているのかが分かりました。割と生々しい意見を聞け、企業との距離は少しは縮められたと思います。 ・学生としては、このような場は大切だと感じました。インターンシップは学生の成長、就職に大切だと感じており、多様な立場の人と話せて良かったです。学生の人数がもっと多くても面白いかなと思います。
--

第8回ぎふフューチャーセンター

企業・学生・大学の関係者にとつてより良いインターンシップとは何かを考えよう

1

本日の予定

*アイスブレイク
*セッション1 (30分)
企業で働くことについて

*セッション2 (30分)
インターンシップに対する課題について

他のグループで出たアイデアを確認する

*セッション3 (25分)
①②を踏まえてより良いインターンシップを考える

*まとめ (15分)
発表

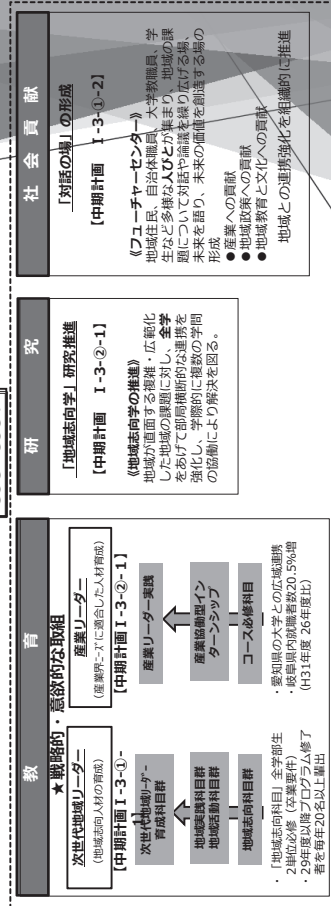
2

地域協学センター：「地域活性化の中核的拠点大学」としての機能強化

【ミッション】
「学び、究め、貢献する」地域に根ざした国立大学として、多角的な教育力及び研究力により地域の課題解決に取り組み、地域の活性化に貢献するため、地域・自治体から広く持ち込まれた課題に対し、対話を通して解決に向けた討議や支援を行う「フューチャーセンター」を運用するとともに、次世代地域リーダーといたった地域志向人材の育成プログラムを実施するなど大学COC事業・COC+事業を推進し、「地域活性化の中核的拠点大学」としての機能強化を図る。

地域の活性化に貢献

COC・COC+



地域の課題

＞ 地域志向人材の不足
＞ 産業界・多様化している地域の課題や問題を議論する「場」の不足

地域協学センターとは

岐阜大学は平成25年12月に文部科学省のCOC事業に採択され、平成25年12月に地域協学センターを設置した

・ 全学組織としての「地域協学センター」は、岐阜県、高山市、郡上市および岐阜市と連携し、地域に貢献します。

・ 3つの柱となる
「次世代地域リーダー育成プログラム」
「多様な人々が集う「場」の設置」
「『地域志向学』プロジェクトの推進」
の事業を実施します。

地域志向教育：地域で活躍する人材育成

全ての学生が受講できる全学共通の教育プログラムを展開

⇒「次世代地域リーダー」の育成

<育成する人材像>

「岐阜を知り」、「岐阜の課題をみつけれ」、「岐阜の課題解決に向けて行動する」能力を備え、グローバル化する現代社会の中で活動ができるグローバルな人間

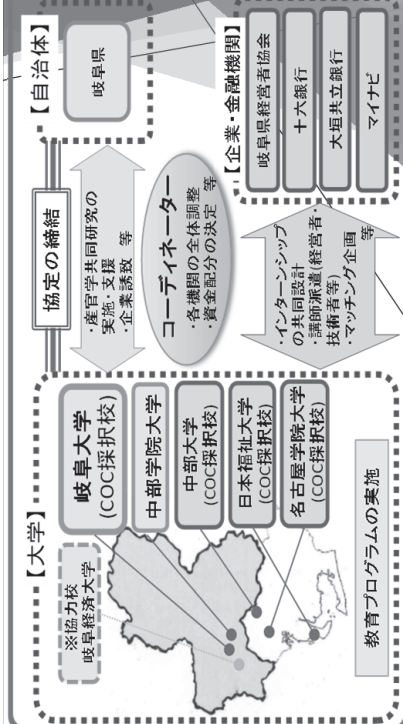
<称号>

プログラム修了者で修了後、一定の活動実績をあげた人に「ぎふ次世代地域リーダー」を授与
⇒「学生コーディネーター」(称号)として活躍

岐阜大学の取り組み：COCプラス

<目的>

大学・企業・自治体・金融機関と協働
⇒地元企業と学生との関わりを強化
地域のニーズに適合した人材育成と地元定着の促進
⇒大学の知を活用した産官学共同研究
産業振興と雇用創出の取り組みの促進

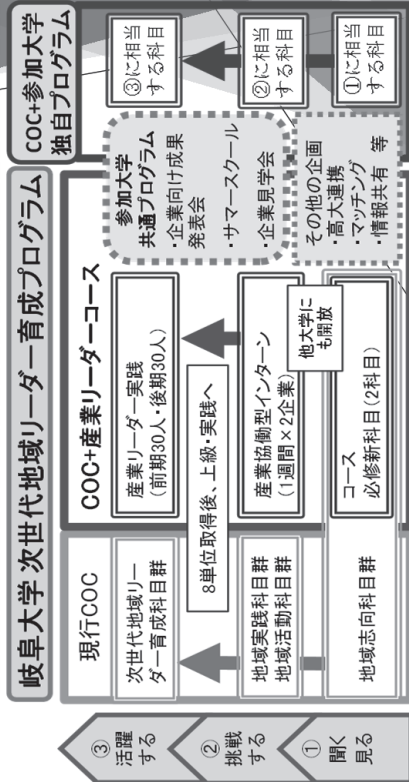


COCプラス：教育プログラムの特徴

地域をフィールドとした共通の3ステップ

- ①「聞く・見る」：基礎的知識・技能の獲得と学習の動機づけ
- ②「挑戦する」：実態の理解と自己の立ち位置の確認
- ③「活躍する」：実践を通して地域(産業)の担い手として成長

5つの力を重点化 俯瞰力/共同推進力/駆動力/課題解決力/地域志向力



産業協働型インターンシップ I・II

<概要>

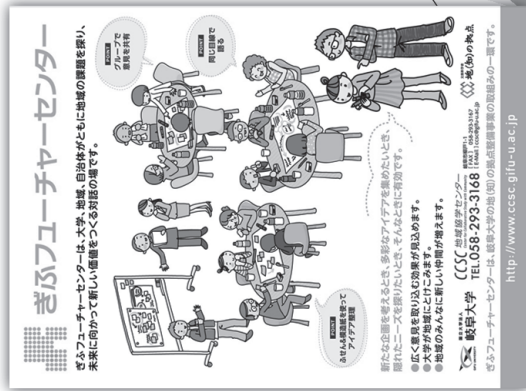
●夏休みと春休みの合計2回、それぞれ1週間程度のインターンシップへ3人～5人組での参加を通して、企業で働くことをイメージし、俯瞰力(状況把握力)、共同推進力(人間関係構築力)などの必要な能力の理解と、自己の現状と必要な能力との差異を認識し、そのうえで、自ら目標を設定し、今後の大学生活を通して、主体的に取り組み、改善できるようになることを目指す。

<インターンシップ先>

- 岐阜県経営者協会
- アピ
- イビデン
- 大垣共立銀行
- 岐阜新聞・岐阜放送
- 大光
- 厚生産業
- 電算システム
- ヒロタ
- KVK



ぎふフューチャーセンターとは



大学、地域、自治体がともに地域の課題について未来に向かって対話する場



9

アイスブレイク 共通点探しゲーム

本日のグループリーダーを一人決めてください

(学生の方がいいかな・・・(心の声))

机のメンバーで全員が共通することをとにかくたくさん見つけてください。

A 3の紙に書きだしてください

アイスブレイク

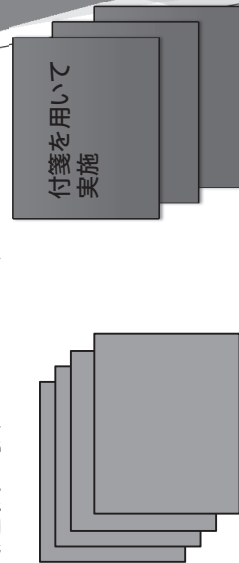
①自己紹介をお願いします (1人30秒程度) 3分間とります。

- ・所属
- ・名前
- ・本日の意気込み
- ・私〇〇が好きです。〇〇にはまってます

本日のグループワーク

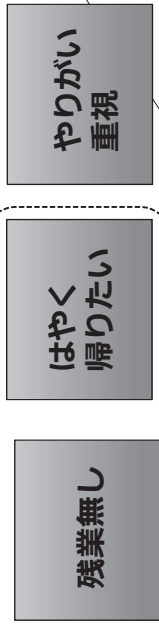
KJ法を用いて実施します

付箋に気づいたことをどんどん書いて模造紙に張っていきます！！



付箋を用いて実施

似た項目はグループピング



12

グラントルール

みんなが未来志向で創造するために

- ① 対等な立場で話します
- ② ほかの人の意見を尊重し、否定しません
- ③ 話しやすい場づくりを心がけます
- ④ 当事者意識を持ち、リーダーのみに負担をかけません

13

本日の予定

*アイスブレイク
*セッション1 (30分)

企業で働くことについて

*セッション2 (30分)

インターンシップに対する課題について

他のグループで出たアイデアを確認する

*セッション3 (25分)

①②を踏まえてより良いインターンシップを考える

*まとめ (15分)
発表

14

セッション1

企業で働くことについて

セッション2

インターンシップに対する課題

セッション3

セッション①②を踏まえて

より良いインターンシップを

考える

まとめ

グループごとに発表

- ◆ 発表者は何人でも、どのような形でも可
(学生が中心となって発表が良い・・・)
- ◆ 持ち時間は3分

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2017.1.25



企業・学生・大学の関係者にとってより良い インターンシップとは何かを考えよう

平成29年1月25日(水)企業・学生・大学の関係者にとってより良いインターンシップとは何かを考えようをテーマに、岐阜大学生、企業、大学関係者など23名が参加して、第9回フューチャーセンターを開催しました。関係者にとってインターンシップに求めているものは様々ですが、利害関係者が集まって、働くことに関して考え、インターンシップの課題を共有し、より良いインターンシップに関する議論を行いました。

当日は「企業側も学生の目的と状況を理解することが大切である」「学生はインターンシップに取り組む際の目的意識、終了後今後の活動に向けて目標設定が必要である」等の意見が出されました。

地域協学センターではこのフューチャーセンターで出た意見を、大学でのインターンシップのあり方を検討する際の参考にするとともに、インターンシップ関連科目のより良い運営に生かしていきます。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

- 企業側も学生も目的意識を共有することが大切である
- 企業側も学生の現状を理解して試行錯誤を重ねている状況である
- 学生も起業への事前調査や、取組み時の目的意識、終了後の目標設定が大切である
- 今後も改善を重ねてより良いインターンシッププログラムを設計する必要がある

本音から浮かび上がる問題点

岐阜大学工学部1年
小川 将人 さん

学生を受け入れている企業や団体の方々の、インターンシップに対する本音を聞くことが出来ました。インターンシップの多様化によって、大学を含む三者の目的や利害についての認識が噛み合わなくなっていると感じました。何のために実施するのかを、前もって互いに確認することが良いインターンシップにとって重要だと考えました。



よりよいインターンシップを目指して

大垣共立銀行
後藤 雅典 さん

関係者それぞれにとって、インターンシップに求めるものは異なります。今回の各セッションを通じて、各関係者の目的を理解し共有することの大切さを再認識しました。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

第9回 ぎふフューチャーセンター

若者が歩きたくなる
“羽島市竹鼻まちなか” 散策コースを考えよう！

平成29年2月1日（水）

会場：羽島市役所

主催：岐阜大学・羽島市

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 9 回 りふふチャーセンター	
主催者	岐阜大学、羽島市
主催団体	散策：羽島市竹鼻地区 グループワーク：羽島市役所情報防災庁舎 2 階
日程	平成 29 年 2 月 1 日（水） 13:30～17:30
目的	・羽島市の中心部・竹鼻まちなか地区には、数多くの寺社仏閣や観光案内所、資料館、老舗酒蔵等の魅力ある資源が存在しており、イベント開催時には賑わいを見せるが、それ以外は人通りもなく閑散としている。 ・ふチャーセンターを通して、イベント時だけでなく常時まち歩きしたくなる工夫を加えながら、若者が行きたくなる魅力的な散策コースを作成し、若者の来訪促進やまちなかの賑わいづくりに繋げる。
テーマ	「若者が行きたくなる“竹鼻まちなか”散策コースを考えよう！」
サブテーマ	① 竹鼻まちなかの魅力ある資源を探そう（散策のまとめ・資源の洗い出し） ② 若者が行きたくなる散策コースを考えよう（資源を繋ぎ合わせる） ③ 常時散策したくなる工夫を考えよう（散策コースの魅力向上） （例：文化や歴史などのテーマに分けたマップ作り、各施設に行きたくなるような体験の企画（お寺での座禅体験や観光施設での茶道体験など）） ※②と③は同時進行で検討する。
提案内容	・竹鼻まちなかの資源を取り入れた散策コース ・考案したコースを常時散策したくなる工夫について
参加者構成	参加者 21 人：岐阜大学生 7 人、大学教職員 4 人、羽島職員 10 人
対話の方法	4 グループ（1 グループ 5～6 人）※学生がグループリーダー
ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター特任准教授
当日のスケジュール	11:30～ 会場設営（机・椅子等の配置） 13:30～ ぐるっと羽島集合・趣旨説明等（ぐるっと羽島休憩所にて） 13:40～ 散策開始（散策時間：約 1 時間） ※散策する際は各自 5 個以上の魅力的な資源を発掘する。 ※各自お気に入りポイントを写真撮影する。 ※散策は学生と行政職員（予定）がグループで行う。 14:40～ 散策終了（羽島市役所情報防災庁舎集合） グループ分け・アイスブレイク・ふチャーセンターの趣旨説明・進め方説明等 竹鼻まちなかの現状と課題等の説明 15:10～ セッション①（20 分） 「竹鼻まちなかの魅力ある資源を探そう」（散策のまとめ・資源の洗い出し） ※各自で撮影したお気に入りポイントの写真をグループで共有する。 15:30～ セッション②・③（60 分）※セッション②と③は同時進行 セッション②「若者が行きたくなる散策コースを考えよう」（資源を繋ぎ合わせる） セッション③「常時散策したくなる工夫を考えよう」（散策コースの魅力向上）

	16：30～ まとめ作業（20分） 16：50～ グループ発表・まとめ ※1グループ5分の発表 17：20～ 終了、会場撤収
グループ発表 ※要約	<u>（1グループ）</u> コンセプト：恋愛成就 スタート：羽島市役所 ゴール：竹鼻駅 見学スポット：大仏寺、アヒル、聞得寺、浄栄寺、竹鼻別院、ぐるっと羽島、光照寺、本覚寺（龍の絵天井）、竹鼻稲荷（ハート形灯籠） 食べ歩き：イルカの水、苺のお酒、千代菊、兎月園（みそぎ団子）、とりもと鶏肉店（コロッケ）、カフェ Divertime 工夫：写真スポット（ムシガ：イケメンと写真）、縁結び団子、恋愛成就（縁結び）のコース <u>（2グループ）</u> コンセプト：RETRO なまちなみ セピアをさがす 昭和の時代へタイプスリップ：昭和感の漂う風景や看板、スポットを辿り、レトロな写真を撮影する。 工夫：①写真撮影スポット整備、②和服や古着のレンタル施設整備、③飲食店の整備 <u>（3グループ）</u> コンセプト：竹鼻さんぽ～時代を勘違いしてみませんか？～ 工夫：①商店街の店を増やす、②さびれている感をふっしょく！！、③ステージ有効活用 <u>（4グループ）</u> コンセプト：竹（たけ）ちゃん、はなちゃん ご当地グルメぐり！ 工夫：①ご当地グルメ、②歴史とグルメの融合、③コース全部回ったら特典GET！（うなぎ味のまなず）
今後の展開	・短期間で簡単に実施可能な提案については、平成29年4月下旬に竹鼻まちなかで開催されるふじまつりの際に、試験的に取り組むことを検討する。
報道等	平成29年2月2日 中日新聞
自治体等との調整過程	羽島市総合政策課、商工観光課 平成28年5月17日 初回打合せ 7月7日 企画打合せ 9月28日 羽島市竹鼻地区見学 11月8日 企画打合せ 12月21日 企画打合せ 平成29年 1月26日 最終打合せ
職員感想	（羽島市） ・今回出されたアイデアを今後の市の取り組みの題材としたい。若者の斬新なアイデアであり、4月のふじ祭りで活用できるものは活用していきたいと思っている。 ・1時間という限られた時間にもかかわらず、よく現地を回っていただいたと思う。街なかを歩き写真を撮るという視点は、若者ならではのアイデアであると思った。参加した学生が羽島を知っていただけたこともよかった。

担当者所見	今回のフューチャーセンターは、連携協定を締結している羽島市からの相談で企画が始まったものであり、自治体側が主体的に企画実施したものであった。大学は主に企画に対する支援を行うとともに当日の運営を共同で行ったが、このようなタイプのフューチャーセンターから出されたアイディアや意見は、確実に自治体の取り組みに参考、または反映されることが大いに期待できる。 今回は、羽島市の竹鼻地区のにぎわい創出を目指したテーマであったことから、現地をよく知らない学生にとって実際に現地を自分たちで歩き、観察するフィールドワークを盛り込んだことは、アイディアや意見の創出に大きな効果があったと思われる。また、フィールドワークを行うことで、参加者はより実体験にもとづき、対話や議論ができることから、当事者意識も高まったのではないと思われる。ただ、実際に街なかを散策する時間が1時間では足りず、参加者からも短かったという指摘があったことは課題であり、歩く範囲やテーマ、ミッションを考慮したうえで時間を検討する必要であった。 今後、羽島市と同様に自治体側から課題やテーマが大学に持ち込まれるパターンのフューチャーセンターが増えることが見込まれ、県内自治体にフューチャーセンターの取組みが広く浸透し、大学と自治体の連携の幅や広がることが大いに期待できる。
-------	--

(報告者：地域協学センター特任准教授 大宮康一、企画者：羽島市総合政策課 伊藤、平井)

第9回ぎふフューチャーセンターアンケート集計結果

参加者数:21人 回答者数:18人(回答率 85.7%)

1. 性別

①男性 11人 61.1% ②女性 7人 38.9%

2. 年代

①10代 6人 33.3% ②20代 11人 61.1% ③30代 1人 5.6%

3. フューチャーセンター(岐阜大学主催以外も含む)への参加は何回目ですか。

①1回目 14人 77.8% ②2回目 1人 5.6% ③3回目 1人 5.6% ④4回目 1人 5.6% ⑤5回目以上 1人 5.6%

4. これまでに、人たちが集まり話し合いながら何かを決めていく場(ワークショップ等)に参加したことはありますか。

①今回が初めての参加 7人 38.9%
 ②これまでに参加したことがある 11人 61.1% (1人1回、3人2回、2人3回、1人5回、1人2ケタ、1人100回)

5. フューチャーセンターへの参加を決めた理由はなんですか。(複数回答可) ※以下のべ数

- ①テーマ『若者が行きたくなる“羽島市竹鼻まちなか”の散策コースを考えよう!』に関わりたかった 回答数 2
- ②自分の良い経験になるから 回答数 8
- ③フューチャーセンターに関心があったから 回答数 5
- ④地域の活動に関わりたかった 回答数 4
- ⑤大学生など若者と対話がしたかった 回答数 0
- ⑥人に勧められたから 回答数 8
- ⑦仕事だから 回答数 6
- ⑧その他 回答数 3

(自由記述)・学部で学ぶ事に関連していると思ったから、・大学の授業、・自分の知っている地区であったから

6. 今日のフューチャーセンターに参加して、どんな感想をお持ちになりましたか。(複数回答可)

- ①参加者を通してさまざまな地域の情報を聞いて、視野を広げることができた 回答数 14
- ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 回答数 5
- ③テーマ『若者が行きたくなる“羽島市竹鼻まちなか”の散策コースを考えよう!』に関して、自分の意見を発言できた 回答数 8
- ④地域に関わるひとつのきっかけとなりそうだ 回答数 7
- ⑤その他 回答数 0

7. 今回のフューチャーセンターに参加して、今後どのように地域(羽島市)と関わりたいですか。(複数回答可)

- ①地域の活動に積極的に参加する 回答数 6
- ②行政・大学・地域の連携活動 回答数 7
- ③来訪者として地域の祭りなどを訪れる 回答数 6
- ④仕事として関わる 回答数 5
- ⑤研究・ゼミ活動などの対象地域として関わる 回答数 0
- ⑥その他 回答数 0

8. 今後、フューチャーセンターに参加したいですか。

- ①参加したい 7人 38.9%
- ②テーマに興味があれば参加したい 10人 55.6%
- ③参加したくない 0人 0%
- ④その他 0人 0%

9. 今後の参考とさせていただくため、フューチャーセンターの内容や進め方について、ご意見をお伺いします。

<以下、自由記述>

・町あるきは、少し時間を多くとった方が町をじっくり見て回ることができそう。気になったところを付せんできき出すことは、イメージがふくらませやすくよかった。
・実際に見て回ること、たくさんの発見があったので、実際の体験をこれからも大切にしていきたいです。
・付せんを使いながら、どういう散策ルートを作れば良いか問う方法がわかりやすかった。写真を見せあうとそうぞうがふくらむので、よい方法だと思った。
・仕方がない事ではあるが、もう少し散策の時間が欲しかった。春休みの期間中に1日かけてやってみたいが、長期休業中に人を集めるのは大変だろうと思う。
・テスト前はやめてほしいです
・散策時間が短いと思ったが、あとは大丈夫でした。良い経験になって良かったです。
・まちなかを歩く時間が1時間よりもう少し欲しかった。
・その後が見たいと思った。北方にも来てください。

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2017.2.1



若者が行きたくなる “竹鼻まちなか”散策コースを考えよう!

2月1日(水)に、「若者が行きたくなる“竹鼻まちなか”散策コースを考えよう!」をテーマに、羽島市消防庁舎を会場に第9回ぎふフューチャーセンターを開催しました。今回は、岐阜大学生7人、若手の羽島市職員10人、大学教職員4人の合計21人が参加しました。

羽島市の中心部・竹鼻地区には、数多くの寺社仏閣等の魅力ある資源があり、かつては多くの人で賑わいを見せたが、現在は人通りもなく閑散としています。今回のフューチャーセンターでは、若者が行きたくなる魅力的な散策コースの設定や仕掛けづくりを検討し、まちなかの賑わいづくりに繋げることを目的に開催しました。

今回のフューチャーセンターで、参加者は、グループに分かれ実際に竹鼻のまちなかを散策した後に、グループワークに取り組みました。グループワークでは、散策で各自撮影した写真を見せ合い魅力について意見を出し合いながら、コンセプトを設定した新たな散策コースと工夫・仕掛けを提案しました。今回出された意見やアイデアの中で実施可能な提案については、4月下旬に竹鼻まちなかで開催されるふじまつりの際に、試験的な取り組みの参考にされることが期待されます。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

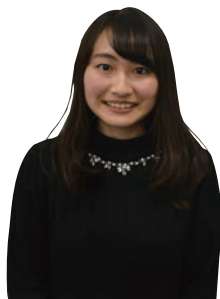
- 恋愛成就コース
- RETROなまちなみ セピアをさがす
- 竹鼻さんぽ
～時代を勘違いしてみませんか?～
- 竹(たけ)ちゃん、はなちゃん
ご当地グルメめぐり!



地元の違った一面を見ることができた

岐阜大学地域科学部1年
道下 裕奈 さん

羽島が地元なのですが、お祭りの時以外にまちなかを歩くことがなかったので、今回地元の違った一面を見ることができて、散策で見つけたお店に買いに行きたいと思いました。色んな年代の人たちと話すことができてとても楽しかったので、これからもフューチャーセンターに参加したいと思いました。



若者のパワフルな意見に驚いた

羽島市保険年金課
神谷 信龍 さん

若者のパワフルな意見に驚かされました。皆でじっくりと話し合い結論を出すことが新鮮な体験で楽しかったです。人を集めるための学生の意見が聞けて良かったです。今後は、竹鼻のまちをただ歩くだけでなく、一歩踏み込んでアクションを起こしてみたいです。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人
岐阜大学



文部科学省
地(知)の拠点

第10回 ぎふフューチャーセンター

現場で探る、商店街の課題と可能性
—多治見ながせ商店街—

平成29年2月21日（火）

会場：多治見まちづくり株式会社事務所内
（多治見ながせ商店街）

主催：岐阜大学・岐阜県・多治見市

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度第 10 回ぎふフューチャーセンター	
主催団体	岐阜大学・岐阜県・多治見市
会場	多治見市内（ながせ商店街）
日程	平成 29 年 2 月 21 日（火）14:00～15:50
目的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点整備事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携している。大学、地域、自治体が共に地域の課題を探り、未来に向かって新しい価値をつくることを目的としてぎふフューチャーセンターを実施する。
テーマ	現場で探る、商店街の課題と可能性ー多治見ながせ商店街ー ①探そう！ながせの良い点【事前講義・フィールドワーク】 事前講義及びフィールドワークを通じて、ながせ商店街の魅力・良い点を把握する。 ②つかもう！ながせの特徴 ながせ商店街の特徴をつかみ、グループ内で共有する。 ③描こう！未来の可能性 今よりもっと多くの人（地元客、観光客）に商店街に来てもらうために、どのような工夫ができるだろうか。
内 容	商店街は、近年の中心市街地を取り巻く環境の激変や後継者不足、担い手・人材不足、商店街自体がその環境の激変に対応できなかったことなどもあり、全国各地において衰退に歯止めがかからない状況であり、岐阜県内の商店街についても同様である。 しかし、商店街活性化には、性急な解決策はなく、その処方箋は各地域により異なることもあり、商店街自身が明確な方向性（ビジョン）を作成し、行政などの関係機関と連携しながら、中長期的に取り組むことが必要である。 今回、多治見市のながせ商店街をモデルとして、実際に商店街を訪れ、地域の方の生の声を聴くことで、将来的に商店街が活性化できるよう「商店街のイメージアップ」と「将来的な商店街のファンづくり」につながる効果的な方策を考える。
参加者構成	大学生 11 名（岐阜大学） 一般 5 名（商店街関係者等） 自治体職員 4 名（岐阜県、多治見市など）
対話の方法	ジグソー法＋KJ 法
ファシリテーター	川瀬真弓特任准教授（工学部）
当日のスケジュール	○ 事前学習 ○ フィールドワーク 各グループメンバーが別々のミッションを持ってながせ商店街を中心に市内散策（同時に iPad を利用した写真撮影） ○ 情報交換（フィールドワークのミッションごとに） ○ 意見交換 ○ グループ発表・講評 ○ 閉会

グループ発表	ながせ商店街がめざすもの 1 G 「一日中居られるながせ商店街」 ・朝昼のターゲットは30代以上の女性、夜は会社帰りの人 ・ちょっと運動して、カフェで一服して、買い物して帰る。 ・ながせ商店街の駅に近い辺りを「リラックス&トレーニングゾーン」、その東側を「専門店街ゾーン」とする。 2 G 「アベックが来る商店街」 ・若い人が来るようなお店を、商店街の真ん中の方につくる。 ・空き店舗に若者向けのお店（共通のイートインスペース、食べ歩きできるスイーツ）をつくる。 3 G 「人生に潤いをもたらす商店街」 ・今来てくれている人（女性（30代～シニア層））の滞在時間を増やす。 ・テイクアウトできるカフェ ・かっぱ広場を有効活用し、緑を増やす。 ・花カフェ ・近隣学校の学外教室として学習スペースをつくる。 4 G 「学生も楽しめる商店街！」 ・高齢者だけでなく若者の多い商店街にする。 ・大型店舗を活用し、ハンドメイド商品の販売、学習スペースの設置、書籍・文具を販売する。高校生をターゲットにした学割メニューや、大盛りサービス。 ・高校生の通学路になっていることを活かし、食べ歩きなどの店をつくる。 ・一店舗だけでなく、同時多発的に新しいことにチャレンジする。 *発表はパワーポイントを使用し、プレゼン形式で実施。
今後の展開	○ 多治見市中心市街地活性化基本計画策定委員会において大学との取り組み事例として発表される。 ○ 商店街ビジョンづくり委員会での活性化の参考にするとともに、今後のながせ商店街活性化のための取り組みに意見を取り入れる。 ○ 県商店街振興組合連合会などの会議において、商店街活性化に向けた大学との取り組み事例として、県から報告する。
自治体等との調整過程	○ 6月下旬 岐阜県商業・金融課担当職員と打合せ 12月中旬 県、多治見市担当職員、多治見まちづくり株式会社ゼネラルマネージャーと打合せ 2月初旬 ファシリテーター及びスタッフ現地視察・打合せ 2月21日 第10回ぎふフューチャーセンター実施
報道等	○ 2月21日 NHKほっとイブニング ○ 2月22日 中日新聞東濃版
担当職員等感想	・短い間の中で新しいアイディアを出してもらった。自分たちが考えつかなかったアイディアがいくつもあり、刺激となった。商店街の活性化に向けた計画を立てているところであり、フィードバックできるといい。（多治見市） ・商店街を短い時間でよく見てきていただいた。出していただいた意見は、受け取って、まちの皆さんにしっかりと渡す。ゼロベースでものを

	考えるよりも、アイデアをいただけるとそれについて建設的なものとなるので、提案はぜひ参考にさせていただきたい。 (多治見まちづくり株式会社) ・市、商店街関係者、県職員にとって学生さんの意見が聴けるのはとても貴重な場。若い方々の率直な意見は、とても新鮮でよい刺激になった。意見については、県内の他の商店街へも紹介していきたい。(岐阜県)
企画担当者所見	・iPad やパソコンを活用し、統一的で視覚的にわかりやすい提案発表がされた。短い時間での作業だったが、参加者が皆協力的でスムーズに作業がなされた。 ・初対面で、フューチャーセンター自体もほぼ初めて参加する学生が大半だったにも関わらず、活発で和気あいあいとした雰囲気での意見交換がされた。 ・事前学習、フィールドワーク、意見交換と盛りだくさんの内容を一日で実施したが、数回に分けて実施することも有効である(意見交換、まとめの時間がもっと欲しかったとの感想あり。)。また、今回の内容を受け、より具体的な内容をテーマにしたフューチャーセンターの開催も検討されると学生がより深く地域に入っていくことができると考える。

(地域コーディネーター(岐阜県派遣) 松原 裕子)

第10回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果・集計 参加人数20名 回答11名

1. 性別	男	7	女	4		
2. 年代	10代	1	20代	9	50代	1
3. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。						
①はじめて	8	②2回目	1	③3回目	1	
④4回目	1	⑤5回目				
4. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)						
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた					10	
②さまざまな知識や経験を持つ人(地域、大学、行政など)と知り合えることができた					3	
③大学又は行政が身近な存在に感じられた					1	
④その他(以下意見:原文のまま)・商店街の課題について知ることができた。						
5. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？						
①参加できた	8	②どちらでもない	2	③参加できなかった	1	
6. 商店街に対してこれまでどのようなイメージをもっていましたか？						
・イベント(祭りなど)でないときは人がいない。シャッターが閉まっている。						
・独自に努力しているが、持続的であるかは必ずしも成果が上がるとは限らず難しい。						
・さびれた活気のない所が多いイメージ						
・人と触れ合えるやわらかいイメージ						
・シャッター街。大型店に比べ、人と人との関わりが強い。						
・シャッター街						
・人が温かい						
・古くさびれている。高齢者が多い。						
・お客さんを郊外の大型ショッピングセンターに奪われてしまい、ひなびている。						
・シャッター街が多く、若者が少ない。						
・淋しいイメージ						

7. 今日のFCを終えて、商店街に対するイメージは変わりましたか？

また、変わったと回答された方は、どのように変わったかご記入ください。

①変わった ②どちらでもない ③変わらない

- ・新しい店も多く、新たな世代の人もたくさんいることが分かった。
- ・魅力のある店がある。
- ・活性化のために様々な努力がなされていることがわかった。
- ・若い女性向けのお店や新しいものがたくさんあった。
- ・変わってこうと努力されている人がたくさんいると思った。
- ・いろいろな取り組みを持続的に取り組んでいることは正直知りませんでした。
- ・店員さんはみなさん優しかった。
- ・まちづくり株式会社を作り、18期も継続している。また、他の組織と地域とで情報交換されている。

8. 岐阜大学では、月1回を目途にFCを開催していますが、今後、ぎふFCに参加したいですか。

①参加したい ②テーマに興味あれば参加したい

9. 自由意見（以下意見：原文のまま）

○FCについて

- ・ とても楽しかったです。
ながせ商店街は初めて行ったので、とても勉強になりました。次の予定などの関係で時間があまり押さないほうが参加しやすいです。
- ・ いつもは、フューチャーセンターのみですが、今回は事前のオリエンテーションもあってとても楽しかったです。商店街を見て回る中で、それぞれ店舗の良いところだったり商店街全体としての問題点がいまひとつと見えてきたような気がします。今日の経験をこれからの学習に活かしていきたいです。
- ・ 事前学習、フィールドワーク、意見交換、発表、まとめという流れがとても良かったです。
iPadで写真を利用することができ、効率よく発表、意見交換ができました。
フィールドワークで実際に見て回るのがとても良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 話し合いの時間が少し短く、PPTをまとめる時間が少ないと感じた。また、スケジュールが押して、終了の時間が遅くなっていたので、ゆとりをもったスケジュールにしたほうが良いと思った。
- ・ グループワークの時間がもう少し多めに欲しかったです。

○商店街・地域について

- ・ 多治見まちづくり株式会社というまちづくりをしている会社があるのははじめて知った。全国の他の地域にも同様の会社があるのか疑問に思った。まちづくりを専門にされている方の話や、自治体の方の話を聞いたのは、良い経験になった。
- ・ 商店街の方と直接関わって楽しかったです。
- ・ 地域のことについて知ることができた。様々な意見が聞けて面白かった。

多治見市の概況

現場で探る、商店街の課題と可能性 ー多治見ながせ商店街

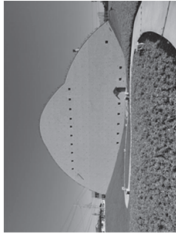
地勢

愛知県多治見市

- ・ 高度経済成長期以降、名古屋市のベッドタウンとして発展
- ・ 昭和50年代～平成ひとケタ、急速な人口増を経験
- ・ 県庁所在地である岐阜市よりも名古屋に近い
→市民は名古屋を見ている
- ・ 県内でもリバーラが強い地域

周囲を山に囲まれた地域

- ・ 夏季高温になりがち
 - ・ 窯業原料の産出、斜面の多い地形、マツ等燃料となる植生
→陶磁器が地場産業に
- ※モザイクタイルの生産は日本一



中心市街地エリア

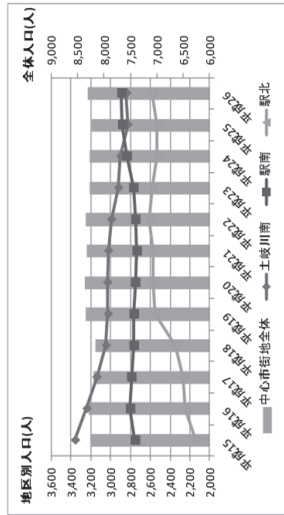
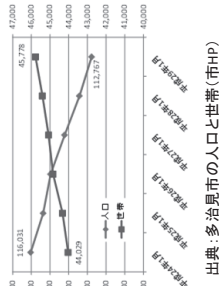


△中心市街地エリア

人口

人口減少期を迎えて

- ・ ピークは平成12年ごろ
- ・ 昨今は漸減状態に
- ・ 多治見に限らず東濃地域は深刻な人口減少が続いている
- ・ 中心市街地と呼ばれるエリアは人が減っていない



労働

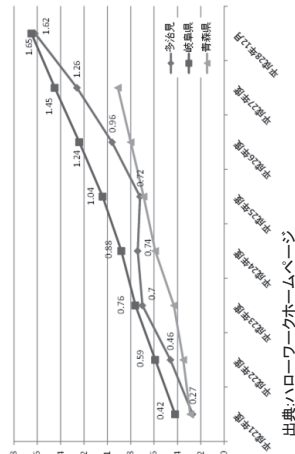
仕事はあるが...

平成27年度 多治見工業高校 求人就職状況一覧

	求人募集数(大企業)	求人数数(大企業)	求人倍率
全体	956校(266校)	872社(147社)	1052人(280人) 8.0倍
岐阜県内	214校	186社	289人(求人倍率/希望倍率)
県外(愛知県)	317校	264社	382人
県外(その他)	398校	232社	411人

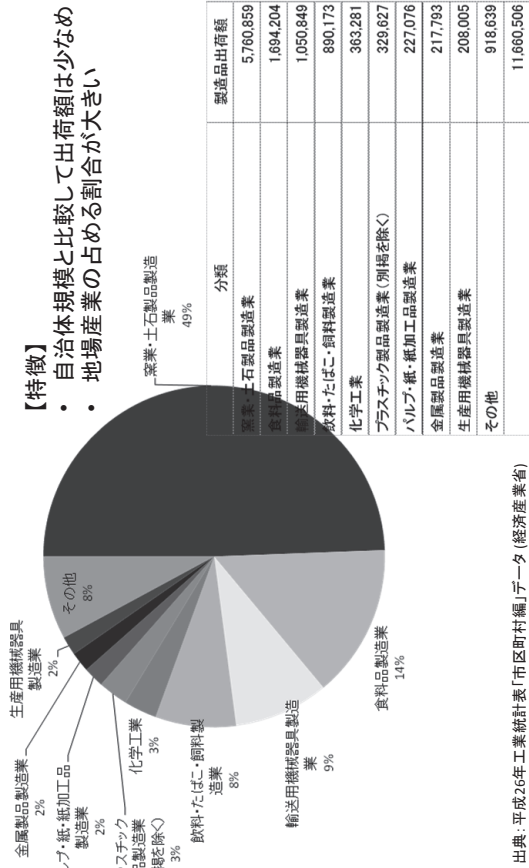
※大企業とは従業員数1,000人以上の企業
出典：多治見工業高校ホームページ

- ・ 岐阜県は全国的にも求人に恵まれた地域
- ・ 高い求人率は働き手不足の裏返し
- ・ 高齢者の定年延長、女性従業員への待遇改善等、地元中小でも取組みはじまる



工業

5



ながせ商店街の歴史

7

明治5年 やきものの生産・販売が自由になり、多治見村は美濃焼の集散地として活況。川南地区に商業集積

明治21年 多治見村が町制施行

明治33年 中央線、多治見まで開通。長瀬本町通りの車馬往来が頻繁に「人ノ通行ニ於テハ危険ニシテ名状シ難シ」

昭和14年 多治見で初めてアスファルト舗装

昭和40年代 商店街に大型店進出
アオヤマ(S41 1,828㎡)
ながせショッピ(S45 5,209㎡)
名鉄ショッピ(S46 7,499㎡)
ユニー(S51 8,156㎡)
ながせ商店街振興組合設立
ながせ商店街に誘客していた大型店が撤退
アビタ(H16)
ユニー(H18)
※商店街内の店舗減少が顕著に

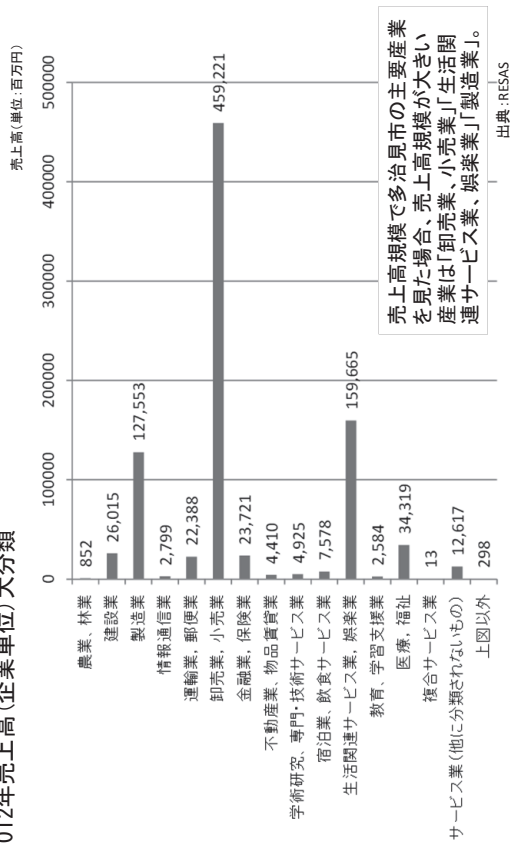


昭和30年代のながせ通り

商業

6

2012年売上高(企業単位)大分類



市で行っている商店街振興策

8

多治見まちづくり株式会社の設立及び運営支援

- ・ 中心市街地活性化を推進する第三セクター、多治見まちづくり株式会社を設立
- ・ 中心市街地活性化の実現に向け、市とまちづくり会社で連携して事業を推進

中心市街地出店者向け家賃補助

- ・ 家賃の3割(上限45,000円/月)を最長3年間家賃補助

中小事業者向け融資制度、利子補給制度

中心市街地で開催されるイベントへの事業費補助、人的支援

- ・ 七夕、花火大会、夏まつり、多治見まつり等

街路灯電気料金補助



気になることは
質問してね

多治見まちづくり株式会社のご紹介

平成29年2月21日
多治見まちづくり株式会社

1. 多治見市ご紹介

多治見市は古くから美濃焼のまちとして栄えました。
市内には今なお多くの窯元が多様な焼き物を生産しています。

また、市内には焼き物に関する美術館やギャラリーが
点在していたり、まちなかに陶器のオブジェがよく見られたりします。

名古屋市のベッドタウンとも言われ、JR名古屋駅まで
快速電車で約30分の位置にあります。

多治見市ご紹介

人 口：約112,000人
世 帯 数：約45,000世帯
主要産業：美濃焼、タイル
名 物：うなぎ
祭：4月 陶器まつり
10月 美濃焼祭
11月 多治見まつり



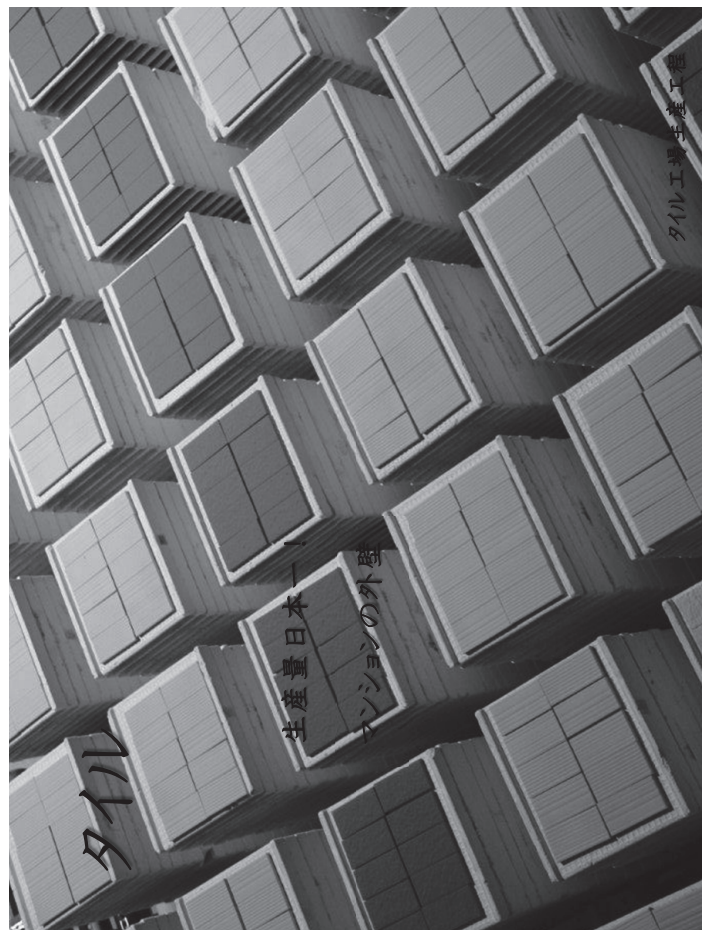
美濃焼

全国シェアの60%

日本の食卓、2つに一つは美濃焼？



美濃焼(志野)



2. 多治見まちづくり株式会社

多治見まちづくり(株)について

- 設立:平成13年12月18日
- 出資金:15,000,000円
- 出資構成:(多治見市、商工会議所、東濃信用金庫、商店街振興組合、地元企業、個人等)
- 設立目的:多治見市中心市街地の活性化、商業活性化
多治見市中心市街地活性化基本計画(H11)におけるソフト事業等の実施
- 現在のスタッフ
6名:社長(常勤) マネージャー、事業課長、事業課社員2名 カフェ担当社員
カフェパート 4名 駐車場パート 8名 物販店パート 3名
21名

一言でいうと

多治見市中心市街地の活性化に

貢献する事業を実施する会社です。

誰が何のために？

「中心市街地を構成する企業・組織」と
「多治見市」が、官民一体となって
中心市街地の活性化につなげる事業を
実施するため。

特に出資者の多くが商店街であることもあり、
商店街の活性化に関する取組が多いです。

まちなか商業の課題

- ・後継者がいない
- ・客数が少ない
- ・空き店舗や空き地が増える、埋まらない
- ・建物の老朽化
- ・商店街の住宅街化
- ・郊外大型店の出店
- ・若者がいない
- ・再開発事業計画が危ない
- ・補助金頼み
- ・やる気がない・・・？
- などなど

- (1) 会社のビジョン・事業計画に従い事業を実施する。
(市の計画等に準拠することがある。)

・経営理念

(多治見まちづくり(株)の場合)

中心市街地再生に向け、
① 官民連携の接着剤となり

② まちの一員、当事者として現場で活躍し

③ 持続的な地域づくりに貢献する。

まちづくり会社の運営

- (1) 会社のビジョン・事業計画に従い事業を実施する。
(市の計画等に準拠することがある。)
- (2) それに伴う周辺業務をこなす
- (3) それをこなせる体制をつくり持続させる

- (1) 会社のビジョン・事業計画に従い事業を実施する。
(市の計画等に準拠することがある。)

・会社のミッション1

○商業活性化

- ① 空き不動産を魅力的な店舗(事務所)へ
- ② まちなかの魅力的なものを発信し来街しつなげる
(広報・イベント、マップ等)
- ③ 意識の変化を促す
(より良くなること、団結すること、競争すること等)

(1) 会社のビジョン・事業計画に従い事業を実施する。
(市の計画等に準拠することがある。)

・会社のミッション2

○地域環境の改善

① エリアの価値を追加
(楽しい、便利、うれしい、安心、子育てを増やす)

② 地域のつながり強化(安心、安全)

⇒ 防犯、防災、互助の意識づくり

③ 多治見らしさの強化(ハードの整備、イメージアップ)
(ハード) 古いものの保存、陶磁器・タイル、サイン
(ソフト) 産業色を出した企画、おもてなし

(2) 事業に伴う周辺業務をこなす

- ・経理・会計・労務
- ・取締役会開催
- ・株主総会開催
- ・議会对応
- ・視察対応
- ・各種照会等対応
- ・社員の相談・求人
- ・市の委員会等

(1) 会社のビジョン・事業計画に従い事業を実施する。
(市の計画等に準拠することがある。)

・事業の目標と指標を設定

① 「市民の楽しみ」を提供するまちなか
⇒ 参加できる機会数と参加者数と参加者満足度

直営店への来客数、売上

② 挑戦、新たなビジネスの場

⇒ 新規出店数、開業数、支援数

・事業

① 本来必要な事業

② 経験や人脈づくりとしてメリットのある事業

③ 資金源として必要な事業

多治見まちづくり(株)について

○事業

(1) カフェ・温土運営事業(委託⇒自主事業)

(2) 物販事業(自主事業)

(3) クラフトショップ事業(補助⇒自主事業)

(4) テナントミックス事業(自主事業)

(5) 空き店舗舗出店サポート事業(補助事業)

(6) 駅北立体駐車場運営事業(指定管理事業)

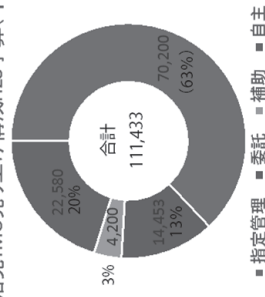
(7) 虎溪用水広場運営事業(指定管理事業)

(8) マスコットキャラクター運営事業(委託事業)

(9) 美濃焼こみち事務局(委託事業)

(10) 商店街サポート

多治見TMO売り上げ構成H28予算(千円)



駅北立体駐車場管理運営事業

・財源確保



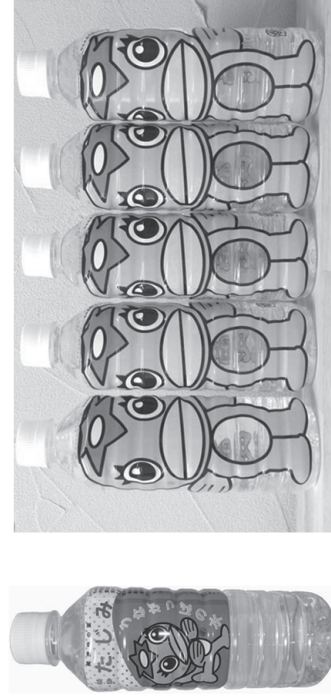
駅北立体駐車場管理運営事業

- ・当初は売り上げ不足
- ・カード決済
- ・1日券のサービス販売
- ・法人契約
- ・デザイン、VI戦略

→ 収益をまちづくりの事業へ投資

物販事業

- 土産の販売、資金確保、商品開発



クラフトショップながせの運営

- 商店街活性化・空き店舗活用・産業活性化

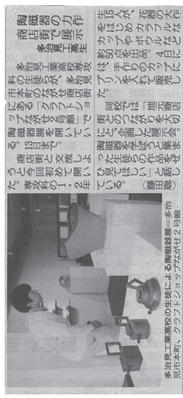
集う場の整備



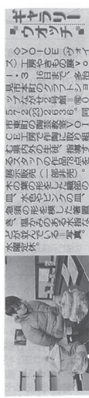
クラブショップながせ事業



H24.6.21岐阜新聞



H24.11.7岐阜新聞



H24.11.22中日新聞



H24.4.12中日新聞



H24.8.24岐阜新聞



H24.11.22中日新聞



器とごはんカフェ温土

当初の企画書の一部

まちカフェ
T A J I M I (仮称) ではこんなことを…

旧十字屋敷の空き店舗を活用し、人が集まることをテーマとしたコミュニティカフェをオープン！



2010年7月7日にオープン

岐阜県ふるさと雇用再生特別基金
事業を活用し、3名を雇用

3年目から自主事業として運営

現在は6年目

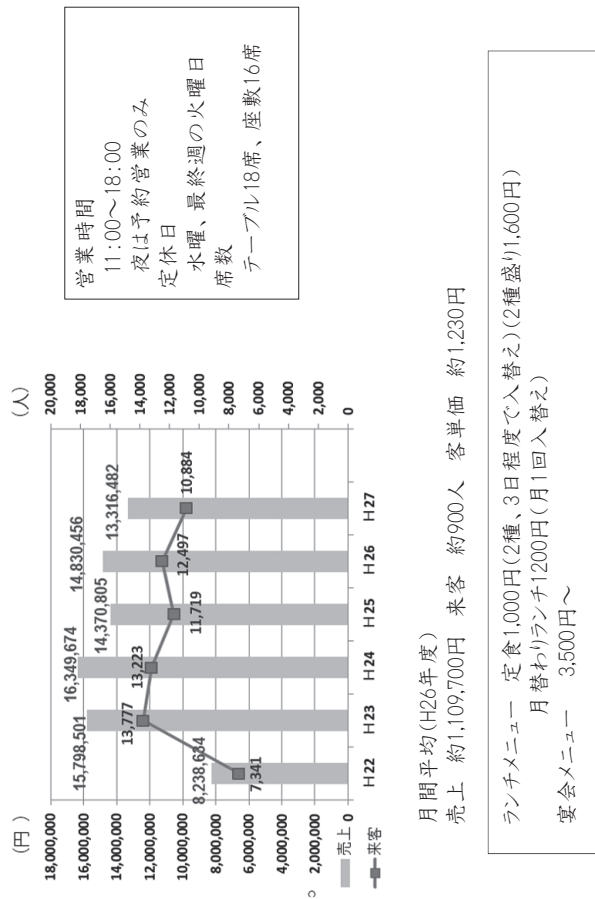
生きるのに必要な水
お日さま、
食に必要な地域資源の皿
源である土
…からカフェ温土と名付けました。

器とごはん カフェ温土

開業に至った理由

- ① 商店街に人が集まる拠点、会議室
- ② 会社の実態、社員を増やす
- ③ この店からまちづくりを発信！
- ④ おいしいコーヒーが飲みたい。
- ⑤ 駅近くで陶芸体験
- ⑥ 料理教室、イベント…
- ⑦ 雇用の目途、資金調達
- ⑧ 自分の得意分野、経験
- ⑨ 周囲の賛同
- ⑩ 女性客の集客とロコミを期待

器とごはん カフェ温土 売上・来客



器とごはん カフェ温土

都合よく、いろんな場面で活躍します。

- ① 商店街の会議や交流会
- ② 取材やロケ地として、さらにはケータリング依頼も
- ③ 地元作家の展示会
- ④ 商店街青年部のパーティー
- ⑤ 各種団体の打ち上げ(老若男女)
- ⑥ 視察会場
- ⑦ 教室(あみもの、ヨガ、食育、写真、コーヒー、紅茶など)



器とごはん カフェ温土 イベント



器とごはん カフェ温土

課題

- ・労務の問題
 - ・三セク
 - ・従業員の退職、雇用
 - ・会社の想いと現場の想いのギャップ
 - ・売上げの増加
- なぜ直営店か？
 ↓
 会社の想い、狙いの実現

地域の中で役立つ 場 であり続けるために……

まずは、自店がしっかりする。

見本となる店舗、集客カナンバー1である必要がある。

訴求力ある店でないとい何をやっても空振りする。

テナントミックス事業

空き店舗のリノベーション
(老朽化した物件を2テナントが入れる物件に改装)



くポイント>

当時実施していた
直営駐車場の収益を
事業へ投資



7. まちなかマルシェ

日時:平成25年3月16日(土)11:00~16:00

場所:ながせ商店街 かっぱ広場

目的:まちなかへ出かけるきっかけとなるイベント
を開催することで新たな店舗ができたことや
商店街の良さを知ってもらう。



H25.3.19中日新聞

まちなかマルシェフライヤー

現在他は他の事業者にて継続的に同様な市が開催されているため当社での実施はしていません。

7. 中心市街地活力再生事業 (テナントミックス事業)

ストーリー性のある店舗構成と共同販促



フリーバーバーおりべらぶらぶ2月号への掲載広告。今回開業の3店舗とカフェ温土の店主がお気に入りの商店街の店舗を紹介することで面的な集客につなげたいというものです。

意識改革、まちづくりへのモチベーションを高める勉強会の開催



情報発信、情報たじまちなう

○まちなか情報をFMビの協力を得て発信



美濃焼こみち事業

隣接した市町村と手を組んで、地域の観光資源を磨き、表現する
着地型観光プログラムの作成サポートとプラットフォームの提供。



商展街(しょうてんがい)



美濃焼の産地らしい町並みをつくろくと地元商店
街が企画。
若手作家と商店街店主の交流機会となる。
アートプロジェクトも同時開催することもある。



「陶器」商店街が
ギャラリーに
変わる2週間。

虎渓用水広場運営事業

住民から声が上ががり、先人が多治見の農業発展のために整備した
虎渓用水を活用した憩いと賑わいの広場を市が整備し、当社が
指定管理者として運営を行う。



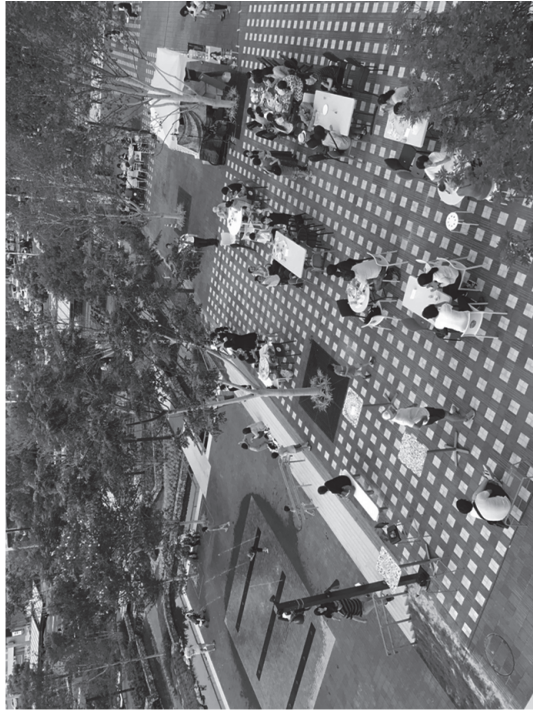
虎渓用水広場運営事業

イベント等の実施 えききたピアガーデン



虎渓用水広場運営事業

イベント等の実施 えききたピアガーデン



商店街サポート

イベントやハード整備



3. まとめ

私たちの目指すもの・・・

1ー中心市街地のエリアにおける魅カコンテンツづくり

- ・財源の確保
- ・安定的な事業収入と戦略的経営
- ・人材育成
- ・情報収集と編集

2ーまちがっつながるお手伝い

- ・まちと人、過去や今と未来

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2017.2.21



現場で探る、商店街の課題と可能性ー多治見ながせ商店街ー

第10回ぎふフューチャーセンターは、2月21日(火)に多治見市のながせ商店街において開催し、学生、商店街の方、自治体職員等計20名が参加しました。

参加者はそれぞれミッションをもって商店街を散策したあと、ながせ商店街の魅力や特徴について意見交換し、より多くの人に商店街に来てもらうための仕掛けについて提案を行いました。発表では「アベックが来る商店街」、「学生も楽しめる商店街!」などのキャッチフレーズと共に数々の仕掛けが提案されました。提示された意見は、今後自治体等の施策の参考とされることが期待されます。

また、学生にとっては、多治見市やまちづくりについて学んだり、iPadを活用して散策するなど、学びの多いフューチャーセンターとなりました。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

- 朝昼は30代以上の女性、夜は会社帰りの人をターゲットとした「一日中居られるながせ商店街」
- 若い人が来る店舗を増やし「アベックが来る商店街」
- 緑を増やしカフェでのんびり「人生に潤いをもたらす商店街」
- 高校生をターゲットにした商品や店舗をつくり「学生も楽しめる商店街!」



岐阜大学
工学部2年

黒木 寧範 さん

プラス思考が必要

普段の生活で関わらない方と関わるのは、ここでしかできない経験。意見を実現に向けて、プラスの方向へアイデアを変えていくという考え方が印象的でした。



多治見市産業観光課
まちづくり推進員

菊池 くみ さん

新たな気持ちでまちづくりを考えます

学生さんが初めて見る商店街の感想を生できくことができ、今後は新たな気持ちで商店街のまちづくりを考えたいと思いました。商店街に滞在してもらったため女性をターゲットにした「花カフェ」の提案が良かったです。



ながせ商店街
振興組理事長

玉木 秀典 さん

固定概念をこわす提案を求む!

学生さんがターゲットを絞り、それをとっかかりとして考えていくところが面白かったです。もうすこし時間をかけて話し合うことで、もっと突拍子のない意見がでてくるのではないかと思います。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

ぎふフューチャーセンター×岐阜大学フェア

市民と学生が岐阜大学と地域のつながりについて考える
～次世代を担う若者に向けて～

平成 28 年 11 月 12 日（土）

会場：飛騨・世界生活文化センター

主催：岐阜大学

平成 28 年度 りふふチャーセンター×岐阜大学フェア in 高山	
主催団体	岐阜大学
会 場	飛騨・世界生活文化センター 大会議室 高山市千島町 900-1
日 程	平成 28 年 11 月 12 日（土）15 時 30 分～17 時
目 的	岐阜大学は岐阜県内唯一の国立大学として、また地域の地（知）の拠点として、今後一層、市民や地域（自治体も含む）とのつながりを強めながら、地域社会に貢献していかなければならない。地域における大学のあり方が変わっていく中で、将来岐阜大学は、どのような役割を担っていくか、また、市民や地域がどのような大学を求めているかについて、飛騨地域の人たち（高校生、市民、自治体職員等）と岐阜大学生が対話、意見交換をすることで、地域のニーズを洗い出すとともに、将来の岐阜大学像を探ることを目的とする。 また、今回のふチャーセンターで出された意見を岐阜大学フェアの 2 日目に予定されている飛騨地域 3 市 1 村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション（「岐阜シンポジウム」として開催）の 1 テーマとして取り上げ、市民と大学生の意見を自治体の首長や学長がそれぞれのリーダーの目線から議論する。
テーマ	「市民と学生が、岐阜大学と地域のつながりについて考える～次世代を担う若者に向けて～」 ①現在の岐阜大学のイメージ ②地域が岐阜大学に期待すること（大学や学生に期待されていると思うこと） ③市民・地域と岐阜大学とのつながりとは～次世代を担う若者に向けて～
内 容	岐阜大学は、11 月 12 日と 13 日に高山市の飛騨・世界生活文化センターで「岐阜大学フェア in 高山」を開催し、おもに飛騨地域の高校生や保護者の方々向けに教員による模擬講義や体験学習、岐阜大学生による学生企画を行った。 今回のぎふふチャーセンターは、岐阜大学フェア in 高山にあわせて、高山市を中心とした飛騨地域の自治体との共同で「市民と学生が、岐阜大学と地域のつながりについて考える～次世代を担う若者に向けて～」をテーマに開催した。飛騨地域の斐太高校や高山西高校の生徒、飛騨地域の 4 自治体（高山市、飛騨市、下呂市、白川村）の職員、岐阜大学生が参加し、次世代を担う若者の視点に立ち、飛騨地域と岐阜大学の未来に向けたつながりや連携のあり方について語り合った。 ふチャーセンターでは、「（岐阜大学生と地域の）交流の場を増やしてほしい」や「（大学生や研究者等による）地域資源の発見と活用」などの意見や出され、飛騨地域にとって地理的な距離がある岐阜大学と様々なかたちで接点を持つことが「場」を作ってほしいという要望があることを改めて相互

	に確認することができた。今回出された意見やアイディアは、岐阜大学フェア in 高山の2日目（11月13日）に開催された「飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション」で参加した斐太高校の生徒の2人が代表してパネリストである首長や学長に向けて発表し、今後の飛騨地域と岐阜大学のつながりを会場全体で考える貴重な機会となった。
参加者構成	参加者合計 24人（6人×4グループ） 内訳：高校生11人（斐太高校6人、高山西高校5人） 岐阜大学生5人 自治体職員8人（高山市3人、飛騨市2人、下呂市2人、白川村1人）
対話の方法	KJ法 6人／4グループ
ファシリテーター	地域協学センター長 益川浩一（教授）
当日のスケジュール	1. FCの説明・趣旨説明（10分） 2. アイスブレイク（グループ内の自己紹介等）と①現在の岐阜大学のイメージ（15分） 3. ②地域が岐阜大学に期待すること（大学や学生に期待されていると思うこと）（40分） 4. まとめ ③市民・地域と岐阜大学とのつながりとは～次世代を担う若者に向けて～（15分） 5. 発表（20分）
グループ発表 ※要約	<u>（1グループ）</u> 「（岐阜大学生と地域の）交流の場を増やしてほしい」 ⇒ 岐大weekの設置、大学の講義が聞きたい、留学生との交流など 「（岐阜大学が）一緒にまちづくりに取り組んでほしい」 「飛騨地域で活躍する人材育成」、「岐大生を県内で働かせてほしい」 <u>（2グループ）</u> 「（大学生や研究者等による）地域資源の発見と活用」：眠っている観光資源の活用、森林資源の活用（⇒林業従事者の活躍の場の創出） 「大学生と交流する機会を作ってほしい」 <u>（3グループ）</u> 「地域と大学生との関わりの創出（語る機会、共同での取り組み）」（若者がかけ橋となる） ⇒ 国際関連：観光促進（大学と共同するボランティア活動、ガイドなど） 「地域理解」（もう少し地域問題に目を向けて行く） ⇒高齢化、地域活性化（眠っている資源の掘り出し） <u>（4グループ）</u> 「岐阜大学医学等の地域枠入試をなくさないでほしい」 「飛騨地域に4年制大学を作ってほしい」

今後の展開 (岐阜大フェア in 高山・パネルディスカッションの様子)	○今回出された意見やアイデアは、岐阜大学フェア in 高山の2日目(11月13日)に開催された「飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション」で参加した斐太高校の生徒2人が代表してパネリストである首長や学長に向けて情報提供を行った。 <斐太高校の生徒(2人)からの話題提供> ○岐阜大学生や海外の人たち(留学生)と交流する機会を増やすことが重要である。 提案のメリットとして、県内外の人が行き交うことで情報の循環が生まれ、県外の多くの人に来てもらえる。また、地元の高校生などが岐阜大学生と交流することで、岐阜大学の情報発信につながる。例えば、飛騨地域での「岐大ウィーク」を設定するなど。 ○飛騨地域の良さや長所を生かしたまちづくりをしてほしい。地域の良さを情報発信し、県外に人々を呼び込むだけでなく、企業の誘致などの雇用創出につながるのではないかと考える。 ○若者の目線からは、進学だけでなく仕事や子育ても含めて、長期的な視点から将来安定した進路を確保してほしい。 <パネリストからの回答> (森脇学長) ○飛騨地区、3市1村で拠点を構築することで、様々な大学の活動や取り組みが実施できる(各大学の活動週間など特色を持った取り組み)。 (高山市長) ○大学連携センターを設置し、情報発信だけでなく、地元の若者などの相談により、コーディネートできるようにする必要がある。また、観光においては、観光客からも様々な情報を提供してもらい、地域に還元できる仕組みが考えられる。 (飛騨市長) ○大学のリソースや情報を地域が持てるようになり、地元の高校生が活用し自分自身の進路に役に立てるように、大学のコンソーシアムや3市1村による拠点(大学連携センター)が必要である。 (白川村長) ○若者の発想で、未利用の地域資源を活用できるようにしてほしい。
自治体等との調整過程	9月7日 白川村総務課担当者、飛騨市長(秘書課)、飛騨神岡高等学校長、吉木高等学校長への企画説明・参加依頼 9月8日 下呂市役所企画財政課担当者、高山工業高等学校長、益田清風高等学校長への企画説明・参加依頼

	9月15日 高山市秘書課・企画課担当者、斐太高等学校長、飛騨高山高等学校長、高山西高等学校副校長への企画説明 10月20日 白川村総務課担当者、飛騨市企画課担当者、下呂市企画財政課担当者、高山市秘書課・企画課担当者との協議 ※高山市企画課担当者など飛騨地域の自治体担当者とメール、電話にて適宜調整、協議を行った。
報道等	11月14日 高山市民時報（FC 参加高校生の発言に関する記述）
担当職員感想	（高山市） 職員にとって、岐阜大学生、地元高校生、他自治体職員と立場を超えて、地域の未来について対話する場はとてもいい機会であり、勉強になった。特に若手職員も楽しく参加できたと言っており、良い刺激になったと思う。
企画担当者所見	今回のフューチャーセンターは、岐阜大学フェア in 高山における企画の1つであり、2日目に開催された「飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション」で、飛騨地域の高校生や地域住民からの声として提供できる提案や意見をまとめることを目的として開催された。ぎふフューチャーセンターとしては、これまでにない試みであり、他の企画（パネルディスカッション）と連動させながら企画立案から実施に至るまで進められたことは、フューチャーセンターの新たな活用方法であった。成果としては、フューチャーセンターに参加した斐太高校の生徒が、地域の若者または参加者を代表してパネルディスカッションのパネリスト（学長及び4首長）に対して、生の言葉で、フューチャーセンターで出された提案や意見を伝えられたことであり、フューチャーセンターを通じて大学や飛騨地域のリーダーと地域の高校生、もしくは地域住民を直接的につなぐことができた。 また、参加者については、他の企画と連動させたことで、関係者の参加意識の向上にもつながり、飛騨地域の全自治体（高山市、飛騨市、下呂市、白川村）の職員が参加し、地元高校生をはじめ岐阜大学生との対話に場を作り上げることができたのも大きな成果と言えるだろう。一方で、飛騨地域の高校からは2校の参加にとどまり、より多様な参加者を確保できなかったことは課題であり、より多くの高校から生徒が参加できるような周知と場づくりが不十分であった。 今後も、今回のフューチャーセンターのような他の企画と連動させる方法を試みることで、新たな活用方法を見いだせる可能性を感じた。 いずれにせよ、飛騨地域の自治体職員や高校生が一堂に会する対話の場を作ることができたこと、また飛騨地域にフューチャーセンターという対話の手法を広く提示できたことは、今後発展的に岐阜大学とつながるきっかけとなったと思われる。

（企画者：地域協学センター特任准教授 大宮康一）

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.11.12



飛騨地域の人たちと、 地域と岐阜大学との未来について考えました

岐阜大学は、11月12日と13日に高山市の飛騨・世界生活文化センターで「岐阜大学フェアin高山」を開催し、おもに飛騨地域の高校生や保護者の方々向けに教員による模擬講義や体験学習、岐阜大学生による学生企画を行いました。今回のぎふフューチャーセンターは、岐阜大学フェアin高山にあわせて「市民と学生が、岐阜大学と地域のつながりについて考える～次世代を担う若者に向けて～」をテーマに開催し、飛騨地域の斐太高校や高山西高校の生徒、飛騨地域の4自治体(高山市、飛騨市、下呂市、白川村)の職員、岐阜大学生が参加し、次世代を担う若者の視点に立ち、飛騨地域と岐阜大学の未来に向けたつながりや連携のあり方について語り合いました。

今回のフューチャーセンターでは、「(岐阜大学生と地域の)交流の場を増やしてほしい」や「(大学生や研究者等による)地域資源の発見と活用」などの意見や出され、飛騨地域にとって地理的な距離がある岐阜大学と様々なかたちで接点を持つことが「場」を作ってほしいという要望があることを改めて相互に確認することができました。今回出された意見やアイデアは、岐阜大学フェアin高山の2日目(11月13日)に開催された「飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション」で参加した斐太高校の生徒のお二人が代表してパネリストである首長や学長に向けて発表し、今後の飛騨地域と岐阜大学のつながりを会場全体で考える貴重な機会となりました。



今回のまとめ

- 岐阜大学生と地域の交流の場を増やしてほしい:
「岐大weekの設置」、「大学の講義が聞きたい」、「留学生との交流」
- 岐阜大学と一緒にまちづくりに取り組んでほしい ●飛騨地域に4年制大学を作してほしい
- 大学生や研究者等に眠っている観光資源や森林資源を活用してほしい

各グループからの
意見・アイデア



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

ぎふフューチャーセンター×フィールドワーク実習

母袋の地域資源を磨き上げよう

平成 28 年 12 月 4 日（日）

会場：上栗巣集会所

主催：岐阜大学・母袋わくわく会

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度 ゑふフューチャーセンター×母袋フィールドワーク実習 in 郡上	
主催団体	岐阜大学・母袋わくわく会
会 場	郡上市大和町栗巣 1930 番地 1 上栗巣集会所 他 母袋地域各所
日 程	平成 28 年 12 月 4 日（日）10:30～15:45
目 的	母袋地域が作成した地域資源マップに沿って史跡等を確認し、今後、母袋地域に観光、移住で人を呼び込むため、地域資源のブラッシュアップを行う。
母袋地域について	母袋地域は 37 戸と小さな集落でありながら、地区民一体となつての地域おこし活動が盛んである。古く使わなくなった土雛等を展示し、地区の主婦が料理を振る舞う「母袋ひなまつり」は行政等の支援なしで 20 年以上続けている。また、平成 22 年度には母袋地域づくり協議会を結成し、地域資源の掘り起こしや再発見、地区民が集まった芸能祭「母袋祭」を開催している。28 年 10 月 1 日には地域おこし協力隊を迎えて、母袋ブランド開発、小水力発電調査、イベント企画立案など更に地域おこし活動を強力に進める予定である。
テーマ	「母袋の地域資源を磨き上げよう」 ①母袋地域の地域資源を見て印象に残ったこと／地域資源は何だと思いますか ②母袋地域で活用したい、興味深い資源は何ですか／その資源の活用方法を考えよう（ワークシート作成）
参加者の構成と人数	参加者合計 13 名 ・学生 6 名 ・母袋わくわく会 7 名
対話の方法	セッション①KJ 法、セッション②ワークシート作成
ファシリテーター	地域協学センター 地域コーディネーター 安藤 祐二
当日のスケジュール	母袋地域の概要説明 10:40～11:00 現地踏査・写真撮影：地元説明あり 11:00～12:00、13:00～14:20 現地踏査振り返り・撮影写真の確認 14:20～14:40 セッション①→グループで発表 14:40～15:10 セッション② 15:10～15:30 意見発表・コメント 15:30～15:45
内 容	今回は特に現地踏査によって母袋地域の魅力確認を行う。また、地元と学生で母袋地域の資源に関する対話を行い、学生が意見・活用アイディアなどをワークシートにまとめる。
セッション① 母袋地域の地域資源 を見て印象に残った こと グループ発表 要約 ※マップ別紙	A 班（母袋集落内、南部史跡） 下の宮・槍岩→平家の墓五輪塔→次太郎御殿跡→アウトドアイン母袋 →母袋工房・島崎与想左衛門石碑→母袋別荘地 （槍岩） ・本当に穴が開いていた。どうやって開けたか知りたい。 ・伝説も伝えたい。 ・付近に「橋げた」がある。旧街道筋のものだが橋を復活させたいと聞いて、一緒に取り組めたらなと感じた。 （平家の墓、蓮如上人の掛け軸） ・歴史的な史跡、物が多くあるので、歴史ツアーができれば面白いと感じた。 （母袋工房）

	・工房も見学でき、食べさせていただけたがすごくおいしかった。 ・どぶろくもあるので、おいしい物はどんどん外に出せるとよい。 (次太郎御殿跡) ・とてもいい風景。 ・案内がないと分からない (アウトドアイン母袋) ・名古屋から一番近いスキー場で穴場スポット。 (下の宮) ・こま犬が面白い形をしている。全国のこま犬をコレクションして比べてはと思った。 B班（母袋北部史跡） 比丘尼寺跡地蔵→銭神岩→木地師の墓→奥母袋総社→弁慶岩・炭焼き窯 (現地踏査全体) ・林道に入って石、墓の史跡を確認した ・伝説なのか歴史なのか分からないものがある。体系、時系列にまとめるとよい ・どの史跡も道中が整備されていないのできれいにして通りやすくするとよい。 ・現地踏査の途中でも地元の人たちがいろいろと話し掛けてくれる。母袋地域の「人柄」も発信するとよい。 (銭神(囃)岩) ・割れている岩が本当に噛み合うのか、「銭」があるのか。史跡の言われを考えると夢が膨らんだ (木地師の墓、比丘尼寺跡) ・(史跡の石に彫ってある文字を紙で浮き出させようとしたが) うまくできなくて、判読もできなかった。写真を撮ったので、パソコンでの写真処理で判読できるかもしれない (弁慶岩) ・圧巻の大きさ。迫力に驚きテンションがあがった。 (白山神社 総社／奥の宮) ・神社の奥に「仏」があり、地域各地から集められたという話は面白かった。それらを伝えられるようなものがあると良い。 (炭焼き窯) ・40～60年前の窯が残っている。利用ができると良い。
セッション② (ワークシート作成) ・母袋地域で活用したい、興味深い資源は何ですか ・その資源の活用方法を考えよう	○応用生物科学研究科 M1 (印象に残った資源) ①槍岩 ②白山神社(下の宮)の狛犬 ③豆腐、燻り豆腐、油揚げ、ゆば (活用のアイディア) 【狛犬コレクション】 ・いろんな神社と連携する。おもしろい、かわいい狛犬コレクションを巡る。 ・狛犬写真集をつくるなど 【母袋伝説ウォークラリー】 ・各伝説や歴史を再解釈。集落内の各スポットをめぐって探検する。 ・個々の話を繋げて1つのストーリー仕立てに。 ・謎解き要素も入れては。 ・地域内が広く高低差があるので、セグウェイ移動もありかも

	○教育学部 2年生 (印象に残った資源) ①おいしい食べ物(豆腐、野田さんのトマト)、②スキー場・キャンプ場 ③槍岩、弁慶岩 (活用のアイディア) 【子どもキャンプ再び】 ・おいしい食べものがあるので使う ・カモシカなど珍しい山の動物を子ども達と探したい。 【岩巡り】 ・岩好きを集めて巡る。 【湯葉大食いコンテスト】 ・全国から湯葉好きを集めて湯葉の大食い大会 ・優勝者は槍岩に3つ目の穴を空ける権利を得る。 【弁慶岩大会】 ・現代の弁慶を決める ・弁慶岩に腰かけて一番弁慶に近い人が優勝 ○地域科学部 2年生 (印象に残った資源) ①平家関係の史跡 ②弁慶岩 ③良い景観 (活用のアイディア) 【母袋ならではの良い景観：街の枯れた生活に癒しを】 ・林道を整備しセグウェイで森林浴をしよう！ 【槍岩：ぶっちゃけ岩に穴はあけられるかコンテスト】 ・槍岩と同じ性質の岩を用意して槍で岩を突く ・優勝賞品は削られた岩 ○応用生物科学部 2年生 (印象に残った資源) ①弁慶岩 ②比丘尼寺地蔵の横の鎌倉街道に続く道 ③杉林の林道の石の壁と石畳 (活用のアイディア) ・杉林をきれいにして日本家屋をつくる。秘密基地づくり ・下の宮からネオナチュラルのたなか裏の旧道をよみがえらせる ・新しい炭焼き窯をつくる ・高級天然なめこ狩りとみそづくり体験(昼食に出た材料が全て母袋産の味噌汁を受けて) ・四駆で登る1500年代トリップ ・ここだけの世界を探せ in 母袋 ・ドローンをとばそう。とっておきの航空写真 ・伝説を再解釈。ストーリーづくり ・小中学校の社会見学 ○応用生物科学部 2年生 (印象に残った資源) ①銭神岩 ②炭焼き窯 ③弁慶岩 (活用のアイディア) 【銭神岩の岩は本当にあてはまるのか!!!】 ・銭神岩のミニチュアをつくって、あてはまるか実証する。
--	--

	・ 銭堀りをする 【炭焼き窯をきれいにして炭焼き体験】 ・ 炭焼き窯の中に入ってみる。子どもは秘密基地的な感じでわくわくする。 ・ 炭焼き体験をする。家族や小学校の遠足などで ・ BBQ 炭にちなんで。ジビエを焼く ○工学部 1年生 (印象に残った資源) ①銭神岩 ②弁慶岩 ③木地師の墓 (活用のアイディア) 【銭神岩】 ・ 銭探しをする。 【炭焼き窯】 ・ 時間をかけて、炭焼き窯を作る段階から始める。 ・ 木を切る段階から炭作りをする。 ・ 学校の遠足で炭焼き体験 【母袋全体】 ・ かくれ地蔵探しツアー ・ 伝説めぐりウォークラリー
今後の展開	・ 地域づくり団体「母袋わくわく会」の活動の参考とされる。 ・ 母袋地域おこし支援隊の活動の参考とされる。
団体との調整	平成 28 年 9 月 11 日 開催について協議 平成 28 年 11 月 1 日 母袋わくわく会の会議にて実施内容の説明
母袋わくわく会感想	・ 母袋を回って面白いアイディアをもらえた。地域的な考え方もあり全てできるとはいえないが、夢、希望を与えてもらえた。 ・ 炭焼きをやりたいと意見が出ていた。もうすぐ 80 歳になるが、母袋でも炭焼きを経験しているのは私たちの世代のみ。それには関わる事ができると思った。 ・ 炭焼き窯について興味を持ってもらえた。現在は窯を使ったり、作っている人はいないが、経験をしている者として復元を試みたくなった。 ・ 槍岩にも多くの人が興味を持ってくれた。槍岩に通じる道が少し荒れているのできれいにしたい。 ・ 私も母袋はまだ長くないが、槍岩、炭焼き窯は興味深い。弁慶岩の弁慶を決める大会はやってみたい。 ・ 今日は時間が無く深く見る事ができなかったと思う。また足を運んでもらえるとうれしい。 ・ 炭焼き窯は自分も考えていた。イベントという形にしていきたいので、その時はぜひ参加を。 ・ 職員や学生も変わっていくかもしれないが、継続が大事と思う。来年度以降も引き続きお願いできればと思う。
企画担当者所見	今回のフューチャーセンターは、従来の行政を挟んだフューチャーセンターではなく、地域の団体と直接連携して実施したものである。行政を通して実施する場合は条例等の制限もあり、対話によって生み出されたアイディアを活かすににくい面もある。その点、地域の団体と直接連携をできれば、条件さえ整えば、アイディアを実行に移しやすい利点があると思う。学生が提案した意見も好意的に捉えていただいたので、母袋地域と継続して対話を行い、アイディアを活かせるようにしたい。

(企画者：地域コーディネーター(郡上市派遣) 安藤 祐二)

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.12.4 2017年2月15日発行号

VOL.28



地域に眠る資源を知り その活用を考える

12月4日(日)、郡上市大和町母袋(もたい)地域において、岐阜大学と地元の地域づくり団体「母袋わくわく会」との共催で、地域資源の磨き上げを目的としたフィールドワーク実習を開催しました。

最初に、母袋地域の概要説明を受け、2班に分かれて史跡や地域内の施設へ現地踏査に向かいました。各史跡では、地元の方からその言われの説明を受け、写真撮影も行いました。

次に、全員で、撮影した写真の確認と現地踏査の振り返りを行い、「炭焼き窯は珍しく、自分も炭焼きがしたい」「由緒ある岩が多く存在している」など各資源の興味深い点をあげました。

最後に、学生が資源の活用方法について検討し、「炭焼き体験イベント」や「武蔵坊弁慶が座ったとされる岩で現代の弁慶を決めるコンテストを開催する」などのアイデアが提案されました。

今回の実習を通して出されたアイデアは、今後、「母袋わくわく会」の活動の参考とされます。また、引き続き母袋地域と連携して地域づくり活動をしていく予定です。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

踏査のまとめ

- 弁慶岩、槍岩など小さな集落に由緒ある岩が多くある
- 今では珍しくなった炭焼き窯が当時のまま残っている
- 燗り豆腐、どぶろくなど特徴ある飲食物がある

活用提案

- 鎌倉街道、平家伝説にまつわる史跡めぐりを開催したい
- 弁慶岩で現代の弁慶を決めるコンテストを開催したい
- 炭焼き窯を作る。作った窯で炭焼きの体験イベントを開催したい



母袋を岐大の地域づくり実践フィールドに

母袋わくわく会

野田 秀幸 さん

いろいろな伝承や言われが多く残るちょっと変わった極小集落・母袋。今、母袋わくわくビジョンを作成する計画があります。学生の皆さんには、母袋住民のアイドルになっていただき、今後とも一緒に地域づくりを楽しんでいただけたらうれしく思います。



資源の再発掘と、観光資源への発展

母袋地域おこし支援隊

吉田 雄輔 さん

地域の人たちが日常では見逃してしまう、土地が内包する歴史・史跡の面白さを、外部からの視点と若い感性が交流することにより、新しい価値を見出し観光資源として活用していくビジョンが生まれました。アイデアを実現につなげるため継続的に実施していけたらと思います。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

ぎふフューチャーセンター in 高山

地域リーダーとしての地域貢献

平成 29 年 1 月 23 日（月）

会場：高山市役所保健センター

主催：岐阜大学・高山市

「地（知）の拠点整備事業」 平成 28 年度 ぎふフューチャーセンター in 高山	
主催団体	岐阜大学 高山市
会 場	高山市役所 保健センター 会議室 高山市花岡町 2 丁目 18 番地
日 程	平成 29 年 1 月 23 日（月）19:00～21:30
目 的	岐阜大学は、地域にとけこむ大学をめざして「地（知）の拠点整備事業」に取り組み、岐阜県、岐阜市、高山市及び郡上市と連携して大学が有する多様で豊富な教育力、研究力で県内の諸課題に取り組み、地域社会において存在感のある大学として地域社会の活性化に貢献することを目的としてぎふフューチャーセンターを実施する。
テーマ	「地域リーダーとして地域貢献」 ①地域の課題は ②その解決策は ③私の決意 ※私の役割
内 容	高山市では、地域で新しいまちづくりの形として各地区に 20 のまちづくり協議会が立ち上がり、その活動が本格的に運用されて 2 年目を迎える。 このまちづくり協議会の組織・活動が持続し、活発化させるために、地域の次世代を担う若者等が対話しコミュニケーションを図る中で、将来のビジョンを創造し、自身の役割と取り組みを考える場を設置した。 今回は、COC セミナー「The 学」とぎふフューチャーセンターを同時に開催した。COC セミナー「The 学」では、「地域の課題とリーダーの姿」をテーマに講義を聴講し理解して、「自分ができる地域貢献」をテーマにぎふフューチャーセンターで地域の課題とその解決策について対話し、最後に自分自身の役割として「私の決意」を宣言した。
参加者構成	参加者合計 47 名（6 人×8 グループ） ・まちづくり協議会推薦者 38 名 ・高山市職員 9 名
対話の方法	KJ 法 3 セッション 6 人／8 グループ
ファシリテーター	地域協学センター長 益川浩一 教授
グループ発表 ※要約	地域課題について、 ①少子高齢化を挙げて若者が地域に関わらないことで、地域活動が改善されないといった意見が多くあった。 ②地域の行事がマンネリ化している意見が多い。その理由は、地域の組織体制と役員の負担が大きな問題で、慣例の行事を熟すことが組織の業務となっている現状があるという意見が多い。 ③地域の情報が若者に届かないという意見多い。これは、多くの若者は仕事

	や家庭で忙しく地域活動に参加できないことがあるが、このことを繰り返すことで若者と地域との関わりが弱く、関心が薄れる原因になると意見もあった。 課題の解決について、 ①地域が若者の意見を積極的に聞き入れる体制をつくり、若者の意見を十分検討して活動に反映する努力をすることが若者を地域に引き寄せることに繋がる。それで、少子高齢化が進む状況においても、若者が活動を促進することで地域が活性化すると考えられた。 ②若者が地域との関わりを持つことで、地域振興を前向きに捉えて新しい感覚でアイデアを提案することが想定される。それで、行事のマンネリ化が解消されるという意見があった。 ③組織は、身近な情報や各地域の情報などを地域の住民に発信し、多様な人たちとの意見交換の場を積極的に開催する事で、地域住民が他人事としない地域活動の運営が可能になるという意見が多くあった。
当日のスケジュール	1. 開 会 2. COC セミナー「The 学」 テーマ「地域の課題とリーダーの姿」 3. ぎふフューチャーセンター ・アイスブレイク ・対 話（3セッション） 4. 講 評 5. アンケート 6. 閉 会
今後の展開	今回の課題・解決策を踏まえて具体的な取り組みを深堀して、地域のリーダーとして活躍できる素養と自覚を育てる。
自治体等との調整過程	1 2 月 5 日 研修について協議 1 2 月 1 2 日 講師依頼 1 月 2 3 日 実施
報道等	1 月 2 7 日 中日新聞 朝刊 「飛驒版」
企画者担当者所見	今回の講座に参加された若者は、ある程度地域活動に参加したことがある人が多いことから、自分の体験を基にした地域の課題と解決策について意見交換することが出来た。 参加者からの意見は、地域への不満や地域への希望を具体的に話すため、聞き手側の参加者もその意見に共感して会話を盛り上げた。この対話から地域の大小はあるが、地域が抱える課題は同じであることが分かった。 そして解決策では、地域活動を改善するきっかけについて、地域に住む住民の意見、特に次世代を担う若者の意見を反映した活動を効果的に地域が実施することが地域を活性化につなげる大切な事であると全体の意見からまとめる事ができる。しかし、地域の組織運営は長年培われたものであることと、

	その役員の負担や苦勞に大きさが課題であり、改善に向けた取り組みには時間が掛かる意見もある。 最後には「自分の決意」を、この講座により感じた自分の意見をグループ内で共有して終了した。そこで、参加者から「地域をあてにし、地域からあてにされる人になる。」というこの講座の主旨にあった宣言があり、この講座(研修)の成果があったと感じた。
--	--

(企画者：高山市 市民活動部 市民活動推進課 黒木典久)

ぎふフューチャーセンターin 高山アンケート集計結果

参加者 47 人／回答者 41 人（回答率 87.2%）

1. あなたの地区を伺います。 _____ 地区

一之宮 1、花里 2、岩滝 2、久々野 1、江名子 2、高根 2、国府 2、三枝 3、山王 2、上宝 2、新宮 2、清見 2、西 1、莊川 2、大八 4、丹生川 2、朝日 2、東 1、南 1、北 2、(市職員 9)

<地域活動について>

2. あなたは、自分が住んでいる地域をどのように思っていますか。

①活気がある 17.5 ②問題が多い 20.5 ③特になし 7

3. あなたは、地域の活動に興味がありますか。

①興味がある 35 ②興味は無い 1 ③考えたことが無い 5

4. あなたは、地域の行事に参加していますか。

①積極的に参加 26 ②参加しない 1 ③消極的だが参加 14

5. あなたは、地域には多様な行事が必要と考えますか。

①必要 34 ②必要無い 1 ③考えたことが無い 6

6. あなたは、地域の行事の見直しが必要だと思いますか。

①思う 32 ②思わない 9

【①に対する意見】

- ・地域行事の実行委員、役員になった人が先ずやる気を起こすことが大事。
- ・役員に若い年代を入れることで、各年代の人が参加しやすいイベントになる。
- ・気が付くと防災の役に立っているような行事にしていく取り組み。
- ・子どもとお年寄りが一緒に楽しめるイベントを開催する。
- ・地域間の壁を破った交流活動が必要。
- ・人の集まらない行事は見直す。
- ・地域の要望とマッチした行事に近づける。
- ・若者や子供が行きたいと思う行事にする。
- ・住民主体への流れをつくる。(行事の企画も同様)
- ・子どもが少ないので町内会の運動会等、活気が無くなっている。止めたほうが良いという意見が多い。
- ・現在、やらなくてはいけない行事ではなく、参加する人々が主体的に関わる行事を計画中です。実施までに長い期間が必要と思いますが頑張りたい。

- ・形式的なもので無く、面白いイベントを行う。
 - ・参加対象者が偏っている現状がある。若者向けや親子で参加するイベントが必要。
 - ・主催の意図が参加者に伝わっているか確認し、行事を見直す。
 - ・若者がもっと集まれる場をつくる。
 - ・参加する人に同じ人が多い。もっと参加者を増やすための見直し。
 - ・高齢化、若者不足を考慮。
 - ・若者が参加できるイベントをもっと増やすことが良い。
 - ・公民館の活用について考慮する。
 - ・身の丈に合った規模の内容と行事とすべき。
 - ・子どもが参加しやすい環境と行事にする。
 - ・高齢化が進んでいるので、高齢者が健康で暮らせるような活動を推進する。（子供には目を向けるが、高齢者への対応が遅れている。）
 - ・マナー化しないこと。
 - ・世代交代と継続できるコミュニティーづくりが必要。
 - ・幅広い世代が参加できる行事。
 - ・若者が参加できる行事が必要。
 - ・少子高齢化の対応が必要。
 - ・時代に合ったものを行う。人口減少の対応。
 - ・若者向けのイベントの必要性。他の団体とコラボ活動。
7. あなたは、地域づくりには地域住民との関わりが必要と考えていますか。
- ①必要 38 ②不要 0 ③どちらともいえない 3
8. あなたは、地域とどのように関わりたいと考えていますか。
- ①積極的に関わる 24 ②関わらない 0 ③依頼されれば関わる 17

<講座について>

9. 講座の内容についてお聞かせください。
- ①役に立った 41 ②役に立たなかった 0
10. 今後、このような講座があれば参加しますか。
- ①参加する 40 ②参加しない 1

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2017.1.23 2017年3月1日発行号

VOL.29



地域リーダーとしての地域貢献

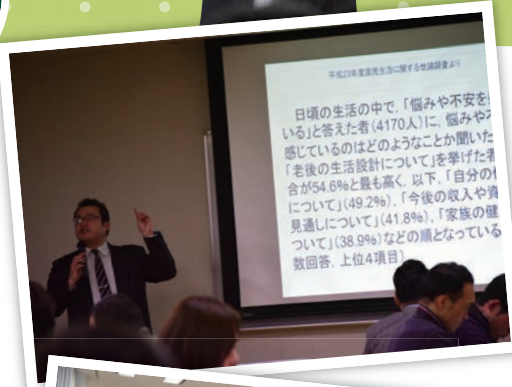
1月23日(月)に高山市との共同開催で、高山市役所保健センターを会場に、「地域リーダーとして地域貢献」をテーマにしたぎふフューチャーセンターin高山を開催しました。今回のフューチャーセンターは、高山市のまちづくり協議会からの推薦者38人と高山市職員9人の合計47人が参加しました。

高山市では、地域で新しいまちづくりの形として20地区にまちづくり協議会が立ち上がり、その活動が本格的に運用されて2年目を迎えました。まちづくり協議会の組織・活動が持続し、活発化するために、次世代を担う若者等が対話しコミュニケーションを図る中で、将来のビジョンを創造し、自身の役割と取り組みを考える場として、ぎふフューチャーセンターを開催しました。

今回は、COCセミナー「The学」(テーマ:「地域の課題とリーダーの姿」)を同時に開催し、参加者は講義を聴講し情報を共有した後に、自分ができる地域貢献という視点から地域の課題とその解決策について対話しました。

地域の課題として、「若者が地域に関わらないこと」、「地域の行事がマンネリ化」、「地域の組織体制と役員の負担が大きな問題」、「地域の情報が若者に届かない」といった意見が出されました。そして、その解決策として、「地域が若者の意見を積極的に聞き入れる体制づくり」、「多様な人々たちとの意見交換の場を積極的に開催すること」などが提案されました。

次世代を担う参加者が、今回の課題・解決策を踏まえて具体的な取り組みへと展開させ、地域のリーダーとして活躍することが期待されます。



今回のまとめ

- 地域が若者の意見を積極的に聞き入れる体制をつくる
- 若者が地域振興を前向きに捉えて新しい感覚でアイデアを提案する
- 身近な情報や各地域の情報を地域住民に発信する
- 多様な人々たちとの意見交換の場を積極的に開催する

各グループからの
意見・アイデア



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

ぎふフューチャーセンター×地域志向学プロジェクト

地域志向学とは何か
研究対象となっている「地域」とは何か

平成 29 年 2 月 14 日（火）

会場：岐阜大学インキュベータ施設 1 階ミーティングルーム

主催：岐阜大学

「地（知）の拠点整備事業」×「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」 平成 28 年度 ぎふフューチャーセンター×地域志向学プロジェクト	
会場	岐阜大学インキュベーション施設 1 階ミーティングルーム
日程	平成 29 年 2 月 14 日（火）16:00～17:30
背景	複雑・広範化している地域の課題に対して、複数の学問領域の協働による解決に向けた取組みを推進するために、地域協学センターでは毎年「地域志向学プロジェクト」として研究支援を行っている。一方で「地域志向学」の明確な定義はまだなく、どのような価値づけがなされるのかは各プロジェクトに依っている状況である。 そこで今回のフューチャーセンターでは、まず「地域」と「地域志向学研究」とのかかわり方を洗い出し、地域志向学で言う「地域」とは何かを、関係する研究者間で共有したい。
目的	①地域志向学研究における地域と研究者のかかわりを洗い出し、研究対象である「地域」に含意される要素を明らかにする。 ②地域志向学プロジェクトとして個別に実施されている各研究の、研究者同士の横のつながりをつくる。
テーマ	地域志向学とは何か―研究対象となっている「地域」とは何か
内 容	①自己紹介・研究紹介 ②地域との具体的なかかわり方 （③地域志向学者（というものがいるとして）が研究対象とする地域とは何か）
参加者の構成と人数	研究者 12 人（1 人当日病欠） 【内訳】プロジェクト A 採択研究者 5 人、プロジェクト B・教育プロジェクト採択研究者 5 人、センター関係研究者 2 人 地域関係者 4 人 学生 4 人
対話の方法	5 人／4 グループ、KJ 法
ファシリテーター	地域協学センター 特任助教 塚本明日香
当日のスケジュール	15：00～16：00 会場設営・学生との最終打合せ 16：00～16：10 部門長挨拶・趣旨説明 16：10～16：45 セッション① 16：45～17：20 セッション② 17：20～17：35 発表 17：35～17：40 事業担当理事挨拶
主な意見と学生の感想	■1 班 ○地域に入って研究することの困難さ （研究者）「余計な仕事が増えるのでいい反応がない」「立ち入らせてもらうのに県、市の許可が必要」「研究成果の公表に理解を得るのに時間がかかる」「学生以外は大学と無関係だと思われている」 （地域）「地域が研究対象となることへの抵抗」「期待とはズレがあった」「研究者がやりたいことと地域側のニーズのマッチングが上手くできていない」

	○地域とかかわる際の心構え （研究者）「年間を通して出かけていき、学校の先生や子どもと一緒に行く」「まずは研究目的ということは横において、地域の人と雑談をする」「地域の頼りになる人（キーパーソン）に出会うと道が開ける」 ○学生の感想（地域科学部3年生） これらの意見や話し合いを通して、私は研究者と研究者を受け入れる側の行政や地域住民のマッチングの機会が大切だと感じた。今回の話し合いから、お互いがどのようなことをしているのかよく知らないという問題点が出てきた。研究者側から言えば、こんなにすごい役に立つ研究をしているのに、十分に研究内容が地域に伝わっていない。地域側から見れば、大学の研究対象というだけで抵抗感を抱いてしまい地域のニーズを研究者側に伝えられていない。お互いに何を求めているのか、地域にはどんなニーズがあって何を必要としていて、研究者はそれに対して何ができるのか、自分の研究を生かせるかどうかを知ることが大切なのではないか。お互いの状況や研究活動を十分に理解していなかった結果、期待とのズレが発生することにつながり、より地域側と研究者との溝を深めることになってしまう。研究者側から積極的に働きかけ年間を通して地域に通い、住民の方との雑談を通して仲良くなることも大切なことなのではと感じた。 以上のことから、研究者側と地域のマッチング機会の構築こそが、研究者が地域に根ざし、地域に貢献するために必要なことであると私は考える。 ■2班 ○地域志向学プロジェクトを通して人とのつながりが得られた 「人脈」「座談会（軽い勉強会）」「まつりを一緒にやる」「必ず挨拶する」「気楽な人との関わり」「大人の学校」「学生の演習の場」「ヤギはかわいい」「除草すれば人が集まる」 ○プロジェクト、連携継続のためにはお金の回る仕組みが必要 「研究：稼ぎにならない—お金を出してもらえない」「お金が回るシステム」「行政の持ち出しはあるか（人手・金）」「継続性はあるか（補助期間）」 ○学生の感想（教育学部学校教育講座2年生） 私の入った班には二人の研究者がいらっしゃった。一人目の先生は、町中に研究室をおき、ワークショップなどを行うことで、町と地域と大学の関係がどう変わっていくかを研究対象としている。話の中で印象的だったのは、岐阜大学全学部の授業や研究を柳戸キャンパスや岐阜駅前のサテライトキャンパスで行うのではなく、もっとあらゆる場所、地域に散らばるべきだという話である。一学生としては、学生生活を送るうえで、全学部が同じキャンパスにあるからこそその魅力があると思ってしまったが、散らばらないからこそ大学は閉鎖的になってしまい、研究と地域との連携がとりづらいというのも納得できた。大学は個性豊かな人が集まる一つの社会だと思っていたが、それは高校と比べたときの話であって、一歩引いてみると、大学は閉鎖的であると気づくことが出来た。 二人目の先生は、ヤギの放牧による公共緑地の管理と地域活性を研究課題としている。研究内容は、素人が聞いても、むしろ素人が聞くからこそなのか、画期的だと感じた。問題点もあるのだが、管理放棄された緑地に、草刈機の代わりとしてヤギを使うというのは面白い。岐阜県どころか日本中、世界中に管理の行き
--	--

届かない緑地が存在すると思うので、植生やコスト面の問題を乗り越えて、このビジネスが広がっていったら良いと思った。

■3 班

○学生の役割

「若者は地域に溶け込みやすい」「学生は歓迎される。大学の先生は遠慮されがち」

「地域に学生が入るニーズがある。例：お祭り（高齢化）の人が少ない、消防団」「先生だと、研究→不審者？」

○地域の人の役割

「地元の人→何かを伝えたい」「若者への期待を伝えたい」「年配の方の記憶!!←昔の人の記憶をたどると歴史がわかる（水の問題など）」「シニアの経験（うんちく）を伝えることも大切!!」「昔話をしていただく（説教も…）」

○交流について

「地域課題を探す」「祭りへの参加→情報収集・交流」「地域へ行く（研究）→気を使っていく」「列車等での移動で雰囲気の変化を味わう。徒歩がベスト」「研究でフィールドに出ると地元が教えてくれる。地域はもっとして欲しい・知って欲しい」

○成果

「岐阜県はなにもない？←気づいてないだけ」「普通の人と普通の会話から」「地元の人が魅力を再発見」

○学生の感想（教育学部学校教育講座2年生）

今回のフューチャーセンターを通して、今までぼんやりとしか理解していなかった「地域」というものについて、改めて理解を深めることができました。また、普段かわることのできない方々と話をさせていただいたことは、貴重な経験であり、このフューチャーセンターに参加できてほんとうによかったと感じた。

特に、実際に地域への調査に何度も行った経験のある方々の話を聞いたことが、「地域」に対する理解を深めるきっかけになりました。地域に赴き、普通の人と、普通の会話をする中で、地域にとって当たり前だったことが、研究者にとっては大きな発見だったりすること、また調査されたことによって、地域の新たな魅力を発見できることなど、経験したからこそわかる地域調査の良さを知ることができました。地域の方々（特に年配の方々）は若者に対しての期待が大きく、だからこそ学生は歓迎され多くのことを伝えようとしてくるということを知り、自分も機会があれば、地域の調査に出かけてみたいと感じました。

地域と関わっていくことが、自分たちにとっても、地域にとっても良いことだということを知ることができたので、今後積極的に地域のことを調べ、関わりをもっていけるようにしたいと思います。

■4 班

○地域の定義が違ふと関わり方も変わる

「公的機関とのかかわり方」「距離感をどう持つか」「連携を継続するには」「地域はそれぞれ」「地域をつなげる」「自治体とのつきあいを大切にする」「地域にとってのメリット」「比較。岐阜の話でも岐阜外へ目をむける」「発信力」

	○大切なのは問題意識を研究者と地域で共有すること 「受益者＝地域」「行って話を聞く」「どこにどれだけ力をいれるか、優先順位」「地元の気持ちを大切にする」「信頼関係をつくる」「シナリオを提示する」「意思決定はあくまで地域がもつ」「地域主体。要望を汲む」 ○学生の感想 今回のフューチャーセンターでは、まず、KJ法という前提があったにも関わらず、結局自分たちで聞いた事、感じた事を附箋にメモするだけで、それぞれの整理に使ってだけで、KJ法は利用せずの進行方法で、内容としては一人の先生の話から他のメンバーが質問をして広げていった感じになりました。 この話し合いで一番印象に残っているのは、地域が問題を認識できているかで、認識できていないなら、問題提示、できているなら地域の人たちがどうしたいかを明確にしてもらい、その目標に沿う手伝いをするという事で、研究者側が何かしろと命令するのではなく、地域の意思を実現する手伝い程度で、ついでにその経過などのデータを取っている、自分からこうしろとは言わないようにしているのだと知りました。また研究や、解決対象次第では、どうしてもお金が必要になる（外国人滞在者の子どもの学習問題など）という事も知りました。 私のいたグループのまとめで出た、地域と一言で言っても様々なので、難しいというのはこの話し合いでの意見交流を聞いてよくわかりました。また、長続きする関係の作り方もわかった気がしました。
今後の展開	今回の対話を通じて、地域との関わりを洗い出すための視点として、行政との相互理解、地元住民との関わり、学生の役割、問題意識の共有といった切り口があがってきた。まずは漠然と関係性に洗い出した今回の成果を踏まえ、次年度以降より視点を絞り込んだ形で継続開催していくことで、地域志向学の何たるかを形作っていく。
企画担当者 所見	プロジェクトA採択者には要件として地域志向学に関するフューチャーセンターへの参加が義務付けられている。そこでこれまでは中間発表と意見交換という形でフューチャーセンターと位置付けて実施してきた。 3年目となった地域志向学プロジェクト推進事業について、地域志向学の何たるかを考える機会を設けたいと考えたのが最大の問題意識である。何とか学というのであれば、対象と方法論を明確にするべきであろうが、様々な分野の研究者がそれぞれに研究を進めている状況で方法論を論じることが難しい。そこでまずは対象となる地域について焦点を当てた。 そもそもどのようなかかわり方をしているのか、それについてどう感じているのかを整理することが今回の第一目標である。したがってセッション③として地域とは何か、を掲げはしたものの、②の内容の整理に時間が必要であればそれで良しとした。 多様な研究者が互いに話をしやすい場をつくるための仕掛けとして、学生をグループリーダーとして各グループに配した。いずれもSA（スチューデント・アシスタント）としてセンターの活動に長く関わっている学生であり、こうしたグループワークにも慣れている。予め企画者の意図と彼らの役割について丁寧に説明する時間を設けたことで期待通りもしくは期待以上の働きを得ることができた。 今回得られた様々な切り口を参考に、今後も少しずつ地域志向学とは何かについて考える機会を持つこととしたい。

(地域協学センター特任助教 塚本明日香)

平成28年度 岐阜大学COC「地域志向学プロジェクト」公募採択一覧

分類	プロジェクトテーマ	研究課題名	所属・職	氏名(代表者)
研究プロジェクトA (5)	【高齢社会】	認知症のある高齢患者と家族が安心して看護を受けられる地域ネットワークづくりに向けた研究	医学部・助教	温水 理佳
	【環境】	まちなか研究室の創造によるソーシャルキャピタルの展開	工学部・准教授	出村 嘉史
	【環境】	中山間地域における自然と人との調和の“これからの形”を考える	応用生物科学部・助教	安藤 正規
	【過疎】	岐阜・白川茶のブランド継続のための魅力づくり	工学部・准教授	神谷 浩二
	【過疎】	都市部から離れた中山間地の農場へのPOCT技術の導入	応用生物科学部・准教授	猪島 康雄
研究プロジェクトB (7)	新規	岐阜県の多文化共生コミュニティの課題—外国とつながりのある子どもの就学と就労を中心に—	教育学部・准教授	坂本 一也
	新規	岐阜県に特徴的な肺吸虫感染経路の解明	応用生物科学部・准教授	高島 康弘
	新規	揖斐川町・伝統野菜の探索と利用	応用生物科学部・教授	宮川 修一
	新規	ヤギの放牧による公共緑地の管理と地域活性	応用生物科学部・准教授	八代田 真人
	新規	地域における防災組織立ち上げを促進する要因分析～美濃東部防災力強化ネットワークを対象として～	流域圏科学研究所・准教授	小山 真紀
	継続	岐阜大学「絶滅危惧植物データ管理運営チーム」プロジェクト	教育学部・准教授	須山 知香
	継続	地域文化を生かした野生動物資源の持続可能な利用に関する文理連携型研究	地域科学部・助教	山口 未花子
地域志向教育プロジェクト (4)	授業分析の事例研究(平成28年度後学期)		教育学研究科・教授	石川 英志
	初年次セミナー(1年次前期), 公衆衛生看護学概論(2年次前期), 公衆衛生看護方法Ⅰ・Ⅱ(4年次前期)		医学部・准教授	小林 和成
	地域ブランドと地域振興(富有柿倶楽部)		応用生物科学部・助教	落合 正樹
	牧場実習		応用生物科学部・准教授	八代田 真人

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2017.2.14 2017年3月15日発行号

VOL.30

研究者と地域との関わりを整理

地域協学センターでは、地域の課題に対して複数の学問領域の協働による解決に向けた取り組みを推進するために「地域志向学プロジェクト」の研究支援を行っています。研究プロジェクト採択者の参加を募り、2月14日(火)、「地域志向学とは何か―研究対象となっている「地域」とは何か」をテーマにフューチャーセンターを開催しました。

各グループの進行役は学生が担い、地域関係者も交えた状態で、最初に研究者がそれぞれの研究内容について説明しました。具体的な研究活動のイメージを共有した後、研究者と地域との関わりについて自由に意見交換を行いました。行政との相互理解の重要性、地域で研究活動を進めるときの学生の役割、地域住民との関係性の構築、問題意識の共有等、グループごとに様々な視点が出されました。

地域志向学に関するフューチャーセンターは今後も継続的に開催します。今回の成果をもとに、次年度以降さらに視点を絞り込んだ形で対話の場を作っていく事で、地域志向学の形を明らかにしていきます。



今回のまとめ

- 研究者と行政や地域住民とのマッチングの機会が大切
- プロジェクトを通して地域の人とのつながりが得られた
- 地域にとっての当たり前が研究者には大きな発見になることもある
- 学生が入ることで地域の方が多くのことを伝えようとしてくれる
- 大切なのは問題意識を研究者と地域で共有すること

各グループからの
意見・アイデア



地域の意思を実現するお手伝い

岐阜大学教育学部2年

藤浦 司 さん

一番印象に残っているのは、研究者が地域の問題認識について、認識がないなら問題提示をし、あるなら地域の人たちの意思を明確にってもらってそれに沿う手伝いをするという事です。手伝うついでにデータを取る、自分からこうしろとは言わないようにしていると知り、地域と長続きする関係の作り方が分かった気がしました。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>
[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点

ぎふフューチャーセンター

FD・SD

(Faculty・Staff Development：教職員向け研修)

平成 28 年度 岐阜大学 新任職員研修フューチャーセンター	
日時	平成 28 年 4 月 18 日（月）14 時～16 時
場所	旧早野邸（大垣市）
目的	岐阜大学の新任職員研修（SD）の一環として、新任職員がこれまでの研修を踏まえて、大学の構成員として大学のあり方を主体的に考えることで当事者意識を高め、今回のフューチャーセンターを通して、大学職員個人として大学の地域貢献に向けて何ができるかを明確に意識し、業務に臨めるようになることを目指す。 新任職員研修の一環で大学職員として地域と向かい合うかについて対話し、最後に職員として個人がすべきことを宣言しその後の業務に反映させることが期待できる。
テーマ	地域にとけこむ岐阜大学を創造する —大学の職員（スタッフ）として地域とどう向き合うか— <サブテーマ> ①これまでの大学像（個人のイメージ）と研修後の大学像の違いは？ ※研修で得た知識や経験を踏まえて、大学イメージのギャップについて互いに語る ②地域にとけこむ未来の岐阜大学を創造する ※①を踏まえて、地域を意識した魅力ある将来の岐阜大学像について互いに語る（特に、若者が魅力を感じる大学とは？） ③地域にとけこみ魅力ある岐阜大学にするためにすべきことは何だろうか？ ※②を踏まえて、あらゆる角度から何をしたらよいか、その方策等を考え提案する（職員個人としてすべきこと宣言につなげる）
参加者構成	参加者 20 人（新任職員 15 人、地域協学センター関係者 5 人）
対話の方法	地域協学センタースタッフが参加者として関わるとともにグループワークをサポートする（対話の促進等）
ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター特任准教授
内容	14：00～14：10 趣旨・FC・グランドルールの説明 14：10～14：20 自己紹介・アイスブレイク（簡単なワークを行う） ウォーミングアップ「岐阜県はどんなところ（良い点・悪い点）」 14：20～14：40 ①これまでの大学像と研修後の大学像の違いは？（青色付箋） 14：40～15：00 ②大学の地域との向き合い方で課題や問題は何か？（黄色付箋） 15：00～15：20 ③大学が組織として②の課題や問題をどのように解決できるか??（赤色付箋） 15：20～15：30 まとめ 15：30～15：40 発表 15：40～15：45 宣言検討（職員個人としてすべきこと） ※A4 用紙に名前と宣言内容を書き込む 15：50～16：00 グループで個人宣言の共有化 16：00 研修終了

平成 28 年度フューチャーセンター部門検討事項に関する報告

平成 28 年度フューチャーセンター部門検討事項に関する報告

地域協学センターフューチャーセンター部門において、平成 28 年度はこれまでのぎふフューチャーセンターのあり方について議論を行い、以下 6 点の取り組みを行った。

1. ファシリテーション技術向上にむけた研修会の実施

「創発を起こす話し合い方を学ぶ」と題し、フューチャーセンター部門副部門長出村嘉史准教授により、地域コーディネーターをはじめフューチャーセンター構成メンバーにも学生と一緒にぎふフューチャーセンターのあり方を見直す機会として、11 月 9 日(水) 13 時～14 時 30 分に研修会を実施した。

単発的なアイデア出しで終わってしまいがちなセッションを、内容を深め新たな展開を興す場にするための話し合いの仕方を実践的に学ぶことを目的とした。創発、すなわち既存のアイデアの羅列の中から、思いがけないアウトカムを出現させるための心構えを数度の練習の中で確認できた。

(当日の参加者：学生 15 名、地域 CD6 名、特任助教 3 名、兼任教授 1 名と計 25 名)

2. 多くの学生を対象とした大規模なフューチャーセンターの実施

フューチャーセンター自体の開催が目的ではないため、規模を拡大するよりはフューチャーセンターへの関心を喚起する内容を検討する。例えば、入学後すぐに 1 年生対象とした選挙啓発(若者よ投票に行こう)など、リピート的なフューチャーセンターを実施していく。

3. 工学部学生対象としたぎふフューチャーセンターの PR

必修科目である「技術表現法」において、8 回目に地域 CD が地域課題を提案し、14 回目に解決方法の発表会に参加する形式は今年度まで実施している。来年度以降は地域 CD が 8 回に具体的な地域課題を提案した上で、希望者には現地開催のぎふフューチャーセンターへ参加し、地域と交流しながら議論できる機会を模索する。

4. ぎふフューチャーセンターの開催促進

地域協学センターが主に実施する以外にも全学の教職員や学生にぎふフューチャーセンターを開催していただくため、「ぎふフューチャーセンターの実施開催に関するガイドライン」を策定し、その内容を周知するためのチラシを作成、配布した。

同時に、ぎふフューチャーセンターの開催に関する申請に対する対応手順を確立し、ガイドラインの作成及びチェックシートを用いることで迅速に対応できるようにした。

さらに、毎年、地域志向学プロジェクトでぎふフューチャーセンターを開催することとした。

5. ぎふフューチャーセンターの計画的な開催

例年、地域 CD が新年度に着任することもあり、前学期分の開催は 6 月以降になる傾向と PR 期間が十分に取れないことが課題となっている。そこで、地域 CD は来年度前学期分までの内容を検討、計画し、異動等にも対応できるように引き継ぐようにする。

6. ぎふフューチャーセンターのさらなる広報

ぎふフューチャーセンターor 次世代地域リーダー育成プログラムのポスターを作成し、学内に掲示する。隔月発行している FC 通信を拡大してポスター形式で全共掲示板へ掲載することとし、今年度から実施した。

また、地域協学センターやぎふフューチャーセンターに関する PR を全学共通教育および各学部モニターで放映できるように、「学務部教務課教育改革推進係」と連携し、ぎふフューチャーセンターのチラシと FC 通信を掲載することとし、今年度から実施した。

国立大学法人 岐阜大学
ぎふフューチャーセンター実施報告書
平成 28（2016）年度版

編集・発行 地域協学センター
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
TEL. 058-293-3168
FAX. 058-293-3167
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>
発行月 平成 29 年 3 月

